

政策提言報告書

2018年3月

千葉市まちづくり未来研究所(第2期)

報告書目次

はじめに

1. 繩文のまち活性化プロジェクト
2. 大賀ハスのまち活性化プロジェクト
3. 千葉氏のまち活性化プロジェクト
4. 海辺のまち活性化プロジェクト
5. 4つの資源共通プロジェクト

今後の活動

はじめに

【研究員】八巻 竜太郎

「千葉市まちづくり未来研究所(第2期)」研究員16名は、一年半に渡り「都市アイデンティティによるまちのデザイン」をテーマに研究活動を行ってきた。本政策提言報告書は、千葉市『都市アイデンティティ戦略プラン』に定められた千葉市固有の歴史やルーツに基づく4つの地域資源（「加曽利貝塚」「大賀ハス」「千葉氏」「海辺」）を活用して「千葉市らしさ」の見える化を推進し、千葉市らしい特徴と魅力のある都市空間を形成するために進めて来た研究活動の最終報告書である。各章の個別の政策提言に入る前に、研究活動の概要を説明し「まちづくりの5つの柱」に至った経緯について述べる。

1. 研究活動の全体概要

グループ分けや研究方法、スケジュール等は、全て研究員が自主的に決定して行った。具体的には、以下に示す諸々の研究活動については各資源毎の分科会で行い、月1回の全体会議で、各分科会の活動を共有化、政策提言の方向性など共通事項を議論した。

(1) 全体会議：月1回、千葉市中央コミュニティセンター会議室にて全18回開催。

(2) 分科会ミーティング：必要に応じて各資源毎の分科会を開催。ほぼ月1回。

(3) 現場観察（フィールドワーク）

：はじめに全員で各資源の全体観察を実施し、以降は分科会毎に観察。

(例) 加曽利貝塚、東大総合運動場、稻毛海浜公園、千葉市郷土博物館

飛ノ台史跡公園博物館、町田市大賀藕絲館、鎌倉観察、千葉港クルーズ

(4) 関係機関との意見交換

(例) 千葉市文化財課、政策調整課、蓮文化研究会、公園管理課、海辺活性化推進室

(5) 市民アンケート

(例) 市内小学校12校、大賀ハスまつり、千葉市フォーラム、検見川ビーチフェスタ

(6) 実地活動：実地活動としてイベントへの参加、または主催を行った。

(例) 加曽利貝塚縄文春まつり、頼朝の房総渡海プロジェクト、検見川ビーチフェスタ

(主催) 大賀ハスシンポジウム、大賀ハスまつり、旧東大緑地植物実験所観蓮会

(7) 市長中間報告会：2017年10月28日、熊谷市長に政策提言後、関係部署と意見交換。

2. 政策提言に向けた全体討議

全体会議では、以下の様にまず、各資源毎に『特性評価』に基づき現状分析を実施し、「10年後の理想の千葉市」と言う観点で『共有ビジョンの構築』を行った。さらに、各資源からの『政策提言のための共通のコンセプトとなり得る視点』を5つに絞り込み、各資源の政策提言の核とし、『まちづくりの5つの柱』とした。

(1) 現状分析～各資源の特性評価～

- ・【総合】ブランド力特性・・・愛着、誇り、発信力、など
- ・【商業的側面】観光力特性・・・コンテンツ、アクセシビリティ、など
- ・【学術的側面】学術特性・・・歴史、文化、教育、など
- ・【景観／自然環境的側面】自然／景観特性・・・景観価値、環境保全、など
- ・【日常生活的側面】くらし／市民生活・・・市民の活躍、コミュニティ、など
- ・【体制】組織・協働・連携・・・支援組織、連合協議会、など

(2) 共有ビジョンの構築

⇒「自然・歴史文化・現代性を大切にし
市民全体で自立した
人が集まる居心地がいい誇りの持てる街」

(3) 政策提言のための視点

「生活密着」「社会貢献」「環境整備」「情報発信」+「都市の回遊性」

(4) まちづくりの5つの柱

- ① 日常的に見て感じて触れることのできるまちづくり
→【生活密着】中心コンテンツの魅力アップなど
- ② 市民全体のひとを育てるまちづくり
→【社会貢献】市民ボランティアの推進と民間連携機関の設立など
- ③ 4つの資源の核となる拠点づくり
→【環境整備】中心拠点、サテライト拠点など
- ④ 国内外に向けたまちの価値の発信
→【情報発信】サミット、シンポジウム、まつりイベントなど
- ⑤ 千葉市らしさを感じるまちなみづくり
→【都市の回遊性】ヒストリーパス、ネイチャーパス、シンボルストリートなど

1 縄文のまち活性化プロジェクト 政策提言



【研究員】遠藤智世、太田正孝、押尾衛、加納弓、竹内英二、宮下登久子

目次

- 1. 背景、現状・問題、方向性、加曾利貝塚概要**
 - 1.1. 背景
 - 1.2. 現状・問題
 - 1.3. 方向性
 - 1.4. 加曾利貝塚概要
- 2. 政策提言**
 - 2.1. 情報発信
 - 2.2. 博物館の建設
 - 2.3. 縄文の森公園パークレンジャー制度の創設
 - 2.4. 貝塚公園の整備
 - 2.5. 遊び場としての縄文の森や公園の整備
 - 2.6. 加曾利貝塚周辺における「民泊・飲食施設」等の整備
 - 2.7. 加曾利貝塚までのアクセス改善
 - 2.8. 坂月川ネイチャーパス、散策路の整備、丸木舟レース
- 3. 参考資料**

1. 背景

日本全国には縄文時代の貝塚が 2400 か所ほどある。千葉市はその内約 130 か所を数え、最大の貝塚都市である。なかでも加曽利貝塚は全国的に代表的な貝塚遺跡である。

かつて、日本が高度成長の時代、加曽利貝塚にも開発の波が押し寄せた。この時加曽利貝塚を守れと立ち上がったのが千葉高教諭武田宗久氏と多くの千葉市民だった。この市民運動の高まりにおされて、千葉市は貝塚史跡を全面的に買収した。さらに市は市民の熱意にこたえ、当時としては珍しい遺跡博物館と野外観覧施設を建設した。

時が経ち、市民の熱意も冷め、施設は老朽化し、加曽利貝塚は次第に世間から注目されなくなってきた。しかしこの状況を打破したのが今回の特別史跡指定である。

昨年 10 月の特別史跡の指定は、改めて加曽利貝塚のすばらしさを宣言するものであった。

指定以来多くの人々が再び来館するようになった。と同時に加曽利貝塚の環境の不備が指摘されるようになった。それは貧弱な展示室、トイレ環境、アクセスの分り難さ諸々である。

この特別史跡指定を好機として、私たちは、加曽利貝塚に来る多く人々が感銘を受けもう一度来てみたいと思える環境を整えること、また加曽利貝塚が縄文文化研究の先進的な発信拠点であること、このような姿を目標とし、世界に誇れる加曽利貝塚を作り上げていきたい。かつてここを守り保存した熱いたくさんの市民の思いを継承するために。

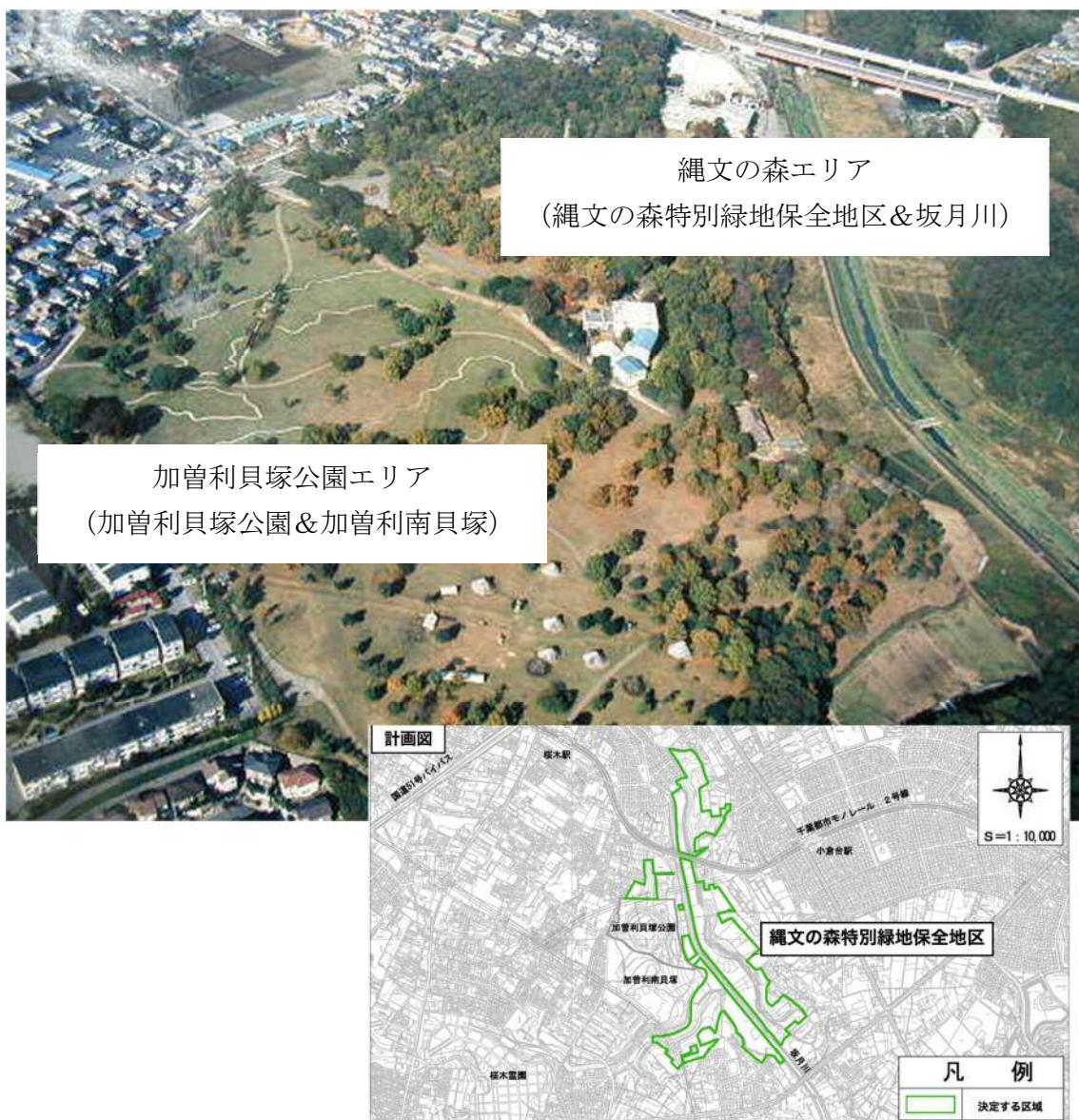
2. 現状・問題

- (1) 加曽利貝塚までのアクセス改善
- (2) ボランティアの募集・育成
- (3) 市民の協力の充実
- (4) 縦割り行政の統合調整機関の創造
- (5) 総合的な情報発信
- (6) 魅力を感じる縄文の森の整備（多世代にわたるリピーター作り）

3. 方向性

- (1) 市民が活躍する縄文の森
- (2) 日本が誇る縄文文化の最先端拠点づくり
- (3) 国内外から人の集まる特別史跡

4. 加曾利貝塚概要



2.2.1 情報発信

1. 目的

- (1) 毎年の発掘調査をおこない、その成果の公表・発信を目的とした「縄文サミット」を開催し、学術関係者のみならず市民にも情報発信をおこなう。
- (2) 現在開催されている「縄文春祭り」と「縄文秋祭り」を毎年開催し、市民向けの情報発信や市民との協働の機会とする。
- (3) 「縄文の森」の周知にかんするイベントを行う。

2. 理由

- (1) 現在発掘調査がおこなわれているが、その成果をより多くの人に知ってもらう必要がある。
- (2) 研究者や市民に向けた学術情報発信の場や交流の機会を提供する必要がある。
- (3) 「縄文春祭り」と「縄文秋祭り」は、特別史跡化の効果もあり大盛況であった。今後、さらなる情報発信と、市民を巻き込む機会として活用するため、定期的な開催と、市民参加のしくみが求められる。

3. 内容

- (1) 学術的側面
 - サミットを定期的に開催し、千葉市が主体となる。とくに、学術的な価値を広める場として、縄文時代の遺跡をもつ自治体と連携しこれらを開催すれば、国内外への発信の機会となる。
 - 研究者や関係者によるシンポジウムを開催する。
- (2) 市民参加
 - 現在おこなわれている「縄文春祭り」「縄文秋祭り」を毎年開催する。
 - パークレンジャーが主体となって開催し、博物館と市が協力する

4. ファーストアクション

- (1) 発掘成果の公表
- (2) 縄文時代の遺跡をもつ自治体との関係構築
- (3) 縄文祭りの関係者で協議し、ボランティアが活動できる部門を作る
- (4) 縄文時代を感じられる飲食物や物品の開発

5. ゴール（目指すべき姿）

- 加曽利貝塚が国内外に知られており、「縄文貝塚遺跡といえば加曽利貝塚」と言われるようになっている。
- 縄文祭りが、パークレンジャーと市民が主体となって開催されている。

- 縄文時代を感じられる飲食物や物品が市内外に知られ、有名になっている。
- 千葉市は「縄文サミット」の初開催都市となり、加曽利貝塚周辺には、民泊を利用して多くの研究者が集まっている。

2.2.2 博物館の建設

1. 目的

多目的な機能と研究機関を備えた博物館を建設

2. 理由

- (1) 特別史跡の指定にあたり、文化庁から現在の博物館を史跡外に出すよう指導されている。
- (2) 現在の博物館は老朽化していて耐震性も希薄である。
- (3) あまりにも手狭であり、加曾利の魅力を充分に発信できていない。展示品も少なく縄文文化を学習・経験・発信するには不十分である。
- (4) リピーター客がいない。
- (5) 研究機関が併設されていない。

3. 内容

- (1) 移転先を現臨時駐車場にする。
- (2) 縄文時代が良くわかる展示が行える十分な広さを持つ展示室
- (3) 見学者への研修が行える最新設備を持つ研修室
- (4) ボランティアの控室、地域住民のためのコミュニティー室
- (5) 縄文時代関係の図書室
- (6) 縄文文化を世界に発信できる研究機関
- (7) 見学者のためのレストラン

4. ファーストステップ

- (1) 移設先の候補の一つの現臨時駐車場は、私有地であり買収交渉が必要である。
- (2) 地域は第一種低層住宅地域であるため、用途地域の変更が必要でもある。
- (3) 博物館建設の基本構想作成委員会に市民の参加を求める。

5. ゴール（目指すべき姿）

- 見学者が縄文の知識と経験に触れ、縄文文化を身近に感じられる博物館。
- 常に新しい縄文文化に触れられ、また来たいと思う博物館である。
- 縄文文化について最新情報が常に発信できる博物館であり世界中の学者学徒が来館する。
- また、地域住民やボランティアの拠り所でもある。

6. 必要な資材

- (1) 建設用地買収費
- (2) 博物館建設費用



2.2.3 縄文の森公園パークレンジャー制度の創設

1. 目的

- (1) 加曽利貝塚公園や縄文の森で活動する団体を一括する団体を設置することで、当該エリアにおける諸団体の活動の円滑化を図る。
- (2) 団体の名称は「縄文の森パークレンジャー」とする。
- (3) 「縄文の森パークレンジャー」内に以下の団体を新設する
 - 縄文の森が保全地区に指定されるので、その維持・管理をおこなう「公園メンテナンス・保全ボランティア」
 - 遊びに来た子供たちに遊び方を教える「縄文の森プレーリーダー」
 - 外国人観光客の増加に対応する「多言語ガイド」

2. 理由

- (1) 加曽利貝塚と縄文の森には、現在「加曽利貝塚博物館友の会」「加曽利貝塚土器づくり同好会」「加曽利貝塚ガイドの会」「加曽利自然観察会」「坂月川愛好会」「縄文の森と水辺を守る会」などの団体があるがそれぞれ別個に活動をしている。これらを効率的に連携し合えれば大きな力になる。
- (2) 縄文の森は広さ 22haあり、緑地保全によって規制がかかっている。中央部分には坂月川が流れ、その周囲は休耕田が荒れ放題で放置されている。小倉の森は、雑草や樹木が伸び放題である。そのため、「公園メンテナンス・保全ボランティア」を設置し、広く参加者を募る。
- (3) 特別史跡化を受け、多様な来訪者に対応する必要がある。そのため、多言語ガイドといった、従来にはないガイド方法を充実させる必要がある。

3. 内容

- (1) 「縄文の森パークレンジャー」における構成団体内での情報共有
- (2) ボランティア等の人材育成、募集の管理運営
- (3) 加曽利貝塚公園に常住の事務局を置き、運営にあたる
- (4) 坂月川を利用したイベントの実施
- (5) 小倉の森の整備と子供のあそび場の建設
- (6) ビオトープの拡大
- (7) 湿地を利用したイベントの実施
- (8) 小倉台に大須賀家、四閑家を移設・整備し民泊・飲食の運営
- (9) 「縄文の森基金」を創設し市民からの募金を管理する。

4. ファーストアクション

- (1) 事務局の設置
- (2) 検討委員会の設置

- (3) 基金の設置
- (4) NPO の立ち上げとボランティアの募集
- (5) イベントの実施。

5. ゴール（目指すべき姿）

- 加曽利貝塚や縄文の森に関心をもつ市民が、「縄文の森パークレンジャー」として関わっている。
- 縄文の森パークレンジャー事務局が、各団体のボランティアの募集や人材育成などの情報を一元的に管理しているため、各団体のボランティアの要請や、イベント時などにスムーズに対応できている。それにより、ボランティア団体が安定的に継承されている。
- 広大な「縄文の森」の保全が、近隣住民のみならず、自然保護や縄文遺跡に関心をもつ市民によって担われている。
- プレーリーライダーを導入したことにより、近隣だけではなく、より多くの子どもたちに自然に触れ合って遊ぶ機会を提供できている。とくに、自然の少ない地域に住む子供には良い機会となる。
- 縄文の森のイベント、維持・管理のための運営経費は、市民の寄付、自主事業収益、市等からの受託費用を持って賄う。

6. 必要な資源

- (1) センター設置場所（部屋）
- (2) 運営経費



坂月川と縄文の森

2.2.4 貝塚公園の整備

1. 目的

加曾利貝塚は、13.4 ヘクタールあり市民の公園としても広大である。特別史跡である研究対象としての貝塚と憩いの場としての公園、また広域避難場所としての整備が必要。

2. 理由

- (1) 特別史跡の指定を受け、多くの人々が来訪することが予想される。しかし、現在の旧態依然の手洗い所、バリアフリーになっていない観覧施設と散策通路は障害者へ失望を与える。
- (2) また、市民を含めた来訪者への休憩所の整備も必要である。
- (3) 子供の来訪が少なく、リピーターもいない
- (4) 広域避難場所としての備えがない

3. 内容

- (1) 新たな野外施設として大型建物の復原
- (2) 野外施設のバリアフリー化と外国人でも理解できる案内板や機器を設置する。
- (3) 手洗い所の整備
- (4) 樹木を伐採し貝塚の盛り上がりをよく分かるようにする。
- (5) 市民が憩える東屋を設置する。
- (6) 大須賀家を移設する。
- (7) 防災無線等を整備し、園内イベントでも使用できるようにする。

4. ファーストステップ

- (1) トイレの近代化。
- (2) 施設のバリアフリー化
- (3) 大型建物の復原

5. ゴール（目指すべき姿）

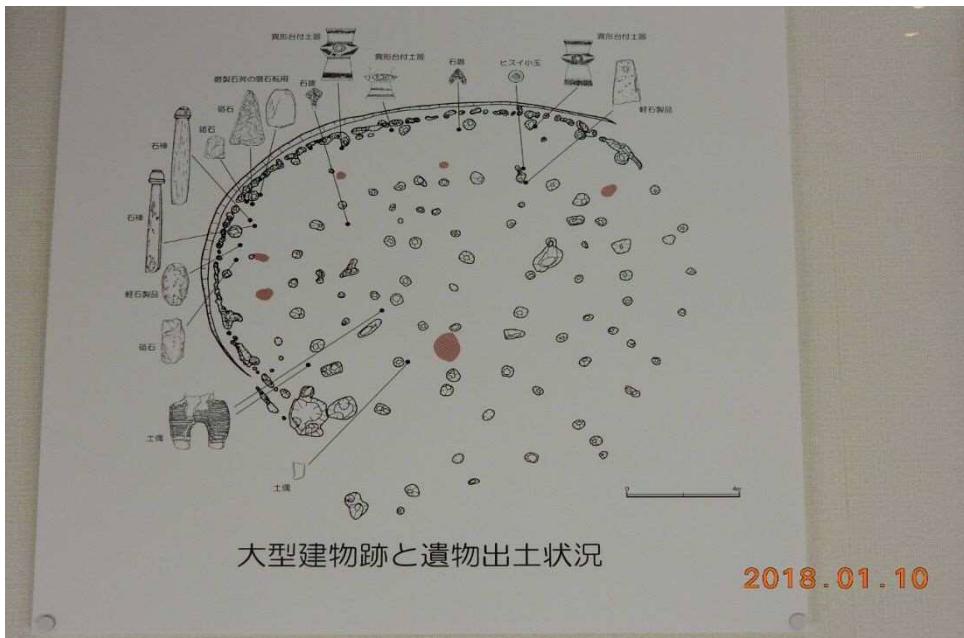
- 児童用遊具等も置いて子供が何時でも遊べる。障害者も不便な思いをすることなく施設を移動し、見学できる。外国人には野外観覧施設ごとに外国語での案内がある。
- 貝塚の盛り上がりが良くわかる加曾利貝塚公園。
- 大型建物を復原し新たな魅力を発信する。

6. 必要な資源

- (1) 整備費用
- (2) 建設費



古いままでのトイレ



大型建物跡の記録

2.2.5 遊び場としての縄文の森や公園の整備

1. 目的

- (1) 子供たちをターゲットとし、縄文の森特別緑地保全地区及び坂月川、加曾利貝塚公園エリアの全体を子供たちが遊べる縄文の森テーマパークとして整備する。
- (2) 観光資源としての加曾利貝塚の磨き上げを行い、来場者を増やすことで、公園及び周辺地域全体の活性化を図る。

2. 理由

- (1) 加曾利貝塚に最も多く訪れる来場者は、社会科見学に来る小学生たちであり、子供たちの意見を反映した公園づくりに効果が期待できるため。
- (2) 小学生たちの意見を反映した「あそび場」を設けることで、加曾利貝塚に「また来たい」と感じさせ、リピーターになってもらうため。

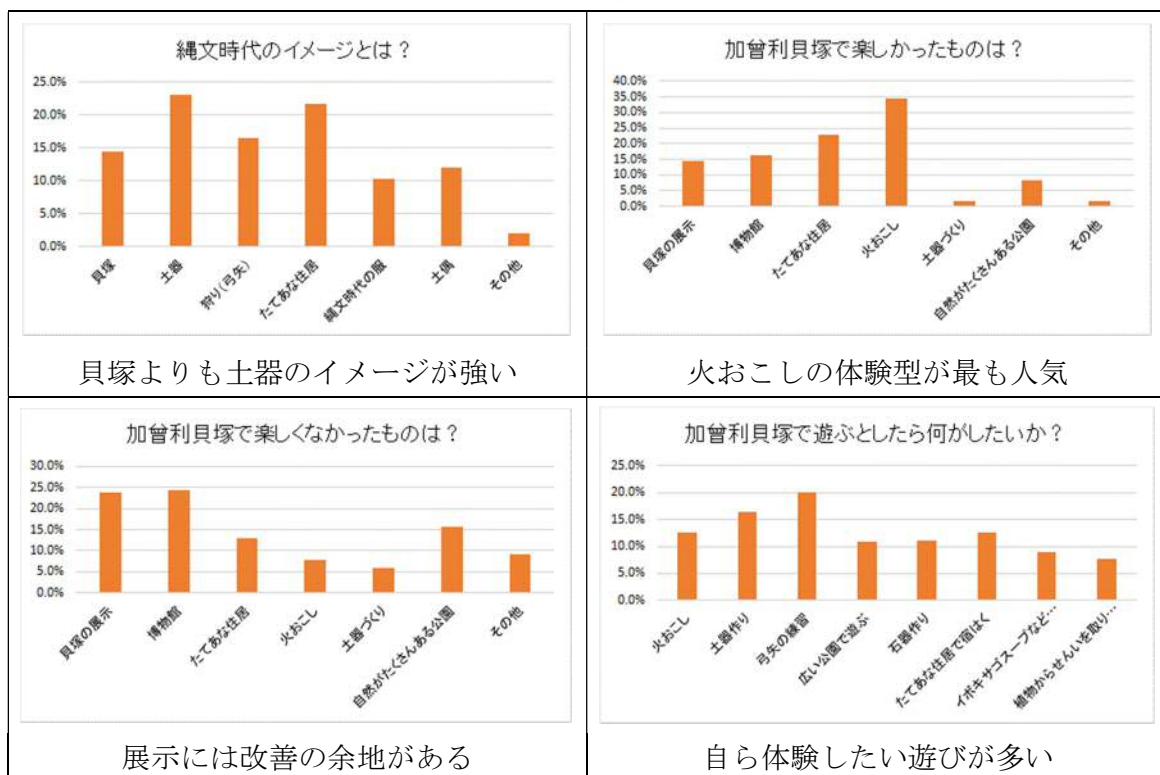
3. 内容

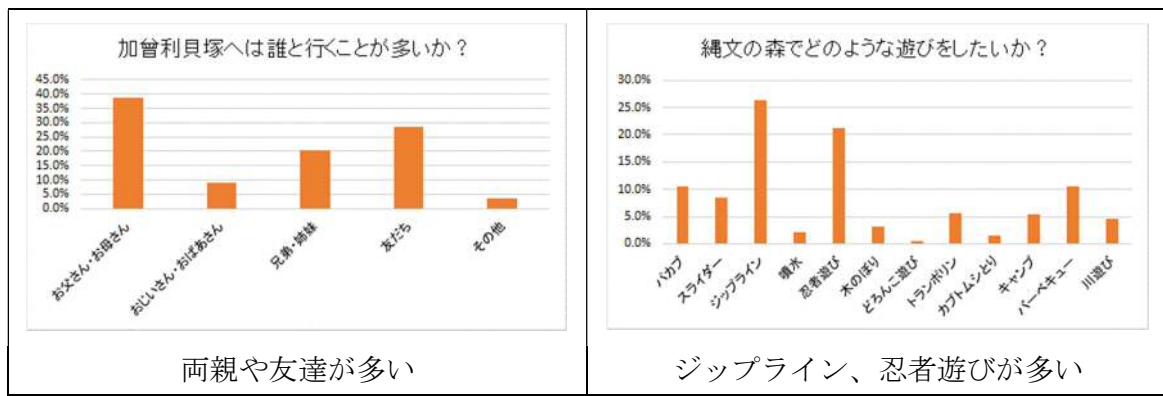
提案内容は千葉市内小学6年生アンケートに基づいた内容としている。アンケートの自由回答欄では「体験」という言葉が最頻語であったため、「体験」を重視した整備の方向性とする。

- (1) 体験型の遊び内容を整備する。

- ① 市民から貝を集め貝塚を新規に作る。
- ② 弓矢の練習、土器づくり、竪穴式住居での宿泊

- (2) ジップライン等の新たな目玉遊具を設置し、来場のきっかけを作る。





(2018年9月実施：千葉市内小学6年生776名のアンケート調査結果より)

4. ファーストアクション(最初にまず行う取組)

- (1) 貝塚作り、弓矢の練習、土器づくり、堅穴式住居での宿泊等の体験型の遊びの中から実現できる遊びをピックアップし、ボランティアの育成を行う。
- (2) ジップライン等の子供に人気があり、かつ話題性のある遊具の選定し、設置場所の検討を行う。

5. ゴール(目指すべき姿)

縄文をテーマとした体験型の公園を目指し、貝塚以外にも興味を持っている来場者数を増やす。加曾利貝塚縄文の森への観光客数を増やし、公園及び周辺地域全体の活性化を図る。

6. 必要な資源

(1) 体験型遊具

貝塚作りの場所の確保、弓矢練習場の確保、堅穴式住居の整備、ジップラインの設置

(2) 体験指導のボランティア

体験型の遊びの指導者の育成

2.2.6 加曽利貝塚周辺における「民泊・飲食施設」等の整備

1. 目的

- (1) 来訪者等のための宿泊施設を作る。
- (2) 我が国最大級貝塚の地域文化と、緑豊かな里山といった自然資源を活用し、千葉市経済の活性化を担う。

2. 理由

- (1) 研究者のため、里山自然観察する児童生徒のため、観光者のための宿泊施設を整備する。
- (2) 観光立国として国は2020年までに旅行者数と消費額倍増の目標を掲げている。千葉市に於いてもそれは目標であり、加曽利貝塚は千葉市に於ける貴重な観光資源のひとつです。
- (3) 若葉区に指定された特区民泊制度（平成29年に、若葉区・緑区一部地域に指定された）を導入し、経済効果を高める。
- (4) 現在移籍先が決まっていない大須賀家、旧四閑家を民泊施設として移設する。

3. 内容

- (1) 現在加曽利貝塚に存在する「旧大須賀家」並びに解体保存中の「旧四閑家」を国の登録有形文化財建造物制度による指定を受け、宿泊施設・飲食施設等に活用する。また、若葉区は今年国家戦略特別区域に指定された。この制度を導入し貝塚への来訪者や、日本人はじめ外国人観光客等への滞在施設を創設し、滞在に必要な役務を提供する。
- (2) 児童生徒の里山体験宿泊施設としても利用する。

4. ファーストステップ

- (1) 遺跡内に存在する「旧大須賀家」と解体保存中「旧四閑家」2棟の登録有形文化財建造物登録をし（国からの助成が期待できる）保存活用する。行政・専門家・地域住民・ボランティア団体等が構成員となり使用課題等の検討を行う。
- (2) 既に特区民泊施設特定認定事業者となられた方々との連携を諮りながら、若葉区の特区民泊エリアに存在する建物の掘り起し調査と共に事業者を募る。調査等の構成員は、地域住民・行政・専門家・ボランティア団体・特区民泊施設特定認定事業者等とする。
- (3) 大須賀家、四閑家を小倉台に移転し、民泊として活用する。

5. ゴール（目指すべき姿）

世界に誇る加曽利貝塚は保存活用等への整備が施され、周辺エリアの豊潤な大地に広が

る自然界では余暇活動が活発化し、日本を始め世界の国々からの来訪者で賑わい滞在型宿泊施設・飲食施設が繁盛する「消費額倍増の観光まち」が誕生する。

6. 必要な資源

(1) 旧大須賀家・旧四閑家は、登録有形文化財建造物登録後届出、保存活用する。

- ・ 移設場所
- ・ 移築費用
- ・ 経営する事業者

(2) 滞在型宿泊施設

- ・ 計画・調査費用
- ・ 日本文化にふさわしい建物
- ・ 経営する事業者



旧大須賀家（加曾利貝塚内）



旧四閑家（解体保存中）



旧大須賀家（内部）

2.2.7 加曽利貝塚へのアクセスの改善

1. 目的

加曽利貝塚への経路を分かりやすく、縄文文化への案内と分かる案内をする。

2. 理由

- (1) 現在の桜木駅は加曽利貝塚への最寄り駅であるにも関わらず案内表示がない。
- (2) 桜木駅から加曽利への徒歩経路が分かりづらい。
- (3) 最も近いバスの停留所も徒歩 15 分はかかるのでもっと短縮する。
- (4) 車での案内表示も不十分である。

3. 内容

- (1) モノレール千葉駅から桜木駅への案内を分かりやすくする。
- (2) 桜木駅は、「加曽利貝塚前」と駅名を改称するか、(加曽利貝塚前)というサブネームをつけ分かりやすくする。桜木駅は貝塚の駅であるという雰囲気を駅全体で表現する。
- (3) 加曽利貝塚への徒歩経路は、「縄文のこみち」という愛称をつけ縄文文化の雰囲気を伝える土器や土偶の配置を行い、わくわく感を醸し出すようにする。
- (4) バス交通は定期バス経路を加曽利貝塚まで延伸する。あるいは現在の停留所をもつと加曽利貝塚に近い所に移動する。
- (5) 車利用者には、遠距離からも誘導できるよう標識を整備する。
- (6) 外国語案内板を整備

4. ファーストステップ

- (1) モノレール会社との交渉。
- (2) 「縄文のこみち」改修に向け周辺住民の理解の促進。
- (3) バス会社との交渉。
- (4) すべての標識の見直し。

5. ゴール（目指すべき姿）

加曽利貝塚へ行こうと思う市民・外国人が、電車、徒歩、バス、乗用車等何を使っても容易く楽しくワクワク感を持って加曽利貝塚へ来ることができる。

6. 必要な資材

- (1) 広告費
- (2) 標識等製作費
- (3) 道路整備費

外国語案内板



現在の桜木駅



2.2.8 坂月川ネイチャーパス、散策路の整備、丸木舟レース

1. 目的

坂月川とその天端の整備を行い。坂月川で丸木舟レースまたはカヤックのレースを行う。また、天端の整備により加曾利の里山から東京湾まで散策できるようにする。縄文時代と変わらない坂月川周辺を保存し自然環境の生態学習や歴史を学ぶ場所にする。

2. 理由

- (1) 加曾利貝塚は、海と密着した遺跡である。
- (2) 縄文の森が、縄文時代から続く景観である。
- (3) ホタルやカワセミの来る自然豊かなエリアにする。

3. 内容

- (1) 坂月川の天端を整備し、市民のジョギングやサイクリングがおこなえる堤防散策路を海までとして活用する。
- (2) 散策路の中途には、休憩所・手洗い所を設置する。
- (3) 坂月川の流れを滞留させている土砂の浚渫を行い、東京湾と加曾利貝塚を結ぶ丸木舟やカヤックのレースを行う。東京にも近くカヤック競技等のメッカにしていく。
- (4) 放置されている休耕田の整備、荒れている山の整備を行う。
- (5) 旧大須賀家、旧四関家を小倉台に移設し、カフェ、民泊等の施設にする。
- (6) 豊かな自然で、環境学習のイベントを行う。

4. ファーストステップ

- (1) 坂月川は千葉市の管轄であり、都川は2級河川で県の管轄であるため川の整備のため両者の調整を行う。
- (2) カヤック等競技の実行委員会の立ち上げを行う。

5. ゴール（目指すべき姿）

子どもたちは、坂月川周辺で、泥遊びに戯れ、大人たちは小倉台のカフェから里山を見ながらお茶をすすり、川の堰堤では、ジョギングをしたり、自転車をこいだり、散策をしたり各自自然を楽しんでいる。今日は、寒川からここまでカヤック競技があり、ゴールのため多くの人が集まっている。そろそろ、蛍も飛びそうだ。

6. 必要な資材

- (1) 河川の整備費
- (2) イベント開催費
- (3) 小倉台の整備費と旧大須賀家、旧四関家の移築

<坂月川>



<大須賀家>



謝辞

加曾利貝塚グループにおける研究員としての活動ならびに、本提言の作成に際して、市川市立市川考古博物館、飛ノ台史跡公園博物館、千葉市文化財課の皆様にお世話になりました。また、アンケートに際しては、千葉市教育委員会、都賀小学校、山王小学校、生浜西小学校、大巖寺小学校、さつきが丘西小学校、上の台小学校、平山小学校、扇田小学校、稲浜小学校、真砂西小学校、大宮台小学校、千城台東小学校、の先生ならびに 6 年生の児童の皆様にご協力いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

【アンケート概要】

時期 : H29.9 中旬～H29.10 中旬

対象 : 千葉市内小学6年生

方法 : 学校内で書面による回答

回収数 : 776名

かそりかいづか 加曽利貝塚についてのアンケート

私たち、「千葉市まちづくり未来研究所」の研究員です。加曽利貝塚を、どのようにしたらもっと楽しくできるかを考えています。そこで、小学生のみなさんのアイデアを聞きたいと思い、このようにアンケートをすることにしました。

アンケートの結果は、誰が書いたかを分からないようにしてまとめ、千葉市長に提出する「加曽利貝塚での遊び場所についての提案」に使います。

Q1 縄文時代といえば、何をイメージしますか。あてはまるものをいくつでもえらんで、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------------|--------------|-----------|
| 1. 貝塚 | 2. 土器 | 3. 狩り（弓矢） | 4. たてあな住居 |
| 5. 縄文時代の服 | 6. 土偶（どぐう） | 7. その他（
） | |

Q2 加曽利貝塚を見学したとき、何が楽しかったですか。あてはまるものをいくつでもえらんで、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|----------------|--------------|---------|
| 1. 貝塚の展示 | 2. 博物館 | 3. たてあな住居 | 4. 火おこし |
| 5. 土器づくり | 6. 自然がたくさんある公園 | 7. その他（
） | |

Q3 加曽利貝塚を見学したとき、何が楽しくなかったですか。あてはまるものをいくつでもえらんで、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|----------------|--------------|---------|
| 1. 貝塚の展示 | 2. 博物館 | 3. たてあな住居 | 4. 火おこし |
| 5. 土器づくり | 6. 自然がたくさんある公園 | 7. その他（
） | |

Q4 今の加曽利貝塚公園で遊ぶとしたら、何がしたいですか。あてはまるものをいくつでもえらんで、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-----------------------------|---------------------|---------------|
| 1. 火おこし | 2. 土器作り | 3. 弓矢の練習 |
| 4. 広い公園で遊ぶ | 5. 石器作り | 6. たてあな住居で宿はく |
| 7. イボキサゴスープ*など縄文時代の料理を作ってみる | 8. 植物からせんいを取り出し服を作る | |

*イボキサゴ…縄文時代の人が食べていた貝のこと。今でも千葉県内の海岸でとれます。



うらにもアンケートがあるよ！

Q5 学校の校外学習以外で加曽利貝塚に遊びに行くときは、だれと行くことが多いですか。あてはまるものをいくつでもえらんで、番号に○をつけてください。遊びに行ったことがない人は、もし行くことになった場合はだれと行くかを、いくつでもえらんで番号に○をつけてください。

- | | | |
|--------------|----------------|----------|
| 1. お父さん・お母さん | 2. おじいさん・おばあさん | 3. 兄弟・姉妹 |
| 4. 友だち | 5. その他 () | |

Q6 もし加曽利貝塚の近くにある森で遊ぶとしたら、どのような遊びがしたいですか。1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

1. パカブ*	2. スライダー	3. ジップライン	4. 噴水
			
5. 忍者遊び	6. 木のぼり	7. どろんこ遊び	8. トランポリン
			
9. カブトムシとり	10. キャンプ	11. バーベキュー	12. 川遊び
			

*パカブ…森の中にネットをはりめぐらせた遊具のこと

Q7 加曽利貝塚をもっとおもしろくするには、どのようにしたらいいと思いますか。自由にかいてください (箇条書きでもかまいません)。

アンケートに
こたえてくれてありがとうございます！



Q 7. 加曾利貝塚をもっと面白くするには？

- ・ 加曾利貝塚についてのむーびーをとる。(こまかいところはなしで) 木のたねをうえる。
- ・ もっと縄文時代の生活を自ら体験出来るようにしたらいいともう。
- ・ 体験系があつたらどうですか
- ・ 体けんできるものをふやす
- ・ 私たちが体験出来て楽しく学べるもの増やす。
- ・ 花などをふやしてきれいにしてほしい
- ・ 実際に、縄文時代の服などを着ていたり、どのように過ごしていたかさいげんしたらわかりやすいと思います。
- ・ 当時の生活を体験できるようにする。
- ・ かそりーぬのグッズを売る 1日縄文時代を体験する(火をおこしてその日で料理して食べる。縄文時代の人のかっこうをするなど)
- ・ 弓矢の体験をさせてほしい 1日だけ、縄文人と同じ環境にする
- ・ アトラクションをつくる
- ・ プール造り、サッカー場
- ・ とくにありません。
- ・ 自動はんぱいきを増やす
- ・ もうすこしアトラクションを多くする
- ・ 動物を飼う 縄文時代の再現ビデオ
- ・ ここに貝塚があるとわかるようにPRする。
- ・ もっと自然の中ですることを増やすと良いと思います。
- ・ あそび場を作る
- ・ 若い人があまり来ないので、インスタグラムなどで映える場所があるといい。
- ・ もっと遊べるような所を造ってほしい。かそりーぬが歩いてほしい。トイレをきれいに、増やしてほしい
- ・ もうちょっと PR したほうがいい。カソリーヌが可愛いから、もっとカソリーヌを使った方がいい。
- ・ 当時の生活のVTRなどをあって公開する。
- ・ 少しでも遊べるトランポリンや忍者遊びがあつたらもっとお客様が増えると思います。
- ・ 土器を作れるようにすれば面白いと思います。
- ・ 面白い遊びならなんでも
- ・ アスレチックなどをふやしたり川があつたりトランポリンやプールジップラインなどがもつとたくさんあればいい。
- ・ ありません
- ・ 楽しい物であそべるようにする
- ・ 縄文時代のクイズを解きながら進む迷路があると小さな子でも楽しみながらできると思います。
- ・ かそりーぬの着ぐるみがぽんといいる、そうしたらぶんみんなよろこぶと思う
- ・ 牛やぶたなどを買う。宿はくしせつにする

- ・火おこし以外にも昔の体験をしてみたい。
- ・芸人をつれていく、アスレチックなどを作る 歌をうたう人をつれていく
- ・貝をもって帰ってもいい。土をほり貝を見つける。
- ・たべものをとりほうだい、それかバイキング
- ・博物館は見るものが多いから、もっとさわったりするのがあってほしい
- ・ゲーム式で学ぶ、(クイズなど)触っても良いものを増やす。
- ・ゲーム式にする。ちょっとした他にはないようなアスレチックを作る(小さい子を呼び込むため)
- ・アスレチックをつくる
- ・貝を食べる。！！
- ・貝の発掘体験をする。貝塚の歴史をえいがにする。(スクリーンなどに移し、貝塚で見る)
- ・弓矢づくり、アスレチック楽しいこと
- ・おもしろい人が加曾利貝塚を案内する。
- ・縄文のことをもっと知ってもらえるように、ぼすたーや体験などをたくさん の場所でする。
- ・たてあな住居ホテル
- ・話をまとめる。短く。アトラクションをふやす。移動時間にできることを考える。
- ・動物を放す。そのまま、
- ・希望者にだけユキビクスのようなガイドたんまつを貸す。
- ・子ども(小さい子)でも楽しめるもの
- ・遊具をいかし、実際にも縄文の服を着てみる。
- ・もっと遊ぶ所を増やす。
- ・おみやげをうってみればよいと思います。
- ・土器のかけらを使って宝探し。
- ・もっと体験ができるアスレチックがあるといい
- ・遊具などを作る(縄文時代ににまつわるもの)
- ・ディズニーぽくする。
- ・自然を利用したもの。じょうもん人の生活体験。じょうもん人の家ホテル
- ・もっよ、たくさんの遊びや、体験を手軽にやつたらいいと思う。(昔の遊び)(まが玉づくりなど)
- ・縄文時代の体験をもっと増やしたらいいと思う。
- ・広い公園などに遊具などがあればいいと思います。
- ・縄文時代について体験できる事をもっと増やしたら良いと思います。
- ・クイズなど楽しめて、貝塚のことを知ってもらえることをする。
- ・体験出来ることを増やす。
- ・いろんな物を作ったりもっといろんな体験をしたい。
- ・アトラクションをつくる
- ・貝塚をはつくつするような体験
- ・しせつを多くする
- ・レストランを貝塚の中につくる。(その後、食べた貝を別の貝塚から少し離れた所に入れてみんなで貝塚を少しづつつくってゆく。)

- ・スタンプラリー 宝探し
- ・ジャングルジムなど子供でも遊べる所を作った方がいいと思います。
- ・縄文時代のことが分かる仕掛けを、貝塚のいろんな部分に置いて、縄文時代にあった出来事などを体験出来るようにしたらよりよくなると思います。
- ・たてあなた住居の前とかにかんばんをたててどういう物なのかかんたんにかく。
- ・いろんなところに遊ぶところをつくる。
- ・もっと楽しくあそべる所を作ったらしいと思う。
- ・もっと知ってもらえるように「ツアーア」をひらいてみる。
- ・自然が残されているので昆虫をたくさん増やす。
- ・武器や道具をもっと展示する。
- ・もうちょっと幼児に分かるようにテレビでより分かりやすく説明したりする。
- ・もっと体験する事を増やせばよいと思う。
- ・イベントをやつたらいいと思う。(イボキサゴスープを作ったり、火起こし体験したりする。)
- ・はなやかにする。(花とかをうえる) あそぶ所を増やす(公園とか)
- ・体験出来る場所がもっとあればいい
- ・図書館を作る。
- ・イベントをたくさんひらいて、有名にするといいと思う
- ・川遊びで魚取りがあるといいと思う
- ・自然がたくさんある公園にゆうぐをおくといいなと思う。
- ・パンフレットをもっとわかりやすくする。
- ・昔のイベントをたくさんつくる。
- ・土器を実際作れるようにしてほしい!
- ・イボキサゴのスープなどのレストランをつくる。
- ・小さい子があきないように遊具や縄文時代の体験をふやした方が良いと思う
- ・イベントを開いたらいいと思います。祭りをやつたらいいと思います。
- ・縄文時代自体を生かして、実際にやったことを再現するようにもっといろんな体験を作つたらいいと思います。
- ・みんなでなかよくする
- ・子どもでも楽しめるようなものをつくればいいと思います
- ・もっと子供が遊べる所をつくる
- ・なし
- ・なし
- ・ない
- ・もっと子供が遊べる所をつくる
- ・なし
- ・遊具をたくさんあったほうがいいと思う。
- ・縄文人のもけいを外に置いたらいいとおもいます。
- ・たてあなた住居でおべんとうを食べる。

- ・スタンプラリーのようなものを造ってほしい。
- ・なし
- ・人といっしょに仲良くめぐり合せる
- ・とくになし
- ・春夏秋冬げんていの遊びを作った方がいいと思います。
- ・みんなが楽しめる公園
- ・なし
- ・このままで満足です！
- ・小さい子が来ても遊べるスペースをつくったらいいと思う。
- ・貝塚をあまり中心にしないでその Q6 のようなイベントをいっぱいひらいたほうがいい
- ・遊びをふやす
- ・てづくりたいけんをさせてもらったものをもってかえらせるのをまいしゅうかえていく。
- ・ウォークラリーなどのように加曾利貝塚を歩いて縄文時代のクイズなどをしてまわる
- ・加曾利貝塚のグッズを作る。
- ・もっとキャラクターを作る
- ・昔のアクセサリー作をする！
- ・昔のままで残っている森をみんなが楽しめるように、パカブやジップライン、木のぼりなどを作る。
- ・もう少し仕掛けを作ったりする。加曾利貝塚全体を見れる展望台的なものを作る
- ・昔の人の暮らしを体験する。
- ・もっと公園を増やす。
- ・ゲームを作る
- ・昔のあそびをしたい。
- ・おもしろいクイズを作る
- ・フードコートを作る
- ・クイズなどを話しているときに入れた方がいいと思う。
- ・もっと展示を最先端にする。博物館をリニューアルする。子供向けの展示もいる。
- ・博物館の説明を分かりやすくする。
- ・小さな子供たちが楽しめる場所を作ったらしいと思う。
- ・車で移動プラス音声案内
- ・縄文人の物像
- ・遊園地を作る
- ・縄文時代のアスレチック
- ・土器を使った宝探し
- ・子どもが興味を示す物（男の子だったら武器、女の子だったらアクセサリーなど）
- ・クイズを作った方がいい
- ・忍者あそびなどもっとげーむみたいなものをつくればいい。
- ・小さい子どもたちが遊べるようにあそび場を作った方がいいと思う。

- ・みんながもっと遊べるようにする。
- ・いろんな遊びどうぐを作る
- ・博物館にイベントなどをやる
- ・遊具などを作る 縄文人のご飯を食べられるところを作る
- ・忍者遊びやキャンプなど色々楽しくこどもが楽しめる所を作つてほしい。
- ・みんなが体験できるようなものをもっと増やしていく。
- ・クイズを作つた方がいい。
- ・色々な物を触つたり、体験させてあげるといいと思います。
- ・宿泊できるホテルを作つたらいいと思う。
- ・小さな子どもが遊べるような遊具とかを作つたらみんながたのしめるとおもいます。
- ・もっとキャラクターをつくる。
- ・遊べるような場所や体験できるものがもっとあればいいと思う
- ・キャンプができるしせつ
- ・火をおこすとかが時間がなかつたからてきぱきして、火をゆっくり起つたかった。
- ・遊び場所を作つた方がいい
- ・楽しみながら学べるゲームやクイズなどができる所を設けるといいと思う
- ・いろんなのが体験できる場所がほしい
- ・たて穴じゅうきよのせつめいをもつとしてほしかつた
- ・おみやげコーナーなどがあつたらいいと思う
- ・ほかにもいろいろな遊具をつくる。
- ・たて穴住居の中に昔のようすを表した人形をおいて分かりやすくする。
- ・遊具がほしい
- ・遊具がほしいです。
- ・いろいろな体験ができる様にしてほしい
- ・アスレチックを作つてだれでも遊べるようにする
- ・パンフレットにおすすめの遊びや場所などを記す。スタンプラリーやクイズラリーなどのイベントをする。照明をもっと明るくする。かいせつなどをもっとくわしくする。
- ・小さい子供でも遊べる施設がいいと思います。
- ・もっとはくぶつかんみたいのをふやしてほしいです。
- ・遊びをもっと増やす。
- ・てんじしているものの使いかたをじっさいにやってみる
- ・だれでもできる体験を多くする
- ・子どもがあそべる場所ををふやす。
- ・もっと体験できるものをふやした方がいい
- ・ほかにあそべる物をふやした方がいいと思う。
- ・火おこしや土器づくり以外にも縄文時代をたいけんできるものをつくる
- ・どの季節でもあそべるようにした方がいいと思う
- ・ジップラインなど遊びを取り入れたら良いと思います。

- ・もっとたくさんの物を設置した方がよいと思う。もっと便利をつくる。
- ・体験などをもっと増やす。
- ・バーベーキュウ場などを作れたらいいと思います。
- ・もっと自然とふれあえばいい、みんなが楽しめるような体験などをすればいい
- ・アトラクションをつくる 入場をはんがくにする
- ・今の時代の物をおく。アスレチックを作る。
- ・遊びながら、貝づかを学べる所をつくる。
- ・体験するやつうを増やす。説明するテレビみたいな物をつける
- ・国のしせきに登録されたので、貝づか見学のところに音声ガイド等を設置したらよいと思います。そうすれば、お年寄りの方も楽しめると思います。
- ・子どもが遊べる遊具を設置する。
- ・だれでもがつかえるバーベーキュー場があったら 1日楽しく遊べる
- ・じょうもん時代のふくをきる
- ・大型たて穴住居が昔かそりにあったのならふくげんさせてほしい。
- ・もっとスタッフをふやす、えがおをもっとつくる。アスレチックをつくる。近くにかんばんをする
- ・見学だけではなく、もっと縄文時代に関する体験ができるところをふやしたほうがいいと思う。
- ・縄文時代たいけん
- ・忍者遊びではなく、縄文遊びにした方がいいと思う。
- ・加曾利貝塚にいろんな物をたんけんしてスタンプラリーをつくったほうがいい
- ・宣伝！と加曾利貝塚にあっている遊び（貝ほりなど）
- ・もっと展示する所をふやす
- ・貝塚やある物をいかして、イベントをやる。ポスターを作り、あぴーるする
- ・ゆうぐをとりつけて公園ぼくする
- ・縄文時代の暮らしを体験する。（宿泊）
- ・スタンプラリーをつくる
- ・体験出来るものを増やして、実際に縄文人の生活の一部をできるのをやりたい。子供に喜ばれるような。
- ・無料にする。アスレチックをつくるこどもからお年寄りまで楽しめるしせつにする。たとえば キャンプやジップライン、たーざんろーぷなど
- ・無料にする。子供が楽しめる物をつくる、月 1回できかくする（イベント）
- ・体験をふやしたり。
- ・いろんなことを考える。
- ・もっと、遊ぶ道具や、イベント、体験が出来るものをふやした方がいいと思う。
- ・おみやげやさんをつくると良いと思う。
- ・子どもからお年寄りまで楽しめるものを作ればいいと思う。
- ・楽しい体験などを増やしたら良いと思ういます。
- ・室内にクーラーをつける。

- ・Q6のあそびを一つではなく、3つほど作ってほしい。
- ・縄文人の暮らし方を1日体験みたいな？体験をふやす。遊具をふやす。しせつを新しくする。
- ・やりなどを実際につくってみる
- ・フードコートのような食事ができるところ。説明会を開く
- ・公園のトイレをきれいにしてほしい。
- ・しせつを新しくする。子供も楽しい遊具をつくるウォータースライダー、飲食はんぱい店や土産店をつくる バーベキュウなど
- ・イベント、
- ・体験出来るものを多くする
- ・小さい子でも加曽利貝塚のことが面白くわかるようなものがあるといいと思う。
- ・ジップラインをつくる（ゆうぐ）
- ・小さい子でももとっとあそべるように、ゆうぐを増やしてほしい。
- ・ジップライン（貝塚全体をみわたせるから）スライダー（子どもたちもあそびにきそう）忍者遊び（上と同じ）
- ・外国人の人も楽しめるものがあればいいと思う。
- ・もっとはでにすればいいと思う。
- ・公園のトイレをきれいにした方が良いと思う。きたないいやな思いをするかも
- ・レストランとかもつくる。直通のバスとかつなげる。全体的にきれいにする。
- ・体験出来ることをふやす。縄文時代の食べ物を使ったレストラン作る。スタンプラリーみたいなものをつくる。
- ・Q6のように、アスレチックなどの遊ぶ場所がほしい。もっと自然にふれる活動をつくれたらうれしい。
- ・色々なあそびばをつくってほしいです。
- ・もっと楽しくできるように。
- ・イベントを多くする。縄文の料理レストラン
- ・忍者遊びをつくる。
- ・カソリーヌのでかい土ぐうをつくる
- ・自然でしかできない遊びをつくる。
- ・体験コーナーを増やす。
- ・カソリーヌのでかい土ぐうをつくるのぬいぐるみを入場者にプレゼントか弓矢をもらったりする。
- ・土ぐうやカソリーヌのでかいぞう
- ・かそり一ぬとの握手会的なやつ
- ・縄文時代の暮らしを実際に体験してみる。
- ・かそり一ぬの子どもつくる。
- ・色々なあそびどう具をたくさん作る
- ・カソリーヌに案内してもらう。他のキャラクターも作る。
- ・イベントをふやしたりカソリーヌでせっきやく、せんでんなど。

- ・縄文人のくらしを体験出来る。遊びながら学べる所をつくる
- ・かそり一ぬを使って映像というかアニメっぽくしようかいする。
- ・かそり一ぬとの記念さつえい
- ・楽しく学べるように貝塚や縄文時代なあてはまるゲームをだす。
- ・縄文時代の服はどのように作られているのか
- ・昔の人がしてたことをできるように狩りなど
- ・かそり一ぬの形の土器づくりをする。
- ・かそり一ぬときょうだいをつくったほうがいい。
- ・話が長かったため手短に話してほしい。カソリーヌともっとふれあえるようにしてほしい。
- ・昔のものでなく、遊び広場も作ってもいいと思う。
- ・実際にしせつの人が縄文時代の服とかを着たりしてわかりやすく説明する
- ・かそり一ぬをイベントとかに出して、貝塚にいいところを言う。
- ・加曾利貝塚公園に道をつくって歩きやすくする。竪穴住居の近くで火おこし体験をする。かそり一ぬに来た人全員が会えるようにする。落ちている貝は何の殻かを説明する。
- ・昔だから、兄弟をつくって、もうすこしじょうもんぽくしたら良いのではないでしようか。
- ・かそり一ぬとたてあなじゅうきよでお話ををする。
- ・かそり一ぬにあえなかつたから、あえるように歩いたほうがいい。
- ・公園にアスレチックなどの子供も楽しめる施設を作る
- ・スタンプラリーをやってみる魚釣り
- ・スタンプラリー
- ・自然の中で遊ぶ遊べる道具をつくる実際に体験ができるものを増やす
- ・加曾利貝塚の歴史を伝える
- ・たてあな式住居に宿泊して縄文時代にタイムスリップした気分を味わう
- ・私はもっとおもしろくするには何かを作ったりしてお持ち帰りできるようにしたらいいと思います
- ・飲食スペースを作ってほしい！加曾利貝塚の本をもっと作って欲しい！
- ・説明だけでなく実際に土器や服をつくってみたりする
- ・何か小さい子でも楽しめるような遊具などを置いたらどうですか
- ・歴史をさらに親しめるようにとても詳しく、でも分かりやすいパンフレットをつくりパンフレットに地図をつけるとより楽しくなると思う
- ・スタンプラリーや小さい子でも楽しめる遊具を設置する
- ・展示物をもっと増やしたらおもしろくなると思います
- ・小さい子でも楽しめるように自然を取り入れた遊びがあると良いと思う。理由は小さい子が加曾利貝塚に興味をひかれると思うから。
- ・小さな子やお年寄りが子供は楽しく遊べて、お年寄りはゆっくりくつろげる場所をつくる。
- ・迷路の家など迷路系やほかになぞときなどの物をつくる
- ・小さな子供からお年寄りまで楽しめるようにキャラクターを入れたりする
- ・子供でも楽しめるように博物館にキャラクターがわかりやすくしゃべっているようにしたほう

がいいと思う

- ・子供の人気を集めるためにアスレチックやスライダーをつくったほうがいい。
- ・子供と大人が楽しめるアスレチックやスライダーを作ってはいかがでしょうか。
- ・縄文時代の人の生活を一泊だけする
- ・実際に縄文時代の人になったような体験があつたらいいと思います
- ・もっと多く体験できると良い
- ・他に体験できるものを増やす
- ・もっと、みんなで遊べるものがあるといいと思います。小さい人から大きい人までが
- ・遊具等をつくる
- ・作るものをもっと増す
- ・色々な体験などを入れたほうがいいと思います
- ・縄文時代についていたことを体験できるといい（多め）
- ・遊具をつくること
- ・もっと遊具を増やす
- ・新しい施設をもっと作る
- ・加曾利貝塚に遊具をもっと作って子供たちに楽しんでもらう
- ・今ままがいい
- ・縄文時代についてのクイズラリーを行う
- ・イベントを開催する
- ・遊びができるようにする
- ・公園に楽しい遊具をいれてほしいです！
- ・遊具等を増やす広い公園をもっと作る
- ・バーベキューをやる
- ・遊具を作つてほしい
- ・発掘範囲を広げて新しい発見や研究の深化を期待しています。ユルキャラを全面に出しそぎると、貝塚そのものの価値が下がってしまうような気がしますし、縄文時代の追究を望みます。そもそも「おもしろくする」という質問がおかしいな…と感じました。加曾利貝塚はレジャーランドなのですか？
- ・話をもっとまとめる
- ・パカプとジップライン忍者遊びとキャンプ木のぼりトランポリンとバーベキューがあればいい
- ・いろいろな遊ぶ施設をつくる
- ・加曾利貝塚などのグッズ
- ・土器探し
- ・土器探し
- ・給食をもっとおいしくしてほしい
- ・遊ぶところができるでほしい
- ・いろんな遊具
- ・野球場があればいいなと思います

- ・広い公園にアスレチックがあるとおもしろそう
- ・話を短くする子供が楽しめそうな施設をつくる
- ・ターザン
- ・話を短くする
- ・忍者遊び
- ・カフェ的なものでゆっくりしたい
- ・川遊び
- ・クイズラリーやスタンプラリー、暗号解きみたいなもの
- ・おもしろくすべきでない。縄文時代の様子を知る事ができればそれで十分だ。それより教室にエアコンをつけて欲しい。
- ・キャラクターをふやすこと、ほかの遊びをとりいれる
- ・いろいろな遊びを作る
- ・あそぶばしょをふやす
- ・家から遠いからバスがほしい 新しいキャラがほしい!!かそり一ぬの兄弟的な
- ・いまのままで楽しいのでこのままでいいと思います。
- ・新たなキャラクターを作る
- ・ゆうえんちをつくる。 おみあげをつくる。
- ・アトラクションを作る（アスレチックジップライン） ホテルを作る
- ・アトラクションみたいなものを増やしてほしい
- ・1日間じょう文人がやってたことをして生きのびる。
- ・あたらしいキャラをつくる
- ・とくに無し
- ・子どもが楽しく学べるような事をもっとふやしたほうがいい
- ・遊び場を作ればいいと思います
- ・なし
- ・遊びをふやす！！
- ・カソリースの着ぐるみをみんなが着る
- ・とくになし
- ・道にやねをつけて下をはく [図あり]
- ・釣りぼり
- ・ゆうえんちをつくる
- ・いろんな人をよんでみる？
- ・遊ぶところを増やす 虫をへらす
- ・博物館でもっとわかりやすい説明をしてほしい。
- ・あそべる所を増やす
- ・なし
- ・ちょっとしたアスレチックを作る 水遊びができるとこを作る（夏） ジェットコースターを作る（ループする）

- ・縄文時代の服の試着 たてあな住居を宿泊可能にする 加曽利犬との写真会。
- ・特になし
- ・道 [図あり]
- ・1回だけじょんもん時代と同じことをする
- ・めいろみたいに、スタンプラリーとかをしたり
- ・体験コーナーを作る
- ・下をほって貝をだす
- ・縄文時代の人たちがしていたものを体験し、大変さを知り、縄文人のすごさを実感する
- ・自分でほって貝を見つける。
- ・火おこしをしたりすることがおもしろい たてあなじゅうきょを、すっごくひろい 弓矢のれんしゅうをしたらおもしろい
- ・自分たちでほって貝をみつけられる体験コーナーをつくったらよいと思う。
- ・かそり一ぬにあえる。 縄文時代の服をきている人にあう。
- ・子供でも楽しめる遊具アスレチックなど
- ・ほって貝がでてくる体験
- ・いろいろもっと体験できる物をふやす。
- ・大きめの遊具を作る。 特產品（オリジナルメニュー）を作る。
- ・弓矢での的をあてる体験をしたい
- ・体験コーナー かせきほり えいが
- ・縄文時代の生活体験
- ・土器作りなどの体験コーナー 自然とふれあえる遊具
- ・貝をほる体験
- ・カフェやレストランなどを出してメニューにじょうもんじだいのりょうりを入れる。
- ・体験できる事をふやす
- ・売店をつくる
- ・貝の化石をほる
- ・貝塚を展示している場所などにタッチパネルをつける
- ・①カソリーヌがナビをする ②たて穴住居をほんかく的に宿はくしせつにする ③縄文人がつかっていた道具などをつくる
- ・小学生などがポスターを作つて町などにはつたりする。 いろいろな体験をふやす
- ・かそり一ぬがやってくる！！ 土をほって、貝とり。
- ・貝塚のじめんをほってみる
- ・貝をあげるコーナーをつくればたのしいですよ。
- ・毎月、何日に、などを定めて、ツアーやショーのような物をやつたらいいと思います！
- ・弓矢の練習 貝をほる
- ・土をほって貝を探す
- ・遊具をふやす 弁当を食べる場所を作る
- ・博物館にえいぞうを出したほうがいいかと

- ・このままで大丈夫だと思います。自然がたくさんあってよかったです。
- ・おみやげコーナー 草をばっさいしてもらう
- ・たてあなた住居をもっと増やす！
- ・お店を作る（ごはん、お土産）
- ・自然があるのでパカブとかをはりめぐらせる
- ・いろんな所にクイズをだしたほうがいい。
- ・加曾利貝塚に、いろいろなクイズなどをだし、来ている人に、クイズをといてもらうというのもおもしろいと思います。
- ・バスツアー 説明されたものをわかりやすくしたさしをくばる 体験コーナーを増やす
- ・サイクリング
- ・たてあなた住居などの説明をするとき、もっとしたしく話したほうが、仲良くなれる。
- ・クイズをつくるとよいと思います！
- ・道をつくる（歩く所が草だらけで足がかゆいので） 虫を減らす
- ・火おこし体験でおこした火で何か作ってみたい
- ・体験をもっとふやしたらいいかもしれません
- ・いろんなイベントをやればたのしくなると思います。
- ・火おこしでついた火でなんかすればいいと思います。
- ・加曾利貝塚せんようのたんさくアプリを作るといいと思う
- ・サービスをふやしたらいいと思います。にんじやあそびの子供用と大人用をつくったほうがいいと思います。むずかしさをかえるのもいいと思います。
- ・スタンプラリーをしながら貝塚を知る。クイズで加曾利貝塚を知ってもらう。
- ・もっとたくさんきちょうな体験ができるようなあそびなのがいい
- ・土器づくりや色々な人々が体験できるようにする
- ・もっとおもしろくするには、せつめいをもっとおもしろくするといいと思います。
- ・加曾利貝塚の遺跡をまわるハイキングツアーや自転車ツアー 土器作りをして、その後にその土器でご飯（縄文時代の）づくり わかりやすく加曾利貝塚を説明するなど、おもしろくしってもらうイベントをする
- ・かいづかにゅうぐなどをつくりたり、自動はんぱいきをおいたり、ふやしたりしたらいとおもいます。
- ・外国人に知ってもらうために動画をつくる。
- ・小さい低学年の人もわかりやすくなるには、昔のくらした昔の狩りの道具などを実際に見たり、さわったりし、昔の食器やいろいろな体験もできたらいいと思います。
- ・バスケットゴールを置く、サッカーゴールを置く 草のアレルギーのやつ全ぶかる
- ・スタンプラリー（すべて集まつたら、かそり一ぬのグッズがもらえる） バス（ツアーバス）にのって、加曾利貝塚内を回って、解説してもらう（クイズなどをまぜて！）
- ・体験型のしせつを多くする。ペットも入れるようにする スタンプラリーをつくる 昔の人に1日なる
- ・とてもおもしろいので今まで良いと思いますが、もっとせんでんしたら良いと思います。が

んばってください。

- ・縄文時代に起きた出来事を劇にしてお客様にたくさん知ってもらう。自然を生かしてアスレチックを作る。
- ・加曾利貝塚でとまれたらおもしろくなる
- ・かそり一ぬと、はっくつ体験。おみやげに小さな貝を一つもってかえる。
- ・おみやげ たんけん 遊具
- ・博物館をリニューアル新造すべき、ビデオを用意すべき もっと積きよく的に PR 宣伝すべき公共公通機関をせいびすべき。
- ・商品を売ったりするといいと思う 貝のかけらさがしなどがあったらいいと思う。
- ・土器づくり、石器づくりだけでなく、土偶づくりをやる 弓づくりをやる 縄文の服をきる体けんをする
- ・上の【遊びを】すべていれる。
- ・ジップラインがあったら、スタートのいちに、加曾利貝塚の問題をかみとかにかいて、ジップラインをやっている時、下に答えがあって、ゴールのところで答え合わせ。
- ・見学する時、かべに QR コードがはってあり、1 日 200 円位で、音声機械を借りれ、QR コードを写すと、説明をしてくれる。自転車を借してくれる。地面に落ちている貝の種類を調べれる。
- ・あそぶ（広場で）
- ・その時代を体けんできるシステムがあつたらいいと思います。
- ・ゆうぐなどをふやして、小さな子などでもたのしめるようにする。
- ・あそび（見学）がちょ一つまらないから、いきたくないけど、スライダー、ジップライン、にんじやあそび、トランポリン、キャンプ、バーべキュウをたら、たのしい。
- ・宿はくしたり、広い広場に公園を使ったり、長いスペリ台を作ったり、みんなに遊んでもらいながら、見てほしい
- ・トイレを増やす 加曾利貝塚のグッズを売る
- ・体験コーナーをふやしたら楽しめると思う。
- ・見学や、体験の所を、多くする。
- ・本物の展示品を多くする 体験コーナーや、ものづくりを多くする
- ・もっと遊びを増やす 公園を作る
- ・アトラクションをつくる
- ・昔の遊びをしようかいする 中に川を流す
- ・遊べるところを増やす アトラクションをつくる
- ・歩いたりするのではなく、動いて、運動したり、体験する。をふやしてほしい。ゴミをふやさないように、いろんな方法でよびかける。
- ・宿はくしたいです
- ・忍者遊びを入れる
- ・見るだけじゃなく小さい子も楽しめるような遊べる所を作った方がいいと思う。
- ・何か新しいアトラクションを使った方がいいと思う。
- ・展示を少しづつ変えていく。いろいろなイベントをやる。

- ・テーマパークっぽくする。
- ・土器などをつくる体験をする。そして、それを記念に持つて帰りたい。たて穴住居の中で、縄文人のような生活ができる体験をする
- ・縄文スタンプラリー
- ・縄文時代のことの体験をたくさんする 遊び場をつくる（遊具、アスレチック）係の人たちが昔のような服を着る
- ・おちている貝がらなどを持ち帰ってもいいことにする。
- ・縄文人がしたことをもっと体験できたらいい。
- ・展示物をふやす。ボタンをおすと音声の説明をきくことができるシステムをつくる
- ・もっとアドベンチャーなどを増やした方がよい
- ・大きなアスレチックスライダーをつくり、だれでも気軽に来れるようにする。キャンプ場をつくる。プールをつくる。または川をつくる
- ・貝塚をじっさいにさわる 小さい遊園地を作る
- ・縄文時代のことを知つてもらう 色んな貝塚があるけど「ここだけ」というのをつくった方がいいと思う
- ・遊べるところをたくさん作る。
- ・縄文時代の物を作る体験 自分だけのゆみやを作る
- ・体験できることをふやす。写真さつえいできる場所を増やす。きゅうけいできるところをもう少し作る。
- ・もっと行きやすく、地図を多く付ける。
- ・スライダを作りそのうえにたて穴住居の材料をのせてあそべるようにする
- ・縄文時代のくらしを体験できるようなものがたくさんあればいいと思う。
- ・縄文人の生活体験 貝がらを見つけて持って帰れるサービス
- ・イベントをふやす
- ・ごはんを買って食べる場所がほしい。自然の中で遊べる遊具（ブランコスライダー）があると小さい子も楽しめる。
- ・もっと遊び場所を増やす。
- ・遊具を増やす 自然や昔のことを気軽に体験できるようにする
- ・縄文時代の体験
- ・自由にあそべるゆうぐをつくる。
- ・土器のかけらを探すゲームみたなのをする。
- ・もっと体けんできるものを増やす
- ・公園のところに、遊具を作ればいいと思う。「かそり一ぬ」みたいなキャラクターを増やして、いっしょに貝塚たんけんをする そのキャラクターとふれあえるようにすればいいと思う
- ・てんじだけではなく遊べるし設を作る さわれるものを多くする
- ・小さい子供からお年寄りまで楽しめること もつときかくをする
- ・縄文人の生活を体験する会をやる
- ・小さなアスレチックをつける

- ・遊具をふやす 縄文人の生活の体験
- ・縄文土器をあつめてわたすとけいひんがもらえる
- ・道が少し通りにくかったので、道をきれいにする！ ドアを自動にしたり、階段とスロープをつくる。 もっと電気を明るく
- ・かそり一ぬの食べもの（クッキーなど）がたべたい。 きねん品をうってほしい。 友だちに私名前が「かそり」だからかそり一ぬって前にいわれました。かそり一ぬかわいい♡
- ・道に本物の土器のかけらがあつたりしてみつけることができたらおもしろいと思う。
- ・わかりやすく説明する。
- ・かんたんな説明にしてほしい
- ・遊び道具のかしだし（貸りるので十円）（例）ボール、バドミントン、など
- ・公園などあそべるものがあるといいと思います。
- ・おなかがすくので縄文時代ふうのレストランがあったら良いと思う。
- ・縄文時代でやっていたことをいろいろ体験する。
- ・遊ぶためのものをもう少し増やしてほしい
- ・体験できることを増やす。
- ・お店があるといい
- ・いろいろなコースをつくり選べるようにする。
- ・もっと遊具が多かつたら楽しいと思う。
- ・ジップラインや、遊び場をつくったり土器さがしで得点をつける
- ・遊具をつくる DVD
- ・体けんできる物を増やす。
- ・もう少し簡単な説明があつたらいいと思う。
- ・みんながたのしめそうなものをつくる
- ・土器でおもしろい形をつくっててんじしてみる
- ・色々なイベントを増やしたらもっと楽しくなると思います。
- ・大人から小さい子まで楽しめる体験
- ・説明を手短かにする
- ・説明をもっとみじかく適切に教える
- ・わからない。ない。
- ・十分、楽しいと思います。見学に行って楽しく学べたので、家族にしょうかいしてこないたあそびに行きました！！
- ・貝探し
- ・楽しく遊べる所をつくる わかんない。
- ・遊び場を増やしたり、子どもを楽しませるようにしたらいいと思う
- ・遊べる遊具があるといいと思います
- ・いろいろな物を作る体験
- ・レストラン等で縄文
- ・遊び場を作る。

- ・たて穴住居のモデルみたいなので住めるようにする（宿はく）
- ・加曾利貝塚でとれた土器を展示する。
- ・遊びを増やす
- ・遊び場を増やす。
- ・あそびばを多くする そうすれば子どもも、たのしめる。
- ・もっと森で遊ぶのを増やす（遊び）
- ・今まで良いと思う。
- ・もっと、森などに、アスレチックできなやつをつくったら、楽しいと思います。
- ・小さい子供でもより興味のもつものおく
- ・体験をたくさんやる。
- ・ベンチをふやす
- ・すべり台やトランポリンとかを作ったらいいと思う
- ・子どもでも楽しめるような遊べるものを作る。
- ・体験する所をたくさんつくる すわれるベンチをふやす
- ・あそぶところを多くする
- ・子どもも大人も、楽しめるところ
- ・縄文時代にかかるゆうぐを入れる
- ・広い場所を使って大きい遊具を大人向けや子供向けにつくる
- ・広場にもっとゆうぐを作る
- ・博物館にもっといろんなのを展示する
- ・体験できることをもっとたくさんにする！ 公園にもトラップ（しあけ）をつくってみたり★
この子〔かそりーぬ〕のTシャツきぐるみグッズなどをはんぱい？
- ・博物館のものをさわるようにする ものを少し使ってみたい。
- ・広いひろばに遊具をつくってあそべるところ
- ・子供が興味をひくような楽しい宣伝をする
- ・アトラクションをつくる。
- ・たて穴住居を、もっとよく見学できるようにしてほしい。
- ・たて穴住居にとまる。 石器をつくれるようにすること。
- ・広い場所をつくって、広場に、遊具を作り、遊んでもらう。
- ・上の遊びの他の遊びを入れる
- ・キャラをかえる
- ・この子よりもかわいいゆるキャラを作る
- ・みんなが楽しめるおもしろいことをやる
- ・子どもも、大人も、みんなで楽しめる遊び
- ・遊具を増やす。
- ・もっと行事を増やす
- ・クイズがあるといい
- ・もっと子供が楽しめるために変えた方が良い

- ・縄文時代の料理を作って、食べたりする
- ・弓などで投げる体験をしてみたい
- ・何年かに1回はイベントをしたほうがいい
- ・もう少しえイベントをしたほうがいいと思います
- ・イベント
- ・もっと子供も楽しめるようにしてほしい
- ・クイズがあるといい
- ・遊園地、キャンプ場、プール、イベント、バーベキュー場をつくる
- ・体験して学ぶ施設を作ってほしい
- ・誰でも楽しくできる体験をつくる
- ・子供が集まるような祭り、体験会をやる。大人も楽しめるような内容（バーベキューなど）
- ・縄文時代のことを体験できるのをもっと増やす
- ・1ヶ月に1回、1日だけ取り消して、イベントを開く
- ・昔遊び体験
- ・みんなが楽しめることが、昔から受け継がれてきたことをやる
- ・遊ぶところを増やす
- ・遊ぶところを増やす
- ・アスレチック、キッズプール、遊園地を作る。ハロウィン、クリスマスパーティーや祭りを開く
- ・ゆるキャラが説明したら、面白くなると思う
- ・店員の人が縄文時代の服を着て回るといいと思う
- ・小さい子供が楽しめるような企画をする
- ・弓矢の的あて
- ・命がけの遊びをしてみたい
- ・いろいろな体験など
- ・いろいろな体験をやって欲しい
- ・ほとんど川で埋めつくしてほしい
- ・カブトムシが自然にいたらいいな
- ・宿泊できるといいです
- ・たいこの達人
- ・道に看板を立てて、冒険っぽくする
- ・体験物を作る
- ・もっと分かりやすく楽しくする
- ・博物館を広くする
- ・博物館の仕掛けを増やす
- ・サッカー場、のぼり棒、ゲームセンターを作る
- ・縄文の服を着れたり、作れたらいい
- ・貝を手に取ったりできるともっと面白くなる
- ・昔の人のことがよく分かるビデオがあるといい

- ・アスレチックを作る
- ・縫穴住居で宿泊
- ・お弁当や飲食ができる場所があるといい
- ・店でお土産を売るといい
- ・縄文の服をさわったり、着れたらいい
- ・外を回る時に便利な乗り物があるといい。バーベキュー場、記念写真を撮る場所があるといい。
- ・VTRを使う。地面に埋まっている貝を外で上から見れるようにする。
- ・公園に遊具を置いて欲しい
- ・体験を増やす。スタンプラリーを作る。
- ・遊ぶものを増やす。体験コーナーを作る。
- ・体験を増やす。
- ・遊ぶものを増やす。
- ・土器のかけらが欲しかった
- ・華やかにする
- ・体験系が面白かったので、もっと増やすといい
- ・釣りができるといい
- ・モニターではなく、大自然を一気に見れるところを作ると良い
- ・土偶作り
- ・Q6のを全部やったら、とても楽しくなる
- ・博物館の展示を増やす
- ・サッカー場を作る
- ・砂をひく
- ・小さい子供が楽しめる所を作る
- ・博物館の文字を飽きない様に書いて欲しい
- ・もっと歴史のことをおいた方がいい
- ・スタンプラリー、バーベキュー
- ・アスレチックを作るを取り入れたら、面白くなる
- ・Q6のを全部やりたい。縄文時代の食事を食べてみたい。
- ・貝塚や縄文時代のことを学べるアトラクション
- ・もっと子供が楽しく遊べる遊具や施設を作ってほしい
- ・子供用のサスケ、逃走中、戦闘中をする
- ・インターネットを可能にする
- ・体験を増やす
- ・体験コーナーを増やす
- ・体験コーナーを増やす
- ・遊びを増やす
- ・レストランがあるといい
- ・パネルに簡単にまとめた説明を作る

- ・子供が楽しめる楽しめるものを増やす
- ・ゲームや運動ができるといい
- ・体験を増やす
- ・遊ぶところを増やす
- ・キーホルダーなどお土産を売る
- ・土偶作り体験、加曾利貝塚でしかできない体験をするといいと思う
- ・遊具を置く。小さい子供も楽しめる所をたくさん作る。川があるなら船などもよいと思う。
- ・子供の流行に合わせる。アスレチックを作る。
- ・おもしろい遊具を作る。
- ・日本人だけなく、外国人にも日本の昔を知ってもらいたい。分かりやすい説明が欲しい。
- ・誰でも、歴史が好きでない人も歴史を知ることができる楽しい施設を作る。
- ・敷地が広いので、色々な所に小さな子供でも楽しく縄文のことを勉強できるクイズを置くと良い。
- ・もっとも自然だったら何でもいい
- ・施設の人の服をおもしろくする。来場者に記念品をあげる。
- ・博物館でクイズを多くするといいと思う
- ・縄文から今までのことをパンフレットに書く。ペッパー君、ゲームセンターを入れる。
- ・木を使ったアスレチックを作る
- ・広場にアスレチックを作る
- ・アスレチックを作る
- ・もっとお客様が来るように、チラシを配ればよい
- ・釣り堀
- ・そのままで充分楽しいです。
- ・アスレチックを作る。チラシを配る。
- ・体験を色々させる
- ・イベントを増やす
- ・自然とふれあえる遊具を作る
- ・たくさんの人たちが一度に遊べる遊具
- ・フィールドアスレチックを作る
- ・アスレチックを多くして欲しい
- ・アスレチックを作る
- ・アスレチックを作る
- ・遊具を作つてほしい
- ・もう少しフレンドリーに接っすればいい
- ・遊ぶところを増やす。縄文時代のことを面白く説明する。
- ・プールを作る
- ・遊具を入れる
- ・売店でグッズを売る。アスレチックを作る。

- ・アスレチックをもっと作ってほしい

2 大賀ハスのまち活性化プロジェクト 政策提言



【研究員】太田正孝、栗原紗和子、斎藤久芳、坂口三代治、仙波慶子、八巻竜太郎

目次

1 背景、現状・問題、方向性

1.1 背景

1.2 現状・課題

1.3 方向性

2 政策提言

2.1 ハス守りさんが活躍する千葉のまち

(1) ハス守さん養成講座

(2) ハス守さんの活動

2.2 暮らしでハスを楽しむ

(1) ハスの里親制度

(2) 衣・食・住・趣味でハスを楽しむ

2.3 ハスウォーキングでめぐる千葉のまち

(1) ハスウォーキング

(2) 大賀ハスを感じられる駅や通りをつくる

2.4 大賀ハスが感じられる拠点づくり

(1) 中心拠点とサテライト拠点づくり

(2) 寺社・城址・史跡との連携

(3) 吾妻町（蓮池）との連携

2.5 大賀ハスを世界に発信する

(1) 2大ハス祭りの充実

(2) 大賀ハスサミットの開催

(3) 東京オリンピック・パラリンピックでのPR

3 参考資料

1 背景、現状・問題、方向性

1.1 背景

(1) 大賀ハスの由来～発掘・開花・普及～

1951（昭和 26）年 3 月 3 日から 4 月 6 日までの 35 日間、大賀一郎博士たちは千葉県検見川の東京大学農学部厚生農場内（現・東京大学総合運動場）の泥炭層を掘り進め、地下約 6 メートルの青泥層から 3 月 30 日に古蓮実 1 粒を発見した。これは予定期間を過ぎ、作業中止もやむを得ないと思われた矢先のことであった。

その後 4 月 6 日に 2 粒の実を発掘し、同年 5 月 6 日に大賀博士宅（東京都府中市）で発芽処理が行われ、3 個とも発芽したが 1 個は発芽後まもなく枯死した。生長した実生苗 2 株が 6 月に千葉県農業試験所（現・県農林総合研究センター）へ移され、1 株は数日後に枯れ、3 月 30 日出土の実生苗だけが順調に生育し、9 月には 8 枚の立ち葉を広げる株に生長した。

翌 1952（昭和 27）年 4 月 7 日に生長した蓮根を掘り上げ、4 節約 60cm の物（大）は東京大学検見川厚生農場（当時）へ、3 節約 40cm（中）の物は千葉市の希望で千葉公園・弁天池の一角（現・菖蒲園）へ、2 節約 30cm の物（小）は県農業試験場へ其々植えられた。

当時、検見川農場には牛馬が飼育されその食害から避けるため、東京大学の株は地元の農業委員である伊原茂氏に栽培を委託された。この株は同年 7 月 1 日に最初の蕾をつけ、7 月 18 日に開花した。この偉業は新聞等で大々的に報道され、古蓮の写真は「毎日グラフ」やアメリカの「LIFE」で全世界に発信された。

1954（昭和 29）年 3 月 31 日付で千葉県の天然記念物「検見川の大賀蓮」として指定され、以来、この古蓮は「大賀蓮」と呼ばれています。大賀蓮は、実と同じ地層から出土した丸木舟のラジオ・カーボン・テスト等の年代測定に基づき、約 2000 年前の古蓮と推定された。

分根された千葉公園の株は 1953 年（昭 28）8 月 5 日、県農業試験場の株は 1955 年（昭 30 年）頃に開花している。1 粒の古蓮実が 3 つの蓮根となり、その後、実や蓮根によって、国内及び海外の 150 箇所以上に分根、栽培され、友好と平和の使者として親しみ愛されている。

(2) 千葉市における大賀ハスの取り組み～略年譜～

- ・千葉市における大賀ハス栽培は、発芽生長した古蓮のレンコン 3 本から 1 本を 1952 年 4 月に大賀博士から譲り受け、千葉公園・弁天池の一角（現・菖蒲園）に植付けたのが始まりであり、その後、展望台脇にもコンクリートの池を作り大賀ハスを栽培した。
- ・1956 年（昭 31）古代ハスを賞する風流人の集いとして「千葉はすの会」が千葉公園のハス池前で午前 7 時から開催され、約 80 人が参加。会長は杉本郁太郎氏（当時・奈良屋社長）が務め、大賀博士のハスの話やハスと川柳・俳句などハスに因んだ話題に花が咲いた。以降、平成 12 年（2000）まで毎年 7 月 18 日に千葉公園にて「千葉はすの会」が開催された。

- ・1964年（昭39）東京大学総合グラウンドの心字池に、千葉公園で栽培している大賀ハスが分根・移植された。発掘場所が東京オリンピックのクロスカントリー競技会場に決まったことから、大賀ハスを発掘の地に戻し、さらに発掘記念碑を建て大賀博士等の偉業を称えた。
- ・1966（昭41）大賀博士の遺命により、東京大学大学院農業生命科学研究科付属緑地植物実験所に「大賀ハス」を移植する。
- ・1967（昭42）大賀ハス発掘の地元で地域住民による第1回「花園ハス祭り」が開催される。
- ・1968（昭43）千葉公園ハス池の大賀ハスが軟腐病（腐敗病）により枯れ始める。ハスの生育状況があまり良くなかったため、前年冬（S42）、木更津方面のハス田から客土して池の土を入れ替えた際、病菌が付着していたらしい。急遽200株の蓮根を掘り起こし池の完全消毒を実施した。その甲斐あって、1970（昭45）千葉公園の大賀ハスは生き返り再び花を咲かせた。
- ・1987（昭62）和歌山大賀ハス保存会から分根された大賀ハスの交雑種「舞妃連」「中日友誼蓮」を「みなど公園」に植付ける。同年開花35周年を記念して千葉市郷土博物で「千葉の大賀ハス」と題する特別展が開催される。翌1988年展示と併せて大賀ハスと大賀博士等に関する記念誌「大賀ハス」が編纂・発行される。（吉田公平監修）
- ・1990年（平2）大阪市鶴見緑地で開催された国際花と緑の博覧会に、大賀ハス等の花ハスを観賞する「蓮華汀」を出展し金賞を受賞。
- ・1993年（平5）千葉公園綿打池の北畔にハス池（900m²）、木道、芝生広場等が整備された。また、政令指定都市移行を記念して「千葉市の木・花・鳥」が制定される。オオガハスが千葉市の花に選定。記念式典及び大賀ハスの植え付け祭（106か所、318株）が行われる。
- ・2001年（平13）花園ハス祭り実行委員会により「二千年の眠りから覚めて～大賀ハス開花50周年記念誌」が編纂・発行される。
- ・2003年（平15）花のあふれるまちづくりのシンボルキャラクターとして市の花オオガハスの妖精をイメージした「ちはなちゃん」が制定された。
- ・2007年（平19）東京大学が検見川の「緑地植物実験所」の移転計画及び跡地売却検討を発表。翌2008年、千葉市議会で「東大緑地植物実験所の存続を求める請願」を全会一致で採択。花園中学校区の自治会が協力して存続を求める署名を集約（～2012年まで合計52,561名）。
- ・2008年（平20）花とひとのネットワーク実行委員会の主催で、1回目の「大賀ハスを観る会」が千葉公園にて開催される。JR新検見川駅を起点に、大賀ハス発掘の地等を訪ねる「駅からハイキング」が平成20～24年に開催される。
- ・2012年（平24）東京大学付属緑地植物実験所が閉所。地元住民ボランティアによる「大賀ハスのふるさとの会」が発足し、千葉市を通して大学からハス見本園の管理・育成活動を行うとともに、花園ハス祭り観蓮会を開催している。

- ・同年、開花 60 周年を記念し「大賀ハスの系統保存」を千葉公園で開始。大賀ハスのリーフレット制作（千葉市初）大賀ハス写真展を実施。千葉市立郷土博物館で「大賀ハスミニ企画展」を開催。
- ・2013 年（平 25）JR 西千葉駅及び千葉駅を起点に、大賀ハス等を訪ねる「駅からハイキング」が平成 25~29 年に開催される。
- ・2015 年（平 27）空の玄関口、成田空港第 1 ターミナルに整備された「大賀ハスの池」に千葉公園から大賀ハスを分根・展示する。
- ・2016 年（平 28）従来の‘大賀ハスを観る会’を‘大賀ハスマツリ’と改め、規模を拡大し 9 日間連続のイベントを開催する。
- ・2017 年（平 29）開花 65 周年等を記念し、蓮文化研究会、大賀ハスのふるさとの会、花びと会ちばの主催による‘大賀ハスシンポジウム’が開催される。

1.2 現状・課題

SWOT 解析、アンケート調査、現地踏査、事例調査、視察調査、行政ヒアリング、シンポジウム開催等の結果に基づき、大賀ハスの現状と課題について下記のとおり整理した。

このうち特に重要なのは、(1)~(2) の 3 点である。

- (1) 大賀ハスは花期が短く「夏季以外は楽しめない」
- (2) 大賀ハスと「ふれあう」「親しむ」「学ぶ」機会が少ない
- (3) 大賀ハスの「文献資料」を収集・保存・展示する施設がない
- (4) 暮しや趣味でハスを楽しむ「蓮文化」が十分に普及していない
- (5) 大賀ハス発祥地という「本家意識」が希薄である
- (6) 大賀ハスが感じられる「デザイン」の駅や通り、街並みが少ない
- (7) 各地で大賀ハスの交雑化「大賀ハス擬き」が進んでいる
- (8) 行田や高田など「観光協会主催のハス祭り」の方が有名で規模が大きい
- (9) 大賀ハスを活かした「食べ物やグッズ」が少ない
- (10) 他の地域資源と連携した取り組みがない

1.3 方向性

現状と課題を踏まえ、政策提言の方向性を次のとおり設定した。

- (1) 年間を通して大賀ハスとふれあい楽しむ
- (2) 市民等多様な主体とともに育む大賀ハス
- (3) 駅に降りたとき大賀ハスが感じられるまち

2 政策提言

2.1 ハス守りさんが活躍する千葉のまち

1 目的

大賀ハスのまち活性化プロジェクトを推進するため、ハスの歴史・文化、生態・栽培等に関する知識や技術を有し、ハスの普及活動へ積極的に参画できる人材を養成する。

2 理由

- (1) 小学校の大賀ハスモデル校での栽培・学習指導、ハスの里親制度の普及、ハス祭りやハスウォーキング等のスタッフを担う人材が不足している。
- (2) 大賀ハスと「ふれあう」「親しむ」「学ぶ」機会が少ない。
- (3) 養成した人材を有効活用するため、養成後の活動の場を予め準備しておく必要がある。

3 内容

(1) ハス守さん養成講座

ア ハス守さん養成講座の実施体制

- ・立ち上げの3年間は千葉市が主催、市民団体が共催で実施する。
- ・その後は、市民団体が主催、千葉市が共催で実施する。

イ 講座の内容（年10回程度）

- ・大賀ハスの発掘・開花・普及について
- ・大賀ハス等ハスの生態と品種について
- ・ハスの栽培（植替え、土壤、水管理、施肥、病虫害防除、繁殖等）について
- ・ハスの文化（ハス料理・食品、ハスと仏教、ハスと芸術、ハスの遊び）
- ・ハスのガイド、ハス祭りのスタッフ、出前講座の講師について

ウ 講座の講師

- ・南定雄氏（蓮文化研究会代表）など前記イの内容を教授できる人材に依頼する。

エ ハス守さんの認定

- ・講座科目の8割以上の修了者は、「千葉市ハス守さん」として千葉市長が認定する。

(2) ハス守さんの活動

千葉市認定の「ハス守さん」は、下記活動に参加してもらう。

ボランティア活動を促すため、その活動時間等に応じた金・銀・銅等のバッジ、ハスに関する特別プログラムや公共施設利用料金の減免等の特典を付与する。

ア 小学校の「大賀ハス学習モデル校」での栽培、学習指導

- ・千葉市内の小学校を対象に「大賀ハス学習モデル校」を毎年各区1校指定する。
- ・低・中・高学年の段階毎に、①大賀ハスと大賀博士に関する講義学習、②大賀ハスの栽培に関する体験学習を実施する。

イ ハスの里親制度のサポート（株分け、栽培指導など）

- ウ ハスウォーキングのガイド
- エ 各区の大賀ハスの名所や栽培地での指導やガイド
- オ ハス祭り（千葉公園、花園）での運営スタッフ

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1) ハス守さん養成講座
 - ・平成30年度から実施するハス守さん養成講座には、講師や講師のサポート、実習の場の提供などとして積極的に関わる。
- (2) ハス守さんの活動
 - ・千葉公園、旧東大緑地実験所、南氏のハスの植替え
 - ・千葉公園、花園のハス祭りの運営スタッフ
 - ・大賀ハスの開花状況等の情報発信（ホームページの運営・更新等）

5 ゴール（目指すべき姿）

- (1) 市民が主体となった「ハス守さん」の養成
 - ・3年程度の助走期間を経て、市民主体の「ハス守さん」の養成とスキルアップを行う。
- (2) ハス守さんによる大賀ハスのまちづくり
 - ・ハス守さんを中心に「大賀ハスまちづくり協議会（仮称）」を設立し、ハスの普及に関する様々な事業を千葉市と連携して推進する。

6 必要な資源

- (1) ハス守さん養成講座に要する諸費用
 - ・講師の報償費、会議室等の借上げ料、実習に伴う消耗品・印刷製本費等
- (2) ハス守さんの活動に要する諸費用
 - ・協議会への助成金、植替えの委託費、ボランティアのコーディネイト費等

（参考事例）



2.2 暮らしでハスを楽しむ

1 目的

地域や暮らしの中で日常的にハスを楽しみ育む機会を創出し、ハスに対する愛着を高めハス文化を醸成する。

2 理由

- (1) 生活や趣味でハスを楽しむ「蓮文化」が十分普及していない。
- (2) 大賀ハスを活かした「食べ物やグッズ」が少ない
- (3) 大賀ハスを始め多様なハスを地域や家庭で育むためには、ハスの里親制度を創設し普及させる必要がある。

3 内容

(1) ハスの里親制度

ア 事業の趣旨

- ・市内ハス研究者の南氏が所有する多品種の花ハスの親株を譲り受け、公共施設で官民が連携して協働・一括で管理し、株分けしたハスは市民が里親となって育てもらう。
- ・里親が育てたハスは、通りや公共施設の軒先などに展示し、ハスウォーキングなどの行事で活用する。

イ 事業の実施体制

①花ハス里親センターの整備

- ・多品種のハスを栽培管理できる施設を公園や農政センター等の公共施設に整備する。

②花ハス里親センターの運営

- ・里親センターの運営は行政と市民が連携して行う。
- ・行政：施設の基本的な維持管理、品種の保存、資材（肥料、用土、ポット等）の提供
- ・市民：ハスの植替え、里親用の株分け、ハス栽培の指導（ハス守りさんと連携）

ウ 里親の募集と栽培指導

- ・行政：市政だよりやHP等でハスの里親を募集する。
- ・市民：応募した里親を対象にハス栽培の講習会を行う。

(2) 衣・食・住・趣味でハスを楽しむ

ア 衣でハスを楽しむ

- ・大賀ハスや夏をデザインした浴衣、手拭、タオル、Tシャツ、風呂敷、ショッピングバッグ等の衣類や生活雑貨を商品化し普及する。
- ・商品化では、町田市のように福祉施設を積極的に活用する。

イ 食でハスを楽しむ

- ・レンコン料理、ハスの実料理、ハス茶、お菓子など、ハスの食文化の普及に取り組

み、ハスを日常生活で身近なものにするとともに、千葉市の名産品を創出する(PFI事業)。

- ・レンコン料理講習会、ハス料理のレシピを公募～ハス料理コンテスト
- ・お菓子など食品の商品化も福祉施設を活用する。

ウ 住でハスを楽しむ

①千葉はすプロジェクト

- ・大賀ハス由来の花ハス「千葉はす」(種子繁殖による固定種)を、家庭で種から育て(里親制度の活用)、その実生苗を新たな栽培地(縄文の森等)に移植し開花させる。

②ミニハスの普及

- ・庭やベランダでも簡単に栽培できる「ミニハス」を各家庭に拡大普及させて、「ハスのまち千葉市」としてのイメージアップを図る。

エ 趣味でハスを楽しむ

ハスの写真、俳句、絵画、生花、歌や踊りなど趣味でハスを楽しむ機会を普及する。

①ハスの写真や俳句

- ・ハスを題材とした俳句講座や写真教室を開催する。作品は大賀ハス祭りや花の美術館等に展示する。

②ハスの踊りや歌

- ・各地域での夏祭り、盆踊りをより盛り上げるために、かつて歌い踊られた「蓮音頭」「蓮見の唄」を復刻させる。

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) ハスの里親制度

- ・ハスの里親センターの整備と運営方法について官民で検討する。
- ・花ハスの譲り受けの条件等について南氏と協議を行う。
- ・南氏のハスの栽培管理を手伝い、栽培方法や品種特性等を伝授してもらう。

(2) 衣・食・住・趣味でハスを楽しむ

- ・2大ハス祭りやホームページで、衣食住・趣味のハス文化を普及宣伝する。
- ・千葉公園のハス祭りでハスの実おこわの販売、ハスの写真コンテストを開催する。
- ・千葉はすの作出にむけて、専門家の指導を仰ぐ。

5 ゴール（目指すべき姿）

(1) 市民が主体となった「ハスの里親制度」の普及

- ・市民主体の「ハスの里親制度」が普及し、多くの市民や企業がハスの里親として登録するようになる。

(2) ハス文化の確立

- ・千葉市にハス文化が定着し、多くの市民が日常的な暮らしでハス文化に親しみ楽しむようになる。

6 必要な資源

- ・ハスの里親センターの整備に係る場所と費用
- ・ハスの里親センターの運営に係る費用
- ・ハス文化の定着、普及に係る人材育成、商品開発・プロモーションに係る費用



ハスの里親制度（出典：NPO 法人 いんしゅう鹿野 まちづくり協議会）



蓮柄の浴衣（千葉公園ハス祭り）



町田市大賀藕絲館・紙漉き作業

2.3 ハスウォーキングでめぐる千葉のまち

1 目的

大賀ハス発祥地としての都市イメージを醸成・発信するため、駅を降りたときに大賀ハスが感じられるまちづくり及びハスや千葉のまちに親しむウォーキングを実施する。

2 理由

- (1) 大賀ハス発祥地という「本家意識」が希薄である。
- (2) 大賀ハスが感じられる「デザイン」の駅や通り、町並みが少ない。
- (3) 市外から多くの人が参加する「駅からハイキング」が終了する可能性がある。

3 内容

(1) ハスウォーキング

ア 事業の概要

- ・ハスの開花時期に合わせ、ハスの名所やハスの里親、町並みや史跡・寺社などを訪ねて歩く「ハスウォーキング」を開催する。
- ・この事業は、大賀ハスを訪ねる「駅からハイキング」を引き継ぐイベントとしての位置づけがある。
- ・コースの距離は、4.2195 km (フルマラソンの1/10) を標準にとし、途中にはハスの花の写真展示や、ハスピフェ・ハス茶などを提供する休憩所を設ける。

イ 想定コース

(千葉駅周辺コース)

- ・従来の駅からハイキングコースをベースに、西千葉・稻毛周辺の戦争遺構や千葉氏所縁の史跡や寺社、町並み、ハスに因んだ菓子や食事処等を組合させて設定する。
(新検見川駅周辺コース)
- ・従来の駅からハイキングコースをベースに、大賀ハス所縁の地や検見川神社や寺社、町並み、花見川、ハスに因んだお菓子や食事処等を組み合わせて設定する。

ウ ハスウォーキングの運営

- ・主催：ハスウォーキング実行委員会（観光協会、鉄道、行政、商工会、市民で構成）
- ・予算：参加費、協賛金、補助金等の財源で賄う。
- ・時期：2大ハス祭りに合わせ、6月（千葉駅）と7月中下旬（新検見川駅）に開催。

(2) 大賀ハスを感じられる駅や通りをつくる

ア シンボル・ロードの整備

- ・大賀ハスを感じられる空間として、「大賀ハスのふるさとロード」（JR新検見川駅～東大グランド）と、「千葉公園ハス池ストリート」（JR千葉駅～千葉公園）をシンボルロードとして整備する。

イ アクセシビリティ（利用しやすさ）の向上

- ・アクセシビリティ向上のため、千葉駅、新検見川駅等の主要駅から大賀ハスの名所

- へ至るサイン（案内標識、路面表示、バナー、幟旗等）等を整備する。
- ・サインは、文字・ロゴ・マーク・イラスト・色彩等により子どもから外国人まで分かりやすいデザインとする。

ウ 公共施設への名称・愛称の導入

- ・道路・駅・橋・建物など公共空間（景観）に大賀ハス（4つの資源）がイメージで
きるロゴ・サイン等のデザインを導入する。
- ・駅名、バス停、公共施設のホール・図書館・レストラン等に大賀ハスの名称（愛称）
を導入する。例えば、京成バス「区役所入口」→「大賀ハスのふるさと前」など。

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) ハスウォーキング

- ・駅からハイキングの終了に備えて、ハスウォーキングの開催に向けて実行員会（準備会）を立ち上げる。
- ・千葉市シティガイド（観光協会）と協力してコース設定を行い、ハス祭りの行事の一
つとしてハスウォーキングを早期に試行してみる。

(2) 大賀ハスを感じられる駅や通りをつくる

- ・行政が主導して、大賀ハスシンボルロード整備計画を作る。
- ・シンボルロードの整備に先駆けてサインの整備を行う。
- ・大賀ハスに因んだ公共施設の愛称を市民から募集する。

5 ゴール（目指すべき姿）

(1) ハスウォーキングの開催による都市イメージの向上

- ・実行委員会によるハスウォーキングが毎年開催され、市内外から多くの人がウォーキ
ングに参加し、大賀ハス発祥地としての千葉市のイメージが向上する。

(2) 大賀ハスを感じられる都市イメージの定着

- ・シンボルロードの整備により大賀ハス発祥地としての都市イメージが定着する。

6 必要な資源

- ・ハスウォーキング実行委員会の運営に係る人材、人件費、宣伝費等
- ・シンボルロードの整備に係る工事費、宣伝費等

(参考事例)



ハスウォーキング（鳥取県鹿野町）



NPO法人いんしゅう鹿野 まちづくり協議会



JR 新検見川における大賀ハスのP Rと花ハスの展示



千葉公園ハス祭り

2.4 大賀ハスが感じられる拠点づくり

1 目的

年間を通して大賀ハスとふれあい楽しむため、既存の拠点を拡充・再整備するとともに、史跡や寺社、蓮池等の地域資源と連携した新たな名所づくりを行う。

2 理由

- (1) 大賀ハスは花期が短く「夏以外は楽しめない」。
- (2) 大賀ハスと「ふれあう」「親しむ」「学ぶ」機会が少ない。
- (3) 大賀ハスの「資料」を収集・保存・展示する施設がない。
- (4) 各地で大賀ハスの交雑化「大賀ハス擬き」が進んでいる。
- (5) 「他の地域資源と連携」した取り組みがない。

3 内容

(1) 中心拠点とサテライト拠点づくり

ア 中心拠点づくり

- ・千葉公園では、大賀ハス祭りの会場として最良の管理を行い、大賀ハス基本株の栽培、系統保存、分根・栽培技術の中心的な役割を担う。
- ・千葉公園は、情報の保存・発信の拠点（大賀ハスセンター）としての役割を担う。
- ・開花 70 周年や千葉公園の再整備に合わせて、蓮池や展示施設を再整備する。
- ・蓮池は、長期間及び多品種のハスが観賞できるよう規模と施設内容を検討する。
- ・蓮華亭は、花期以外もハス文化とふれあえる展示施設として「大賀ハスハスミュージアム（仮称）」として再配置も含め検討する。

イ サテライト拠点づくり

①大賀ハス発祥の地の永続性を担保

- ・旧東大緑地植物実験所は文化財登録地として保存し、市民活動の拠点にする。東大検見川グラウンドの発掘碑及び発掘地周辺地を市が取得し、大賀ハス発祥の地として市民に開放する。

②大賀ハスの仲間の栽培地を再整備

- ・みなと公園：和歌山大賀ハス保存会から分根された、舞妃蓮、中日友誼蓮の栽培地として適正に管理する。紅舞妃連、剣舞蓮など大賀ハスの仲間を増やし価値と魅力を高める。

③市民参加型の新名所の整備

- ・加曾利貝塚に隣接する「縄文の森」の市有地（休耕田）をハス田として整備し、植替えなどを市民参加で行う大賀ハスの新たな名所にする。
- ・新名所では、植付けえや収穫の体験プログラムを行うほか、ハスの食材（レンコン、果実）や資材（果托、葉・茎等）



を生産・供給する拠点にする。

- ・ハス田は冬季湛水を行い、コウノトリ等鳥類の生息環境に配慮する。（例：豊岡市、鳴門市のコウノトリと共生への取り組み）

④各区で大賀ハスと触れ合える場所の整備

- ・稲毛区（穴川中央公園）、花見川区（しらさぎ公園）、若葉区（泉自然公園、御成台公園）、緑区（大百池公園、昭和の森）、美浜区（美浜園、花の美術館）等で大賀ハスを栽培する。

⑤情報発信のサテライト拠点

- ・既存の花の美術館、みずほハスの花図書館、郷土博物館、中央図書館をサテライト拠点として位置づけ、大賀ハスセンターと連携して情報発信力を高める。



(2) 寺社・城址・史跡との連携

- ・ハスと仏教は関係が深く全国で、ハスで有名な寺院が約20か所あり観光の名所になっている。例：稻泉寺（木島平）、円如寺（君津市久留里）、東伝寺（酒々井町）など
- ・千葉市内には大賀ハスで有名な寺院が1つもない。千葉氏所縁の寺社や各区の寺社で大賀ハスを栽培しPRする。
- ・大賀ハス等は、城（城址）や遺跡・古墳と相性がよい。これらの場所～縄文の森等で大賀ハス等を栽培しPRする。



(3) 吾妻町（蓮池）との連携

- ・吾妻町（蓮池）は、蓮との関わりが古く大賀ハス発見以前からであり、かつて本市の代表的な繁華街であった。

- ・蓮池祭りなどの機会を活用して大賀ハスと千葉氏のPRを行い、中心街の活性化に取り組む。



(出典) 千葉あそび 2017 春号

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) 中心拠点とサテライト拠点づくり

- ・千葉公園での大賀ハス栽培、情報発信に市民参加を積極的に取り入れる。
- ・日本一詳しいと称されたHP「大賀ハス何でも情報館」をリニューアルし、開花情報等の発信には市民からの情報提供やボランティアを導入する。

(2) 寺社・城址・史跡との連携

- ・大賀ハス栽培に参加していただける寺社を募集し、資材の補助、栽培指導を行う。
- ・千葉市花議連の提言もあり、縄文の森での大賀ハス栽培を具体化する。

(3) 吾妻町（蓮池）との連携

- ・蓮池通り商店街にハスの里親制度を活用してハス鉢を展示するほか、千葉あそびを活用しハスを題材にした体験プランを実施する。

5 ゴール（目指すべき姿）

- ・中心及びサテライト拠点の充実、寺社・城址・史跡・蓮池との連携強化により、大賀ハスとふれあえる機会が時間的・空間的に増大し、市民の愛着度が高まる。

6 必要な資源

- ・拠点作りに係る整備費、拠点の運営に係る維持費等
- ・寺社や史跡におけるハス栽培に係る人材、助成費等

2.5 大賀ハスを世界に発信する

1 目的

2020年の東京オリンピック・パラリンピックや大賀ハス開花70周年等の機会を通じて、大賀ハス発祥地としての千葉市を世界に向けて発信し、都市の魅力とブランド力を高める。

2 理由

- (1) 1964年の東京オリンピックでは東大グラウンドが競技会場となり、グラウンドの一角に「大賀ハス発祥の地」の記念碑が建てられ、世界に向けて大賀ハスが発信された。
- (2) 2020年の東京オリンピック等でも、千葉市（幕張メッセ）が競技会場となるため、大賀ハス発祥地としての千葉市を世界に発信する大きなチャンスである。
- (3) 大賀ハスの価値を高め郷土の誇りとして後世に伝えるため、開花70周年等の機会を通じて、シンポジウムの開催、大賀ハスの記念誌発行、ハス祭りの充実等が必要である。

3 内容

(1) 2大ハス祭りの充実

ア 毎年のハス祭り

- ・2大ハス祭り（千葉公園、花園）の充実と連携強化、各区の大賀ハスとの連携を深める。
- ・他都市（上越市、行田市等）のように観光協会との連携を強化しハス祭りを拡充する。
- ・千葉公園ではハスガイドや子供向け出し物（ハスの葉シャワー・お面等）を充実する。
- ・ハス祭りでは、ハスウォーキング、ハス音頭・ハス踊り、写真コンテストを開催する。
- ・千葉公園ハス池周辺に「古代蓮」をイメージしたイルミネーションを冬季に設置する。

イ 各区での取り組み

- ・各区の夏祭りで「蓮柄の浴衣」を着て「蓮音頭」を踊り、大賀ハスをPRする。また、各区の区民祭りで4つの資源のPRに努める。

(2) 大賀ハスサミットの開催

ア 大賀ハスサミット

- ・大賀ハスサミット2020（東京オリンピック開催記念）を開催し、世界に大賀ハスの価値と発祥の地千葉市を発信する。その際、外国人おもてなし語学ボランティアを活用する。

- ・サミットは、万国博覧会など国際的なイベント等の機会に併せて開催する。

イ 大賀シンポジウム

- ・開花70周年（2022）を記念し、大賀ハスシンポジウムを開催する。
- ・シンポジウムと併せて、大賀ハスの発掘から開花、普及など大賀ハスの価値を伝える企画展の開催、記念誌の発行を行う。
- ・シンポジウム及び企画展は、開花周年記念として10年毎に開催する。ミニ企画展は千葉公園や郷土博物館で毎年開催する。

(3) 東京オリンピック・パラリンピックでのPR

- ・オリンピック会場の幕張メッセ正面広場に、大賀ハスを中心とした花ハスを1000鉢展示し、国内外の来場者に大賀ハスと千葉市を積極的にPRする。

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) 2大ハス祭りの充実

- ・2大ハス祭りの合同ポスター、チラシを制作、発行する。
- ・ハス祭りの実施に際し、ボランティアや企業の参加を積極的に活用する。
- ・ハス祭りと同時開催のハスウォーキングをシティガイドと共同で実施する。
- ・子ども向けの体験プログラムを企画、実施する。

(2) 大賀ハスサミットの開催

- ・2020年の東京オリンピックに向けて、大賀ハスサミットの開催、花ハスの展示について2018年度からその準備に取り組む。
- ・2020年の開花70周年に向けて、大賀ハスに関する資料文献の収集・保存・整理を2018年度から取り組む。

(3) 東京オリンピック・パラリンピックでのPR

- ・2020年の東京オリンピックの開催に向けて、花ハス1000鉢を展示する準備を2018年度から始める。

5 ゴール（目指すべき姿）

- ・2大ハス祭りの拡充と大賀ハスサミット等の開催により、国内外に大賀ハスの価値と認知度が高まり、大賀ハス発祥地としての千葉市のブランド力が国内外に定着する。

6 必要な資源

- ・2大ハス祭りの開催に係る実行委員会等の組織、諸費用、人材等
- ・大賀ハスサミットの開催に係る実行委員会等の組織、諸費用、人材等



行田古代蓮の里イルミネーション



大賀ハスシンポジウムちらし

3 参考資料

目次

- 1 SWOT解析による戦略課題の検討
- 2 各資源の特性評価
- 3 アンケート調査
- 4 大賀ハスシンポジウム～大賀ハスの発掘からの半世紀を振り返って～
- 5 先進事例等の調査・視察
 - 5-1 全国のハス祭りの実施状況
 - 5-2 町田市大賀蓮絲館視察（平成29年3月日）
 - 5-3 鳴門古代蓮古代米プロジェクトのヒアリング
 - 5-4 鳥取市鹿野町における蓮のまちプロジェクト（照会）
 - 5-5 福島県国見町における中尊寺蓮の栽培について（照会）
 - 5-6 香取市水郷佐原あやめパークの花ハス栽培
 - 5-7 府中市郷土の森公園修景池の花ハス栽培
- 6 大賀ハス祭りへの参加
- 7 都市アイデンティティPR誌の取材に協力

1 SWOT解析による戦略課題の検討

SWOT解析から考えられる戦略課題（実施施策）の検討を行った。

SWOT	実施施策・戦略
機会 O ・他の地域資源と連携したツアーやイベントがない	→加曾利貝塚 坂月川周辺の畠田のハス栽培
弱み W ・千葉公園周辺の地域住民との交流がない。 ・他市のハス祭の方が有名（行田、上越高田、愛知森川、岐阜羽島） ・千葉市は観光協会が弱い。 ・他市は組織が一本化されているが千葉はバラバラ。 ・本家意識の欠落 ・検見川の大賀ハス発祥の碑が活用されていない。 市民がアクセスする方法がない。自由に入れない。 ・大賀ハスの展示が不十分 ・ハス文化が普及していない。	→千葉公園と検見川のハス祭の一體運営 →「発祥の地」物語、絵本・ビデオ等を制作 →期間限定で東大グランドを解放する。 →紙の説明はNG。ビデオや模型が欲しい。 →大賀ハスサミットの開催 →蓮文化研究会との交流 →ハス守（ハス検定） →鴨川のハス栽培農家との連携 →駅、小学校、区役所にハスの展示 →ハス栽培講習会を増やす →市民参加のハス栽培園の運営（坂月川の活用） →→ハス関連イベント情報、ガイド情報の共通管理（花びと会、ふるさとの会、花の美術館等が連携） ・国（東大）と市が縦割りで連携がない。
脅威 T ・各地の大賀ハスの交雑化が進んでいる。分根先で系統保存が危うい。	

大賀ハスの内部要因	大賀ハスの外部要因
【強みS】人・物・金などの資源や歴史風土 ○コンテンツの充実 ・原種所縁の市内3カ所で系統保存を実施（旧緑地実験所、千葉公園、農業試験場） ・技術講習会の実施（行政、市民） ・発祥地を活用した地域づくりの支援（ふるさとの会） ・ちはなちゃんの復権 ・大賀ハスは早く咲くが東大緑地実験所は多種のハスがある ○親しみ楽しむ機会づくり ・千葉公園蓮華亭にハスの展示施設がある ・郷土博物館での大賀ハスミニ企画展 ・千葉開府850年記念碑に大賀一郎が載っている ・小学校副読本に大賀ハスが紹介されている ・小学校で少数だが大賀ハスを栽培 ・千葉公園で大賀ハスの講座を開催 ・生涯学習センターや公民館で大賀ハスの講座を実施 ・中央図書館で大賀ハス関連の資料リストを作成 ・千葉公園と花園で大賀ハス祭りを開催 ○見える化 ・千葉公園、しらさぎ公園、旧緑地実験所などハスの名所がある ・幕張海浜公園にハスの名所を整備	【機会O】ニーズ・役割・機会の拡大 ○コンテンツの充実 ・駅からハイキングの目玉コース ・ストーリ性を持たせることが出来れば、外にアピール出来る ○親しみ楽しむ機会づくり ・小学校教科書に大賀博士の功績が紹介されている ・全国的に花ハス中で大賀ハスの人気が極めて高い ・蓮文化研究会の代表が千葉市民である ○見える化 ・成田空港に2015年、蓮の和風庭園が完成 (大賀ハスを栽培展示) ・千葉駅リニューアルでハスの時計が待合場所に設置
○発信・プロモーション ・大賀ハス開花60年のイベントを実施した ・開花60周年を記念してリーフレットを発行した ・日本一詳しい大賀ハスのHPを制作公開している ・姉妹都市等と大賀ハスを通じた国際交流をしている	○発信・プロモーション ・駅からハイキングにより県外への周知度が向上している ・成田空港の蓮の和風庭園で英語版のリーフレット配布 ・2010.7.5宇多田ヒカルが千葉公園を訪れブログで発信 ・たとえば、一家に一鉢運動のアピール ・民間活力の導入・参入のアピール ・大賀ハスサミットを関係都市に呼びかける

【弱みW】人・物・金の資源や歴史風土	【脅威T】ニーズ・役割・機会の縮小
<p>○コンテンツの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術指導者の不足 ・栽培人材の不足 ・栽培ノウハウの蓄積が不十分 ・最近、生育・開花状況が芳しくない ・大賀ハスガイドが貧弱 ・大賀ハスの観賞や栽培の体験観光メニューがない ・他の地域資源と連携したツアーやイベントがない ・大賀ハス関連グッズの開発が不十分 ・連携化された動きがない(国、県、市の縦割り行政) 	<p>○コンテンツの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発祥地(東大緑地実験所)の閉鎖、売却の危機 ・花ハス栽培実験地の閉鎖、技術継承が困難 ・大賀ハスの交雑の拡大(分根先) ・温暖化により大賀ハスの開花が ・花園観蓮会の存続(地元自治会とボランティアで何とか継続)
<p>○親しみ楽しむ機会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓮華亭の常設展示が質・量ともに不十分 ・イベント時の企画展示が不十分 ・加曾利貝塚における大賀ハスの展示がない ・大賀ハス関連の資料の分散、蓄積が少ない ・郷土博物館における大賀ハス講座がない ・小学校での大賀ハス栽培が少ない ・大賀ハスを市民が学べる機会が少ない ・ハスの植替えを体験できる機会と場所が少ない ・大賀ハス博士のようなハスの語り部がいない ・公園以外の職員に大賀ハスを学ぶ機会が少ない ・大賀ハス祭りの拡大・充実には人・物・金が不十分 ・ハスの食文化が普及していない 	<p>○親しみ楽しむ機会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大賀ハス研究の東大緑地実験所が閉鎖、売却の危機 ・花園ハス祭りの継続が不確実になっている
<p>○見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稻毛区、若葉区、緑区にハスの名所がない ・各区役所で大賀ハスを栽培展示していない ・花の美術館でハスの展示・栽培が積極的でない ・縄文遺跡(加曾利貝塚)と連携したハスの名所がない ・ハスを感じさせるアートやデザインがない ・千葉公園通りにハスを感じさせるサインがない ・他市のハス祭りの方が有名 	<p>○見える化</p> <p>○他市組織の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年は、他市の動きが活発化している(岡山県吉備町等) ・吉備町は2年前に保存会が発足、昨年は大賀博士没後50年追憶展を開催
<p>○発信・プロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大賀ハスが初めて開花した7月18日のPRが不十分 ・大賀ハスのHPの維持・更新が不十分 ・イベントに使用するパネル等の資料が不十分 ・報道やPRに提供する写真やデータの蓄積が不十分 ・ハスに関する国内外の連携・交流が不十分 ・市民および外部に伝わっていると言い難い、人・物・金の不足 ・大賀博士は千葉市出身で無いので大賀博士をアピールしづらい 	<p>○発信・プロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化により大賀ハス祭りの開催が早くなっている ・花園ハス祭りの時は、大賀ハスの最盛期を過ぎている ・緑地実験所の閉鎖に伴い東大との連携が希薄になった ・人・物・金がかかる

2 各資源の特性評価

各資源の現状分析と特性把握のため 6 つの視点から特性評価を行った。

特性評価項目 32項目			特性評価 (1~5点 5段階)	評価理由		対応策（研究テーマ/具体的な施策） どうしたら改善するか？より高まるか？
				プラス評価事由	マイナス評価事由	
列1	列2	列3	列4	列5		
1. 【総合】ブランド力特性						
11) 1) 愛着度	大賀バスが街にあることに愛着を感じますか？	3		岡山や和歌山のような愛着が少ない	小学校や転入者に価値をPRする	
12) 2) 誇り度	大賀バスが街にあることに誇りを感じますか？	3		岡山や府中のような誇りが少ない	小学校や転入者に価値をPRする	
13) 3) 推奨度	大賀バスに訪れるることを友人・知人に（住むこと・遊びにくること・働くこと）薦めたいですか？	3		行田や高田のような名所がない	大賀バスの大きな名所をつくる	
14) 4) 認知度・知名度	大賀バスを知っているか？全国で唯一の価値ということを知っているか？	3		発祥地のことがあまり知られていない	大賀バス発祥地であることをPRする	
15) 5) 集客力	大賀バスに訪れたことがあるか？どのくらいの頻度で訪れるか？	3		花朝れではあまり魅力がない	行田のようなバス記念館をつくる	
16) 6) 発信力（ストーリー性・千葉らしさ）	大賀バスの価値を伝えるストーリーが確立されているか？千葉市らしさとして発信されているか？	3		漫画や動画等のメディアがない	漫画や動画等のメディアを充実する	
17) 7) 社会貢献力	大賀バスは、社会貢献性の高い事業（プロジェクト）を行っているか？	2				
18) 8) ブランド継続力（持続可能性）	大賀バスは、ブランド力を長期的に維持・継続できているか？	2		大賀バス発祥地の存続が不安	大賀バス発祥地の永続性を高める	
2. 【商業的側面】観光力特性						
21) 1) 本業における魅力的コンテンツ提供	大賀バスは、（本業における）常設展示、体験、イベント等、魅力的なコンテンツがハート面・ソフト面含め発信・提供できているか？	2		展示、イベント、HPが不十分	展示、イベント、HP等を充実させる	
22) 2) 本業外の魅力的コンテンツ提供	大賀バスは、本業外に魅力的なコンテンツ（ショピング、グルメ、散策、遊び、etc）を提供できているか？	2		お菓子、料理、遊びが不十分	お菓子、料理、遊びを充実させる	
23) 3) アクセシビリティ	大賀バスは、公共交通、駐車場、歩行者、ツーリストへの案内標識など良好なアクセシビリティを提供できているか？	3		JR主要駅でのPRが不十分	JR主要駅でのPRを充実させる	
24) 4) 周辺地域への波及効果	大賀バスは、周辺商業者へ産業・経済的貢献（収益貢献、雇用貢献など）波及効果を得られているか？	2		物販や飲食にほとんど貢献していない	JR主要駅でのPRを充実させる蓮を使った商品・料理を開発する	
3. 【学術的側面】学術特性						
31) 1) 歴史・文化（学術的）価値	大賀バスは、歴史・文化（学術的）価値があり、効果的に発信・提供できているか？	3				
32) 2) 自然（学術的）価値	大賀バスは、自然科学（学術的）価値があり、効果的に発信・提供できているか？	2				
33) 3) 学習・教育的価値	大賀バスは、学習・教育的価値を提供できているか？	4		小学校の教科書に採用されている遺伝子解析が進んでいる	古代蓮の信憑性を十分にPRする	
34) 4) 最先端（技術）度	大賀バスは、IoT・最先端（技術）を取り入れた取り組みをしているか？	4				
4. 【景観・自然環境的側面】自然・景観特性						
41) 1) 景観的価値	大賀バスは、景観的価値を提供できているか？	3		自然環境保全との関連性が希薄		
42) 2) 自然環境的価値	大賀バスは、自然環境維持・保全の質に寄与しているか？	2				
43) 3) 自然・地形的特性を活用しているか	大賀バスは、自然・地形的特性を活用しているか？	2		自然特性を活用した栽培が行われていない	谷津田等を活用した蓮の栽培を行う	
44) 4) 周辺地域の価値を上げる環境となっているか	大賀バスは、周辺地域の価値を上げる環境となっているか？	3				
5. 【日常生活的側面】くらし・市民生活						
51) 1) 近隣住民への価値提供	大賀バスは、本業において、近隣住民に日常生活に不可欠（代替不可能）な価値を提供しているか？	2		大賀蓮が身近な存在となっていない	大賀蓮が身近な存在に高める	
52) 2) 近隣住民のくらしの質の向上	大賀バスは、本業外含め、近隣住民のくらしの質の向上に寄与しているか？	2		暮らしどとの関連性が希薄	暮らしどとの関連性を高める	
53) 3) 近隣住民が活躍する場の提供	大賀バスは、近隣住民が活躍する場が提供されているか？	2		花園など一部の活動にどまっている	活動の場を広げる必要がある	
54) 4) 近隣住民のコミュニティ向上	大賀バスは、近隣住民のコミュニティ向上に寄与しているか？	2		花園など一部のコミュニティに留まっている	コミュニティの場を広げる必要がある	
6. 組織・協働・連携【体制】						
61) 1) 中心組織の体制	中心組織の体制は整っているか、リーダーシップがあるか？	2		和歌山のような組織がない	保存会・普及会のような組織を作る必要がある	
62) 2) 外部有識者との協力体制	協力が得られる外部有識者がいるか？	4		南氏等の専門家が在住する		
63) 3) 支援組織との連携	支援組織・関連サークルがあり、連携しているか？	2			ふるさとの会や花びと会がある程度	連携組織を増やす必要がある
64) 4) 地域組織との連携	町会・自治会などの地域組織と連携しているか？	2			ふるさとの会や花びと会がある程度	連携組織を増やす必要がある
65) 5) 地域市民との連携	地域住民から連携・協力を得られているか？	2			ふるさとの会や花びと会がある程度	連携組織を増やす必要がある
66) 6) 行政組織との連携	各種行政組織と連携しているか？（学校etc）	2			ふるさとの会や花びと会がある程度	連携組織を増やす必要がある
67) 7) 全国関連組織との連携	地域（行政区）を超えた全国関連団体等と連携しているか？	1			全国的団体との連携がない	大賀蓮サミットのような場を設ける必要がある
68) 8) 連合協議会等の設置	連合協議会等の複数団体が参加する場が設置されているか？	2				参加する場を充実する必要がある

3 アンケート調査

大賀ハス祭りの来場者を対象に大賀ハス及びハス祭り等に関するアンケート調査を実施した。

(1) 質問内容

1 はじめに、あなた自身についてお聞きします。(該当する番号・文字に丸印をつけて下さい)

1-1 性別 ①男性 ②女性

1-2 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上

1-3 居住地 ①千葉市内(中央区・稲毛区・花見川区・若葉区・緑区・美浜区)

②千葉県内(市町村)、③関東(東京・神奈川・埼玉・茨城・栃木・群馬)④その他(県府道)

2 大賀ハスについてお聞きします。

2-1 大賀ハスについてどの程度知っていますか。

①詳しく知っている、②名前は知っている、③知らなかった

2-2 大賀ハスの情報は何で知りましたか。

①市政だより ②市ホームページ ③新聞・テレビ ④本・教科書 ⑤リーフレット ⑥千葉公園

⑦千葉市がもっと好きになる本 ⑧その他()

2-3 千葉市の花が「大賀ハス」であることを知っていましたか。

①知っていた ②知らなかった

2-4 大賀ハスとふれあう(花の観賞等)機会はどれくらいありますか。

①たくさんある ②ときどきある ③あまりない ④まったくない

2-5 大賀ハスが千葉市に良いイメージ(印象)を与えていると思いますか。

①大きいにある ②少しある ③あまりない ④まったくない

2-6 大賀ハスが千葉市の特徴や魅力を高めるために何をしたら良いと思いますか。

①ハス祭りを大規模にする ②ハスを活用した商品や料理 ③情報発信 ④ハスのキャラクター

⑤大賀ハスの漫画やビデオ ⑥大賀ハスの名所づくり ⑦その他()

3 大賀ハス祭りについてお聞きします。

3-1 大賀ハス祭りの参加は何回目ですか。

①初めて ②2回目 ③3回目 ④4回以上

3-2 大賀ハス祭りのことは何で知りましたか。

①市政だより ②市ホームページ ③ポスター・チラシ ④新聞・テレビ ⑤知人から

3-3 大賀ハス祭りの印象はどうでしたか。

①大変良かった ②良かった ③普通 ④良くなかった

3-4 祭りで良かったものは何ですか(いくつでも丸印を付けてください)

①大賀ハスの話 ②講演・演奏 ③象鼻杯 ④飲食 ⑤物販 ⑥その他()

3-5 祭りで良くなかったもの改善してほしいものはなんですか(いくつでも丸印を付けてください)

①会場 ②講演・演奏 ③案内 ④飲食 ⑤トイレ ⑥駐車場 ⑦その他

4 今後、大賀ハスのイベントを予定しています。参加したいと思いますか(A、Bに○印)。

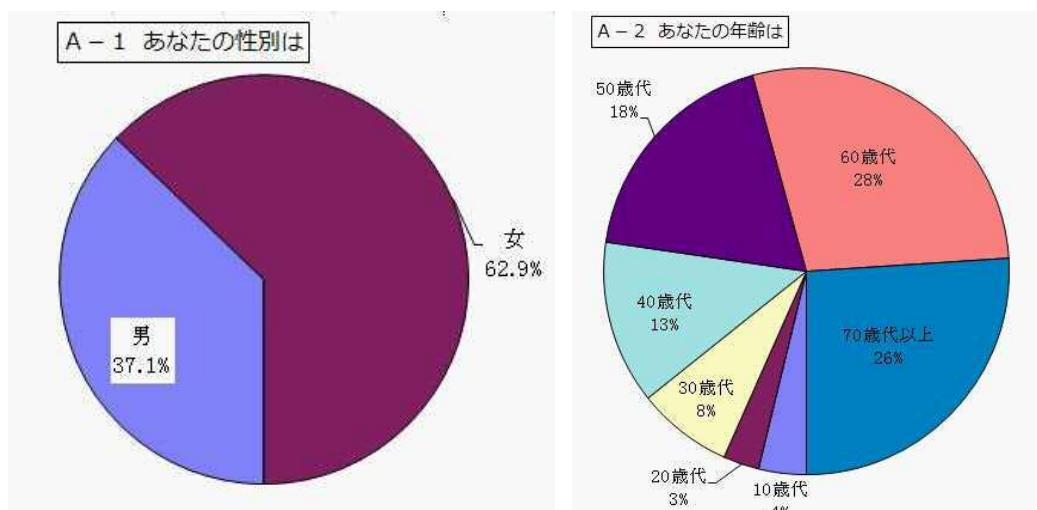
A: 花園大賀ハス祭り(7月16日) B: 大賀ハスシンポジウム(7月22日)

①ぜひ参加したい(Aに、Bに) ②できれば参加したい(Aに、Bに) ③参加したくない

(2) 集計結果（単純集計）

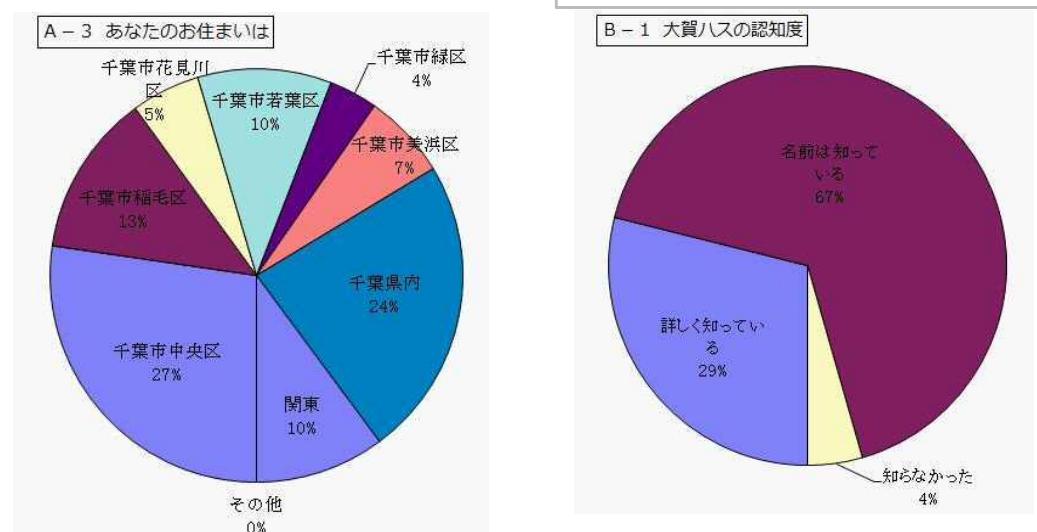
- 1 日時 2017年6月17、18、24日 9~12時
- 2 場所 千葉公園・蓮華亭前
- 3 対象 大賀ハス祭り参加者
- 4 方法 ポスター掲出、呼びかけ。希望者に調査表を手渡し回答してもらった。
回答者を増やすため、特性しおりを配布した。
- 5 回収数 315枚

6 集計結果



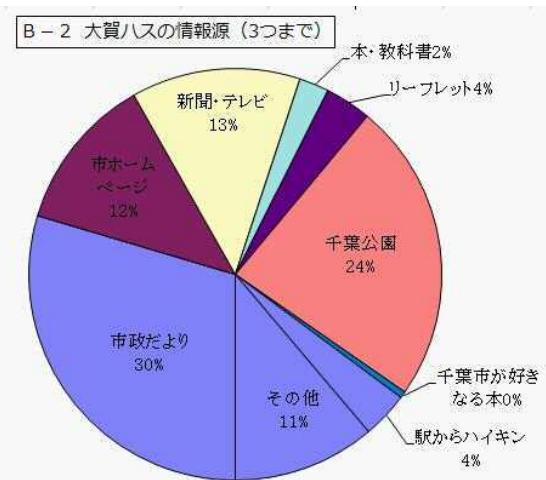
・男性と比べて女性が1.7倍、26ポイント多かった。

・年齢は、60代、70代が最も多く、全体の54%を占めた。
・40代、30代が多く、全体の31%を占めた。
・10代、20代、30代は少なく、全体の15%であった。

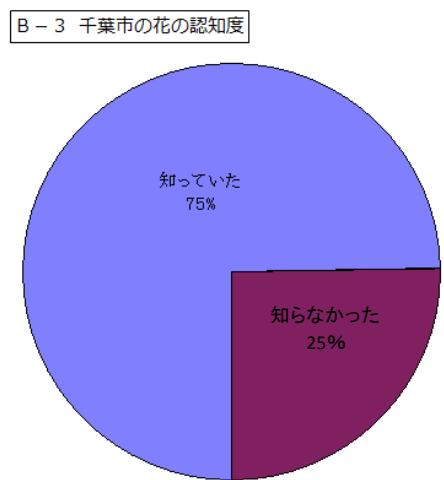


・市内が66%、市外が34%であった。
・市内は、中央区、稲毛区、若葉区の順で多く、美浜区、花見川区、緑区の順で少なかった。
・県内は、四街道、習志野、船橋、市川、佐倉、市原など近隣都市が多かった。
・県外は、東京都、神奈川県などが多かった。

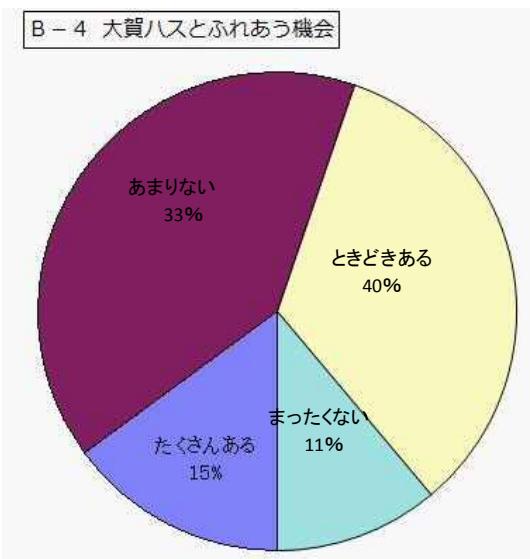
・名前は知っているが約7割と最も多かった。
・詳しく知っているは、約3割であった。



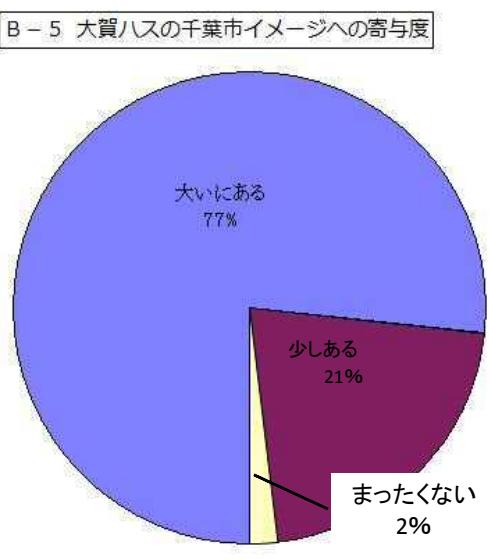
- ・市政だより、千葉公園、新聞・テレビ、市HPの順で多く、これらで全体の約8割を占める。
- ・千葉公園が24%と多くなったのは、設問の設定に問題があった可能性がある。
- ・その他は、知人や学校等がある。



- ・知っているが全体の75%を占める。
- ・認知度は、市内が82%と高いの比べ、市外は60%とやや低かった。

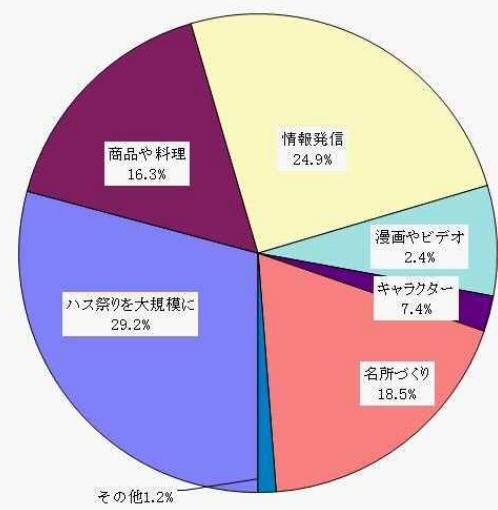


- ・ときどきある、たくさんあるで55%であった。
- ・あまりない、まったくないで44%であった。
- ・増え会う機会は、市内、県内、県外の順で少なくなる傾向が認められた。



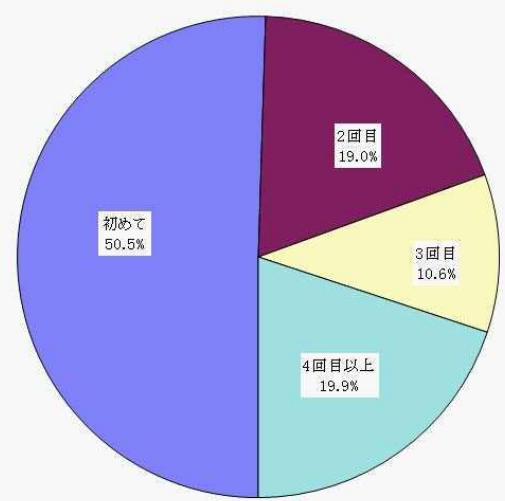
- ・千葉市のイメージの寄与度は、大きいにあるが77%、少しある21%を加えると、全体の98%となった。
- ・寄与度のは、市内の方が少し高いが、市外との差異はあまり大きくない。

B-6 大賀ハスが千葉市の魅力を高める方法（3つまで）



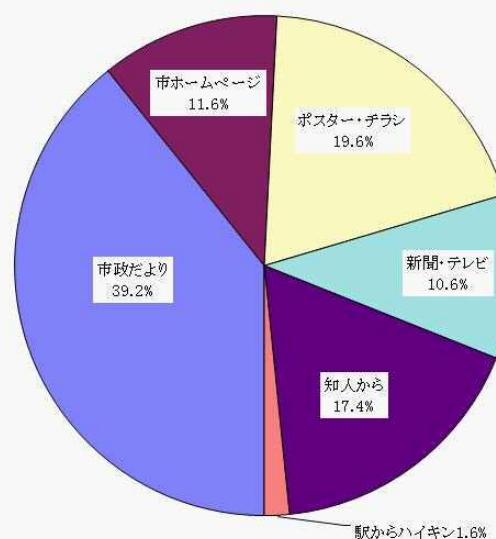
- ・ハス祭りを大規模に、情報発信、名所づくり、商品・料理の順で多かった。
- ・漫画・ビデオ、キャラクターはあまり多くなかった。
- ・その他には、千葉公園をもっときれいに、花の見せ方の工夫等の意見があった。

C-1 大賀ハス祭りの参加回数



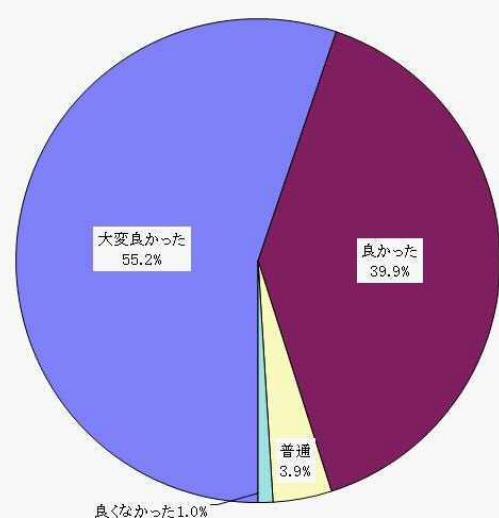
- ・初めてが約5割と最も多い。
- ・次いで、4回目以上、2回目、3回目の順であった。
- ・初めてが多いのは、花見川区、千葉県内、緑区の順であった。
- ・4回目以上は、緑区、若葉区、稲毛区の順であった。

C-2 大賀ハス祭りの情報入手先



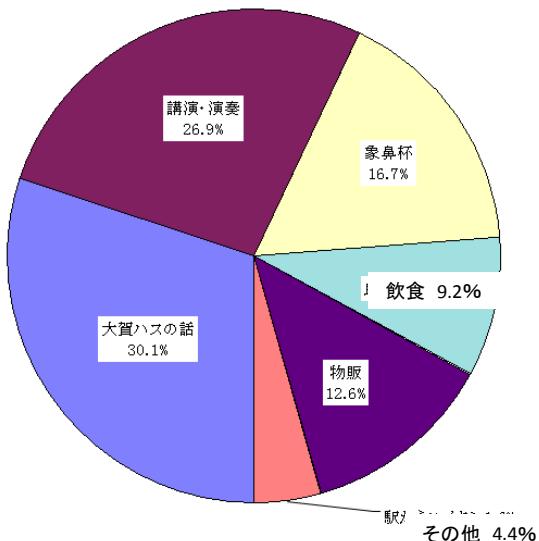
- ・多かったのは、市政だより、ポスターちらし、知人からの順であった。
- ・次いで、市ホームページ、新聞・テレビの順に多かった。
- ・40代以上は市政だよりも多く、70代は5割であった。
- ・市内は市政だよりも多く、市外は新聞・テレビ、チラシ・ポスターが多かった。

C-3 大賀ハス祭りの印象



- ・全体の95%が良かったと感じている。
- ・印象に、年齢や居住地による差異はあまりなかったが、20代は大変良かったが88%と大変多くなっている。

C-4 祭りで良かったもの（3つまで）



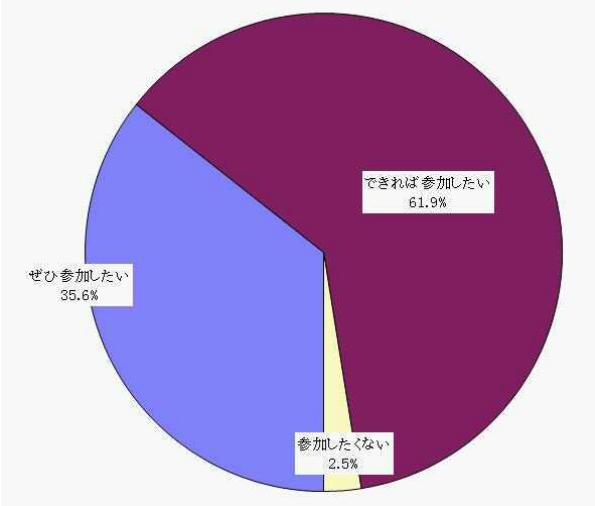
C-5 祭りで良くなかったもの・改善点



- 多かったのは、大賀ハスの話、講演・演奏、象鼻杯の順であった。
- 大賀ハスの話は、6/19～25のハスガイドを含んでいると考えられる。
- 次いで多いのは、物販、飲食であった。
- その他は、花そのもの美しかった、カフェハーモニーなどであった。

- 多いのは、トイレ、駐車場、案内の順であった。
- 次いで多いのは、会場、飲食、講演・演奏であった。
- その他は、静かに花を観賞したいので、演奏などのイベントは必要ないなどの意見があった。

D-1 大賀ハス・イベントへの参加意向



- できれば参加を含め、98%が参加したいと回答した。
- 参加したいイベントは、花園はす祭りが多く、シンポジウムは少なかった。

4 大賀ハスシンポジウム～大賀ハスの発掘からの半世紀を振り返って～

(1) 開催趣旨

千葉市の花「大賀ハス」の開花 65 周年の機会に、大賀ハスの発掘からの半世紀を全国的な視点から振り返り、大賀ハスの未来について考えるためシンポジウムを開催した。

まちづくり未来研究所の活動の一環として、シンポジウムの発表者及び事務局の手伝い等として参加した。

(2) 開催概要

- ア 主催 蓮文化研究会、大賀ハスのふるさとの会、花びと会しば
- イ 後援 千葉市、千葉市文化振興財団、千葉市観光協会
- ウ 協賛 ヤマサ醤油、平和交通、アスカ、共和技術コンサルタンツ
- エ 日時 平成 29 年 7 月 22 日(土)14:00～16:30
- オ 場所 千葉市文化センター5 階セミナー室
- カ 人数 133 人(当日参加者、関係者含む)

(3) 開催プログラム

- ア 主催者挨拶 大賀ハスのふるさとの会 会長 金子 建一郎
- イ 来賓挨拶 千葉市議会花のあふれるまちづくり推進議員連盟 幹事長 近藤千鶴子
- ウ 熊谷俊人千葉市長祝辞(代読 緑政課緑と花の推進室長 香川京子)、来賓紹介
- エ 第1 部 基調講演 (14:10～15:00)
 - ・演題 『大賀ハスの発掘からの半世紀を振り返って』
 - ・講師 阪本尚生(和歌山大賀ハス保存会長)
 - ・内容 大賀ハスの国内外への広がり、大賀ハス疑惑論争、大賀ハス擬きの出現と遺伝子組成近年の研究動向などについて。
- オ 第2 部 基調報告 (15:00～15:30)
 - ① 演題 『東大緑地植物実験所と大賀ハス』
 - ・講師 南 定雄(蓮文化研究会会長、元東京大学技術専門官)
 - ・内容 東大緑地植物実験所の果たした役割、大賀ハスに関する研究成果などについて。
 - ② 演題 『千葉市における大賀ハスの取組み』
 - ・講師 斎藤久芳(元千葉市中央・稻毛公園緑地事務所長)
 - ・内容 千葉市の大賀ハス栽培の歴史、吉田公平氏と大賀ハス、千葉市の花制定などについて
 - ③ パネルディスカッション (15:45～16:30)
 - ・題目 『大賀ハスの未来について』
 - ・パネリスト 阪本尚生、南定雄、斎藤久芳
 - ・内容 テーマ: 「過去に学ぶ」、「これから広がり・普及について」、「千葉市における環境整備について」

(4) 発表者レジュメ

ア 大賀ハスの発掘からの半世紀を振り返って (和歌山大賀ハス保存会 阪本尚生)

1. 自己紹介

御坊市

大賀池 和歌山県日高郡美浜町三尾

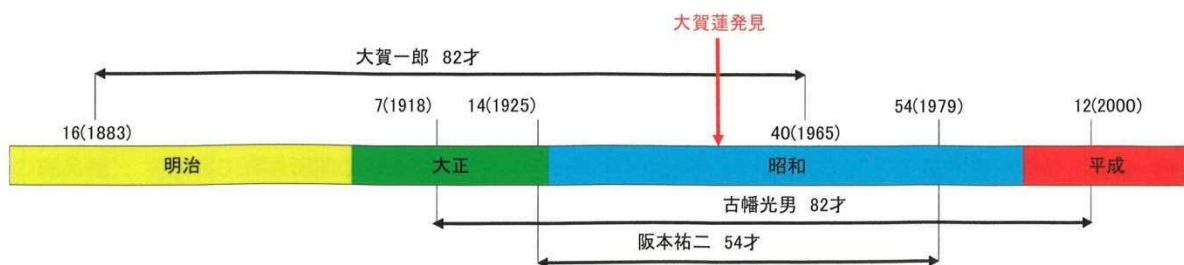
1962 (昭和 37) 年 千葉県教育委員会から御浜町に分根される。

1966 (昭和 41) 年 和歌山県大賀ハス保存会発足。

2011 (平成 23) 年 大賀ハス発掘 60 年記念式典

2. 大賀ハスに関わる 3 人

大賀一郎 阪本祐二 古幡光男



大賀一郎

・略年譜

- ①青少年時代
 - ②満州時代
 - ③帰国
 - ④戦災で財産を失い府中市へ移住
 - ⑤大賀ハス発見
 - ⑥多くの業績と受章
- ・最近の大賀一郎と大賀蓮についての話題

3. 大賀蓮発見前史

- ①満州時代の研究
- ②滑川出土の古蓮実が発芽
- ③検見川発掘を思い立つ

4. 大賀蓮発見

多くの千葉市民の協力で発掘が成功し、翌年千葉市で開花する。

5. 大賀蓮発見から今日まで

(1) 真偽論争

阪本祐二について

論争のきっかけとなった論文

①疑惑勃発から 紙上論争へ

②疑惑騒動収束へ

③疑惑騒動：燻りから終結へ

論争の背景

④海外での中国古代蓮論争

騒動以後今日まで

中尊寺 宇都宮の印南蓮

(2) 真正問題

古幡光男氏について

初期分根地

①大賀蓮擬き問題顕在化

②ハス品種の分類にDNA分析が導入

東京大学 鳥取大学 京都府立大学

③本当の大賀蓮は？

④まとめにかえて



大賀蓮

和歌山県大賀池にて撮影

イ 東大緑地植物実験所と大賀蓮（蓮文化研究会 南定雄）

元東京大学農学部付属緑地植物実験所は、造園用植物、観賞用植物の収集、栽培、繁殖、利用に関する技術の教育と研究を行う目的として設置され「園芸実験所」として昭和29年に開所されている。

開所当時から30年後半までは、学生寮もあり、往時の名残の漂う場所であった。戦中や戦後、甘藷畑や、麦畑であつが、草花や樹木が少しずつ集められ、樹木見本園も整備が始まった。平成12（2000）年には大学院学生命科学研究科の付属施設になり、大学院教育に移行し大学院生が緑地生物学に関する研究を行ってきた。平成24（2012）年4月に西東京市の多摩農場に移転した。

緑地植物実験所で花蓮品種が収集されるきっかけは元をただせば、隣接する東京大学検見川厚生農場（現、東京大学検見川総合運動場）の地下約5.7mの青泥層から大賀一郎博士により3粒の古蓮の種子が発掘（昭和26年3月30日）され、その内の一粒が発芽し開花したことによ来している。

昭和27年4月7日千葉県農業試験場で古蓮の種レンコン3本が掘り上げられた。一番大きく充実した種レンコンは一旦東京大学厚生農場に植えられたが、管理上の都合で地元の旧家伊原茂氏宅に移された。この蓮は順調に育ち、昭和27年7月18日開花した。

東京オリンピックが行なわれた昭和39年の7月18日総合運動場に発掘記念碑が建設され除幕式が大賀一郎博士の出席のもと盛大に執り行われた。それに先だって4月初旬、総合運動場内の記念碑建設予定の近くの池に、里帰りとも言うべき、大賀蓮の植付けを私共〔当時園芸実験所〕職員が行なった。この年は、大賀蓮が見事にこの池に咲き乱れていたことを思い出します。

大賀一郎博士は昭和40年6月15日永眠された。大賀博士が収集されていた花蓮の10

数種を神代植物公園、府中競馬場、園芸実験所がそれぞれ譲り受け花蓮品種の保存と育成を行うことになった。

昭和41年、園芸実験所では、土中に穴を掘りビニールフィルムで池を作り、植付けを行なった。これが、園芸実験所での花蓮品種の栽培の始まりである。

昭和42年には大賀一郎博士の遺品種で園芸実験所になかった10数の品種も収集され、大賀一郎博士のハスが「花蓮品種見本園」に植栽された。花蓮の展示と品種保存への先駆けとなっていました。

当時園芸実験所で収集していた品種は下記の22品種である。

- ①大賀蓮 ②王子蓮 ③漁山紅蓮 ④中日友誼蓮 ⑤毎葉蓮 ⑥籐壺蓮 ⑦妙蓮
- ⑧玉繡蓮 ⑨天竺斑蓮 ⑩炉山白蓮 ⑪支那蓮 ⑫孫文蓮 ⑬金輪蓮 ⑭白君子小蓮
- ⑮嘉祥蓮 ⑯西湖蓮 ⑰白万万 ⑱福岡八重 ⑲原始蓮 ⑳原4・原16・原21

その後、和歌山の故坂本祐二先生より、ミセス・スローカム・バージニア他数種と長島時子先生から漢蓮（白玉蓮）の品種が収集され昭和50年頃には約40品種となった。

昭和61年には、紅舞妃蓮、明光蓮、仏足蓮、アメリカ白蓮、即非蓮、小寿星蓮、他に漁山紅半八重などの品種が収集された。また、緑地植物実験所に於いて、金輪蓮と王子蓮の交配で輪王蓮（花色は白が優占するが基部が淡黄色）や即非蓮と白君子小蓮の交配で花色は桃色、条線がはっきり表れ弁先はやや尖り中型で花付の良い紅君子蓮などが作出され品種も67種になってきた。

平成6、7年には、花蓮栽培の盛んな隣国、中国の花蓮情報が入手できるようになり、中国品種の導入が望まれるようになった。

白川藩主松平定信（楽翁公 1758-1829）は江戸築地に「浴恩園」をつくり園内に全国から約90品種の蓮を収集して育成していました。これらの蓮を写生させた「浴恩園蓮譜」がありました。今はのこっていません。岩崎常正の「本草図譜」文政11年（1828）では松平定信が集めたと思われる72種類の蓮図が載っています。

戦後、日本と中国の関係が正常でない時期、1963年日本から大賀博士と坂本先生が大賀蓮の実を中国に贈っています。1965年武漢植物研究所で大賀蓮と中国古代蓮を交配して「中日友誼蓮」（紅、一重）が生れて1966年には10粒が日本に贈られています。

また、坂本先生は武漢植物研究所に孫文蓮、太白蓮、舞妃蓮、蜀紅蓮、即非蓮、など10数の花蓮を贈っています。このように蓮を通じて中国と日本の関係は、不幸な時代を経ても蓮根のように繋がってきました。

平成7年には京都フラワーセンタで保存されていた巨椋池系の導入の機会があり、小倉西（紅、白一重）、妙蓮寺（濃桃、一重）、春日の森（桃、一重）など20品種が収集された。

この時期、念願の中国との蓮交流が行なわれるようになり、中国品種の導入を行うことができた。これは、民間の遠藤剛氏の協力が大であった。この時の主な品種の導入は北京植物園から大洒錦（斑、八重）、中型の斑品種、剣舞蓮（舞妃蓮の自然交雑、黄白で一重）花弁が剣弁で尖っている、重台蓮、（桃、八重）花托の上面に花弁がある・武漢市蔬菜科学研究所、からは解放紅（紅、一重）、粉千葉（紅、弁先紫、八重）など・中国花卉協会花蓮分会（武漢市）は千弁蓮（紅、千枚以上）日本の妙蓮と花の形や葉の感触が違う、碗蓮品種の案頭春（紅、半八重）、喜上眉梢（桃、一重）・南京市江浦県城東芸碗蓮からは主に碗蓮品種の娃娃蓮（白、一重）、香山碗蓮（白、一重）紅蓋托珠（粉紅、八重）など70品種の小型の蓮が導入された、今まで国内に導入記録がない品種ばかりである。（参照、花蓮の遺伝資源リスト）。

平成11年には皇居和蓮が蓮謙一氏よりもたらされた。 平成13年には京都府で巨椋池

系の花蓮の収集と育種家の内田又夫氏から精華（白地に弁先紅色、一重）、紅驚（紅、一重）、紅ガニ（濃紅、一重）などの品種の導入ができた。

緑地植物実験所では、アメリカ黄蓮や、中国から導入された品種を用いて交配を行ない新品種の育成を平成5（1995）年頃より再び始めています。知里の曙は（即非蓮とバージニアの交配）、淡紅紫の一重で花丙が葉より高く伸び、花付がよく一斉に咲く、桃白条は中国蓮の青菱紅蓮とアメリカ黄蓮の交配種、花色は桃色で条線が白くはつきりと表れています。愛嬌は小舞妃蓮と黄連（小型）の交配品種、花色は紫紅色、花弁数18枚前後の一重、花弁が丸く大きいのが特徴、2日目はさらにふくよかな感じになる。

香風は碗蓮の系統で香山碗蓮と小舞妃の交配品種。花色は白、花径は10cmと小さい、花態は碗状で花弁が整っている。葉柄も太く、葉も厚く、生育が良く碗蓮品種として特に有望である。

このように国内外の花蓮の収集や緑地植物実験所での交配で新しくできた品種を含めると250品種以上の花蓮が遺伝資源として保存されてきた。花蓮は花色の多彩と品種の多様性が（大型種から小型種）あることだと思います。また大賀蓮の魅力は発掘された経緯と、ロマン、蓮の種の長寿と共に大賀先生の生き方、人柄など様々考えられます。夏の時期、全国各地で蓮祭りが行われています。地域の活性に一役を担っているのは千葉市で発掘された古蓮の実「大賀蓮」の存在が大きいといえます。

ウ 千葉市における大賀ハスの取り組み（斎藤久芳 元千葉市中央・稻毛公園緑地事務所長）

年	おもな出来事	内 容
1951 S26	古蓮実3個を発見 古蓮実の発芽実験に成功	・大賀博士指導の下、県・市、地元の小・中学校、住民の協力で古蓮実の発掘を行った結果、3個の実を発見した。 ・発芽実験の結果、2個は枯死し1個が順調に生育した。
1952 S27	古蓮の蓮根3本を掘上げる 東大の株は7月18日に開花	・4月に県農業試験場で大賀博士立会いのもと蓮根を掘上げ大中小3本に株分けした。[大]は東大検見川農場、[小]は県農業試験場（当時都町）でそれぞれ栽培した。 ・東大の株は地元・畠町の伊原茂氏に預託され、7月18日に第一花、8月3日に第二花が開花した。
	1本を千葉公園に分根する	・[中]は千葉市の希望によって千葉公園の弁天池（綿打池の下池で当時菖蒲園）に植え付けられた。大賀博士が「向きはこっちがよいとか、深さはどの位がよい」などと指導された。 ・厳島神社（通称・弁天様）の裏の畠1枚半ほどの場所に、当時の公園事務所職員・山田繁蔵氏が植え、ザリガニに食害されないよう金網をかけておいた。大賀博士は、弁天池を「ハスの生育にはとてもよい場所だ」と言っていたという。
1953 S28	弁天池の大賀ハスが開花	・8月5日に初めて開花し、その後3つ咲き、この年、4つの花が咲いた。山田氏によると、採れたハスの種子は事務所で保管しており、当時千葉市助役であった平山滋春氏が、池のまわりに蒔いたこともあったが、削皮処理が施されていなかったこともあり発芽はしなかったという。 ・その後、弁天池では土の入替え等の管理を行っているが、展望台脇にもコンクリートの池を作り大賀ハスを栽培した。 ・大賀博士は宮内市長に大賀ハスの分根を希望し、年に2、3回3月下旬か4月上旬に千葉公園を訪れ、職員が掘りあげ

年	おもな出来事	内 容
		た蓮根を木箱に入れて各地に発送してもらった。
1954 S29	千葉県天然記念物に指定	昭和29年3月31日「検見川の大賀蓮」として県指定の天然記念物となる。以来、古代蓮は「大賀蓮」と称される。
1956 S31	第1回千葉はすの会	・古代ハスを賞でる風流人の集いとして「千葉はすの会」が千葉公園のハス池前で午前7時から開催され、約80人が参加。会長は杉本郁太郎氏（当時・奈良屋社長）が務め、大賀博士のハスの話やハスと川柳・俳句などハスに因んだ話題に花が咲いた。以降、平成12年（2000）まで毎年7月18日に千葉公園にて「千葉はすの会」が開催された。
1963 S38	県農業試験場の移転に伴い大賀ハスを移植	県農業試験場が大膳野町へ移転、大賀ハスは刈田子町の水田に移植された。昭和60年、試験場本部前の水槽に分植した。
1964 S39	東大運動場・心字池へ千葉公園から大賀ハスを分根 大賀蓮発掘記念碑を建立	・東京大学総合グラウンドの心字池に、千葉公園で栽培している大賀ハスが分根・移植された。 ・発掘場所が東京オリンピックのクロスカントリー競技会場に決まったことから、大賀ハスを発掘の地に戻し、さらに発掘記念碑を建て大賀博士等の偉業を称えた。
1966 S41	緑地植物実験所に大賀ハスを移植	大賀博士の遺命により、東京大学大学院農業生命科学研究科付属緑地植物実験所に「大賀ハス」を移植する。
1967 S42	第1回花園ハス祭り 大賀博士育英会の設立	大賀ハス発掘の地元で、地域住民による第1回「花園ハス祭り」が開催される。 花園中学校に「大賀博士育英会」が設立され、文化・スポーツ活動で優秀な同校の生徒を表彰している。
1968 S43	大賀ハスが枯れ始める	千葉公園ハス池の大賀ハスが枯れ始める。原因は軟腐病（腐敗病）。近年ハスの生育状況があまり良くなかつたため、前年冬（S42）、木更津方面のハス田から客土して池の土を入れ替えた際、病菌が付着していたらしい。急遽200株の蓮根を掘り起こし池の完全消毒を実施した。
1970 S45	生き返った大賀ハス	千葉公園の大賀ハスは絶滅寸前の状態まで陥ったが、生き返り再び花を咲かせた。
1976 S51	千葉開府850年記念碑	碑の裏面に千葉市の歴史に輝く22人顕彰者の一人として「大賀一郎」の名前が刻まれている。
1987 S62	舞妃連、中日友誼蓮を植付け 特別展「千葉の大賀ハス展」	和歌山大賀ハス保存会から分根された大賀ハスの交雑種「舞妃連」「中日友誼蓮」を‘みなど公園’に植付ける。 開花35周年を記念して千葉市郷土博物で「千葉の大賀ハス」と題する特別展が開催される。
1988 S63	記念誌「大賀ハス」	展示と併せて大賀ハスと大賀博士等に関する記念誌「大賀ハス」が編纂・発行される。（吉田公平監修）
1990 H2	花の万博に大賀ハスを出展	大阪市鶴見緑地で開催された国際花と緑の博覧会に、大賀ハス等の花ハスを観賞する「蓮華汀」を出展し金賞を受賞。
1993 H5	ハス池の整備 市の花に制定	千葉公園綿打池の北畔にハス池（900m ² ）、木道、芝生広場等が整備された。（約9000万円） 政令指定都市移行を記念して「千葉市の木・花・鳥」が制定される。オオガハスが千葉市の花に選定。記念式典及び大賀ハスの植え付け祭（106か所、318株）が行われる。
1994 H6	蓮華亭オープン	ハス池北側に蓮華亭（展示ホール、デッキ等384m ² ）を新築。（3月竣工、約1億7700万円）。千葉はすの会の会場となる。

年	おもな出来事	内 容
1999 H11	ふるさと切手「大賀ハス」の発行	ふるさと切手シリーズとして我が国初の「蓮の花」の切手が発行される。原画は市内花見川区在住の中山爾郎画伯による。
2000 H12	第45回千葉はすの会	最後となる「第45回千葉はすの会」が、千葉公園の蓮華亭において開催された。
2001 H13	大賀ハス開花50周年記念誌	花園ハス祭り実行委員会により「二千年の眠りから覚めて～大賀ハス開花50周年記念誌」が編纂・発行される。
2003 H15	ちはなちゃん制定	「花のあふれるまちづくり」のシンボルキャラクターとして市の花オオガハスの妖精をイメージした「ちはなちゃん」を制定。
2008 H20	大賀ハスを観る会	花とひとのネットワーク実行委員会の主催で、1回目の「大賀ハスを観る会」が千葉公園にて開催される。
	駅からハイキング	JR新検見川駅を起点に、大賀ハス発掘の地等を訪ねる「駅からハイキング」が平成20～24年に開催される。
2012 H24	大賀ハス開花60周年 大賀ハスのリーフレット 大賀ハスミニ企画展	開花60周年を記念し「大賀ハスの系統保存」を千葉公園で開始。大賀ハスのリーフレット制作、大賀ハス写真展を実施。千葉市立郷土博物館で「大賀ハスミニ企画展」を開催。
	大賀ハスのふるさとの会が発足	東京大学緑地植物実験所の閉鎖に伴い、大学からハス見本園の管理を引き継ぎ観蓮会等を開催するため有志により発足する。
	科学未来館に大賀ハス展示	日本科学未来館の企画展「世界の終りのものがたり」に大賀ハスの果托と写真が展示される。
2013 H25	駅からハイキング	JR西千葉駅及び千葉駅を起点に、大賀ハス等を訪ねる「駅からハイキング」が平成25～29年に開催される。
2015 H27	成田空港に大賀ハスを展示	空の玄関口、成田空港第1ターミナルに整備された「大賀ハスの池」に千葉公園から大賀ハスを分根・展示する。
2016 H28	都市アイデンティティ戦略プランに大賀ハスを活用	左記計画において、千葉市らしさを確立する4つの地域資源のひとつに「大賀ハス」が盛り込まれる。
	大賀ハスマツリを開催	従来の「大賀ハスを観る会」を「大賀ハスマツリ」と改め、規模を拡大し9日間連続のイベントを開催する。
2017 H29	大賀ハスシンポジウム開催	蓮文化研究会、大賀ハスのふるさとの会、花びと会しばの主催による「大賀ハスシンポジウム」が開催される。

(5) パネルディスカッション『大賀ハスの未来について』要旨

①テーマ1 過去に学ぶ

本日のシンポジウムのサブタイトルは、「これまでの半世紀、これから半世紀」ですが、大賀ハスの未来に向けて、まず過去に学ぶこと・忘れてはいけないことを討論していただきたいと思います。その上で、未来について、全国の大賀ハス関係者に大賀ハスを絶やさないための系統保存のことや管理のことについて、発信をお願いします。

【斎藤】先日、yahoo ニュースで見た三重県の大賀ハスは、花の色から見て「もどき」の可能性が大でした。「もどき」が大賀ハスとして独り歩きしないよう、本物の大賀ハスの普及・啓発と系統保存が重要であると思います。

【阪本】大賀ハスマドキと真偽の話をしましたが、まだ完全に決着が付いたわけではありません。専門の研究機関できちんと研究を行い結論を出す必要があります。

【南】東大緑地実験所は移転して6年経ちますが、品種の系統保存は大学でやるのが最適と思

い、西東京のキャンパスへハス池を作り収集したハスを移植しました。千葉市でも系統保存を行っていますが、今後開花 70 年、100 年に向けてしっかりと保存していくことが大切です。

【斎藤】大賀ハスの特徴や栽培方法をまとめたパンフレットを（どこが作るのかはともかく）制作し、全国各地の栽培地に配布するなど普及啓発を行っていく必要があります。

【阪本】それは、大賀ハス発祥の地である千葉市が作るべきだと思います。

【南】大賀ハスは北から南まで生育環境が違います。また大賀ハスは栽培条件が狭いということを踏まえ、各地にふさわしい栽培方法を確立することが重要です。

②これから広がり・普及について

先月開催された千葉大賀ハスまつりでも、初めて見に来たという方が来場者の 50% でした。また、来場者の 70% 以上は 50 歳代以上でした。これらのことと踏まえて、今後の大賀ハスの広がり・普及について、全国的な視点から討論をお願いします。

また、2020 年東京オリンピックに向けて、世界最古の花・大賀ハスを国際的にアピールする機会がありますが、これについてご意見をお願いします。

さらに、これから国内外への分根のあり方についても、討論をお願いします。

【斎藤】私が千葉公園でハスのガイドをしたとき、札幌から親子で大賀ハスを見に来た家族がありました。お子さんが小学校の教科書で大賀ハスのことを知りとても興味をもったので、大賀ハス発祥の地まで見に来たのだそうです。大賀ハスや大賀博士のことは、小学校や中学校の国語や理科の教科書にこれまで載っています。千葉市でも小学校の副読本「私たちの千葉市」に詳しく載っています。私たちの校正、若い世代に大賀ハスのことを伝えていくためには、まず、学校教育で取り組んでもらうのが一番効果的だと思います。

【阪本】昔、父親の時代は、ハスというと葬式の花ということで響があまり良くありませんでした。舞妃連などもそうした先入観を払しょくする意味で作り出したものです。最近は蓮に対する悪いイメージは少なくなってきたように思います。若い世代も蓮に対して余り抵抗なく受け入れられるようになってきました。サカナクションというバンドが「蓮の花」という歌を歌っています。若い人なりの感性で蓮の花を見ているように思います。

【南】大賀ハスハック地に近い花園小学校、中学校、瑞穂小学校等では、学校教育の中で蓮の栽培や観察を行っています。特に瑞穂小学校ではハス池を校内に整備し、毎年 4 年生が蓮の植え替えなどを体験しています。学校や PTA、地域が連携して子どもの時に蓮とのふれあいを体験させることが大切です。千葉市では特にこうした取り組みが必要だと思います。

【斎藤】宇多田ヒカルさんが、今から 6、7 年前のことですが千葉公園に大賀ハスを見に来て、そのことを本人のブログに書いています。

また、千葉市の幕張メッセが東京オリンピック・パラリンピックの競技会場になっています。これは大賀ハスを全国・世界にアピールするとても良い機会だと思います。千葉市では、この 3 月に幕張新都心の日本庭園・美浜園のハス池を拡張整備し、新たに大賀ハスを分根しています。英語版のリーフレットを作って配布したり、英語の大賀ハスガイドを行ったり、千葉市を訪れる外国人に大いに PR しましょう。

③千葉市における環境整備について

千葉市の場合、町田市・府中市・行田市などと比べて、大賀ハスに関する施設環境は十分とは言えません。栽培(市民参加型)、展示の両面からご意見をお願いします。

また、旧東大緑地植物実験所跡地については、今後どのようにするのが良いか討論をお願

いします。

【斎藤】千葉公園の大賀ハスにしても、花が見られるのはせいぜい1ヶ月あまりです。他の季節にも年間を通して、ハスの花や文化にふれあう展示施設が必要です。千葉市立郷土資料館には昭和62年の「千葉の大賀ハス展」の時に収集・寄贈された大賀ハスと大賀博士の関係資料が400点余りあります。さらにハスに関する絵画や写真・文献等を収集し、常設展示する施設があつたらと思います。千葉市長のマニュフェストに「中央区役所を木ボールに移転し、その後を千葉市立美術館の拡張に充てる」とあります。ぜひ、美術館の拡張区域に大賀ハスを中心とする常設の展示施設を整備してくれるよう、みんなで要望しましょう。

【南】ハスには沢山の品種があります。千葉市でも大賀ハスだけでなくより多くのハスを栽培、展示する場所を整備したら良いと思います。

【斎藤】旧植物実験所を千葉市が買い取るのが一番よいでしょうが、現実問題として財政的に大変難しい状況です。東大と千葉市、地元のこれまでの関係もありますので、この良い関係を今後も維持するとともに、大賀ハスのふるさとの会の活動をより充実していくことが大切だと思います。東大グラウンドの敷地にある発掘碑や発掘地点は普段市民が自由に見ることができません。市民が発掘碑の周辺に自由にアクセスできるよう、その部分だけでも千葉市が用地を借りたり取得するなりして管理する方法も必要だと思います。

【南】東大グラウンドにある記念碑や発掘地点に自由に行けない状況にあります。私も以前提案しましたが、記念碑の周辺だけでも千葉市で取得して、大賀ハス発掘記念センターのようなものを作ったら良いと思います。

(4) 参加者からの質問・意見について

【参加者】実家のある新潟県加茂市では大賀ハスを栽培しているが最近花が咲きません。フェイスブックで「ハスを見る会」を立ち上げています。ハスの栽培について千葉市や南先生から指導をしていただけますか。

【南】大賀ハスに限らず、長く栽培していると蓮根が密生して生育が悪くなり、厭地現象を起こすようになって花付きが悪くなる傾向があります。だんだん衰えて、ついには絶滅に至ることもあります。したがって、何年に1回植え替えるとか、あまり大規模でなく管理できる範囲で栽培したら良いと思います。

【斎藤】千葉公園のハス池では因みに3年に1度、蓮根を全部掘り上げて植替えを行っています。これくらいやれば良く咲くのかなと思います。

5 先進事例等の調査・視察

ハス祭りや大賀ハスを活用した地域づくりなど先進事例の調査及び視察を行った。

5-1 全国のハス祭りの実施状況

番号	イベント名称	開催日	開催場所	来場者数	主 催	予算・財源	内 容	協 力
1	大賀ハスマつり	6/18～26	千葉公園(千葉市)	花びと会いちば(千葉市共催)		・象鼻杯 ・講演・講談・楽器の演奏 ・販売コーナー ・ワンコイン体験	造園組合、文化振興財団、地元商店会、商工会議所、園芸協会、学校給食会、千葉モロール、女性団体連絡会、酒店等	
2	花園ハスマつり	7/16	旧東大緑地植物実験所(千葉市)		花園ハスマつり実行委員会、大賀ハスふるさとの会		・大賀蓮関連パネル展 ・象鼻杯 ・オカリナ演奏 ・花蓮ボストカード販売 ・果托・花苗販売	
3	はす祭り	7/9～8/7	水郷佐原水生植物園(香取市)	香取市			・早朝観蓮会(300種) ・象鼻杯・蓮茶のもてなし ・さっぽ舟運航	
4	上越蓮まつり	7/22～8/16 メインは8/6,7	高田公園(上越市)	上越蓮まつり実行委員会(事務局:上越光コンベンション協会)			・高田おもてなしウィーク ・高田城ライトアップ ・ボランティアガイド ・蓮を題材の物産展 ・博物館・美術館企画展 ・町家公開・盆踊り ・町並み散策ツアー ・蓮まつり俳句大会 ・ドイツビール祭り ・茶会、観賞会、撮影会 ・蓮がテーマのカフェ ・はす麺販売 ・蓮観賞ウォーキング	地元の団体・企業等40者以上
5	行田蓮まつり	7/10	古代蓮の里(行田市)		・行田蓮まつり実行委員会(事務局:観光協会) ・後援:行田市観光協会、地元自治会連合会		・蓮茶の試飲会 ・蓮餅の餅つき大会 ・地元野菜・飲食物の販売 ・観光物産展 ・ステージイベント(地域団体の発表会) ・子ども広場(ミニSL、金魚すくい、風船つり、しゃぼん玉) ・新行田音頭の演舞 ・写真、俳句コンテスト	
6	荒神谷ハスマつり	7/2、3	荒神谷史跡公園、荒神谷博物館(出雲市)	荒神谷博物館			・象鼻盃 ・ハス関連グッズ販売 ・地元特産物販売 ・喫茶コーナー ・キャラクター登場 ・5千株5万本の大賀ハス	
7	蓮まつり	7/23、24	町田市大賀藕絲館、小山田のハス田(町田市)	町田市大賀藕絲館			・蓮だの観賞(送迎バス有) ・ハス生花の販売 ・ハスの実おこわ販売 ・ハスの実ケーキ販売 ・ハスの実味噌販売 ・ハスの葉染め体験 ・茄糸織り体験	
8	はすまつり	6/25～7/31	花はす公園(福井県南越前町)		・南越前町 ・後援:観光連盟、NHK福井支局、福井テレビ、FM福井		・オープン式 ・象鼻杯、藕紙づくり体験 ・投句会、はす染め体験 ・ステンドグラス作り体験 ・早朝モデル撮影会 ・開花予想クイズ ・花はす資料展 ・花はすお楽しみ体験 ・花はす絵手紙コンテスト ・フィナーレ(二胡の演奏会)	
9	大賀ハスマつり	7/10～7/20 (H28年度)	大賀ハス田(和歌山県上富田町)	上富田町役場内/大賀ハスを守る会			・俳句コンテスト ・写真コンテスト	
10	大賀ハスマつり	7/19～8/4 (H26年度)	大賀ハス園(岐阜羽島市)	羽島市観光協会			・俳句コンテスト ・写真コンテスト ・ハス茶配布 ・象鼻杯 ・フリーマーケット ・東大蓮香商品の販売	(備考) H27、28年度は開花がおもわしくなく中止した。今年度も中止の予定。

11	長沼ハスまつり	8/1～8/31 (H28年度)	兵糧山公園 (宮城県登米市)		登米市観光物産協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ボートに乗り蓮池の中を遊覧する(乗船代700円) ・はす花即売 ・雅楽演奏 	
12	蓮見の会	毎年7月開催 (H28年度)	森川花ハス田 (愛知県安西市)		安西市観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ハス商品の販売(道の駅・立田ふれあいの里) 	
13	観蓮会	6月下旬か7月上旬の土曜日	大賀池 (和歌山県日高郡美浜町三尾)	100名程度	和歌山大賀ハス保存会	<ul style="list-style-type: none"> ・大正琴演奏 太極拳演舞象鼻杯 	美浜町中央公民館
14	あかぼり蓮園まつり	7月中旬	あかぼり蓮園 (群馬県伊勢崎市)		伊勢崎市赤堀経済振興室	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーアート教室 ・ドライフラワー(蓮の花)の配布 	伊勢崎市観光物産協会
15	つがの里ハスマつり	6/21～7/6 (H26年度)	つがの里 (栃木県都賀町)		都賀町観光協会 つがの里ふるさとセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・農村レストラン(ハス御膳) ・模擬店 	
16	伊豆沼・内沼はスマつり	7/20～8/31 (H28年度)	伊豆沼・内沼 (宮城県栗原市)		栗原市	<ul style="list-style-type: none"> ・ボートに乗り蓮池の中を遊覧する(乗船代700円) 	
17	古代蓮まつりin五郎沼	7/28 (H24年度)	五郎沼(岩手県紫波町)		紫波町	<ul style="list-style-type: none"> ・地元芸能 ・中尊寺講話 ・ハスの絵画コーナー 	
18	二ツ屋蓮まつり餅つき大会	7/18 (H28年度)	二ツ屋蓮田(新潟県十日町市)		二千年ハスを育む里・二ツ屋集落の会	<ul style="list-style-type: none"> ・餅つき ・カラオケ ・大抽選会 ・マジックショー 	
19	荒川花ハスマつり	6/30～7/16 (H24年度)	花ハス園(埼玉県秩父市)		秩父観光協会荒川支部	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の直売 ・花ハスライトアップ 	
20	代通寺蓮まつり	7月初旬～8月末	代通寺(静岡県富士市)		代通寺	<ul style="list-style-type: none"> ・象鼻杯 ・日本舞踊 ・蓮茶 	
21	古代蓮を観に行こう	7/14～7/16	井戸尻遺跡公園(長野県富士見町)		富士見町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の直売 ・俳句・短歌の展示 ・ハスの葉茶 ・音楽演奏 ・ハスの観賞と解説 	
22	蓮池ハスマつり	7/13 (H25年度)	蓮池公園(高知県土佐市)		土佐市産業経済課/蓮池コミュニティーセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産品の直売 ・蓮池保育園児の歌と踊り ・ライブ「蓮の花」 	
23	江古花園のはす祭り	8/4 (H25年度)	江古花園(兵庫県丹波市)		丹波市観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニ釣り ・音楽演奏会 ・ふれあいマーケット 	
24	石仏の里蓮まつり	7/10～7/31 (H28年度)	臼杵石仏(大分県臼杵市)		臼杵市観光協会/蓮まつり実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサート ・蓮の実お粥 ・ハスヨガ・太極拳 ・象鼻杯 ・蓮の花浴衣で撮影会 	
25	鹿央里やま蓮まつり	7/1～7/31 (H24年度)	「里やま」古代ハス園(熊本県山鹿市)		山鹿市鹿央市民センター	<ul style="list-style-type: none"> ・写真・俳句コンテスト ・子供スケッチ大会 ・スタンプラリー 	
26	蓮の饗宴	7/1～7/31 (H25年度)	ビオスの丘園(沖縄県うるま市)		ビオスの丘(民間観光施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・蓮茶 ・蓮の実のお菓子 ・蓮根の砂糖漬け ・蓮根のはさみ揚げ 	

5-2 町田市大賀藕絲館視察（平成29年3月日）

1 観察概要

- (1) 日時 平成29年3月15日（水）13:30～15:00曇り
- (2) 観察先 町田市大賀藕絲館（町田市町田市下小山田3267）
- (3) 対応者 小木曾文典（社会福祉法人まちだ育成会・町田市大賀藕絲館施設長）
- (4) 観察者 仙波、坂口、八巻、斎藤
- (5) 目的 大賀ハスを活用した特産品の製造・販売、大賀ハスの関連イベント、大賀ハスの栽培について先進事例を調査する

2 観察結果

(1) 大賀藕絲館の沿革

S53年9月	●故大賀一郎博士著「ハス」の記述にヒントを得て、藕絲織を障がいのある方の仕事とする第3の働く場づくりを大下勝正・元町田市長が考案。
53年10月	●薬師池公園で採糸実験。(ボランティア参加) ●藕絲織の香袋を試作。
53年12月	●紅花染めに着目。山形県米沢の鈴木孝男紅花研究所長に藕絲染色の研究を依頼。
54年4月	●「大賀ハス」栽培開始。(団師町の農家に委託888m ²) ●紅花を試験栽培する。
54年6月	●旧福祉会館内で藕絲織事業としてスタートする。
54年7月	●紅花染香袋 第1号完成。
54年12月	●ハスの纖維を使った和紙(蓮紙)の試作に成功。
55年4月	●「大賀ハス」栽培面積拡張。(4180m ²)●紅花の栽培を始める。(団師町の農家に委託1080m ²)
55年7月	●通所者3名が入館。●紅花餅づくり(ボランティア参加)
56年1月	●香袋販売第1号(200,000円)

59年8月	●蓮の果托を原料とした町田蓮座の販売を始める。
60年1月	●蓮座を成人式の記念品として使用する。
60年2月	●旧第二事業場管理棟を改装し、旧福祉会館から全面移転。名称を「大賀藕絲館」とする。
62年4月	●竹桜地区のハス田栽培を始める。(13123m ²)
62年8月	●蓮の茎の纖維(茎糸)を使用した蓮糸織の販売を始める。
平成2年2月	●現町田市大賀藕絲館竣工。
13年5月	●紅花及び乱花粉による染色法の特許取得。
15年4月	●社会福祉法人まちだ育成会の委託事業となる。
18年4月	●指定管理者制度の運営となる。
18年10月	●障害福祉サービス事業(就労継続支援B型)に移行する。
21年4月	●倉庫をハスの実工房に改修。お菓子づくりを始める。
24年4月	●名産品の店まちだ町田市大賀藕絲館の出張所としてスタートする。

(2) 施設の概要

- ・障害福祉サービス事業所（※就労継続支援B型）
- ・主に知的に障がいを持った方が通所して働く場として、ハスや紅花を中心に季節ごとの手作りの製品づくりを行っている。
- ・また、お手玉、根付け、手漉き紙、ドライ、ポプリ、手織り物など、豊富な種類が特徴。ハスの実工房ではお菓子作りも行っており、他にはない特徴あるお菓子の開発、販売もしている。
- ※ 一般企業への就職が困難な障がい者に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じて、その知識と能力の向上に必要な訓練などの障がい福祉サービスの供与を目的とする。B型は雇用契約を結ばず、利用者が作業分のお金を工賃としてもらい、比較的自由に働く“非雇用型”的施設。

(3) 現在の管理運営

- ・H15年度から社会福祉法人まちだ育成会（以下「育成会」）が、町田市の指定管理者（非公募）として管理運営を行っている。
- ・職員24人（うち正規職員10人）、通所者61人
- ・主に知的に障がいを持った方が通所して働く場として、ハスや紅花を中心に季節ごとの手作りの製品づくりを行っている。
- ・お手玉、根付け、手漉き紙、ドライ、ポプリ、手織り物など、豊富な種類が特徴。ハスの実工房ではお菓子作りも行っており、他にはない特徴あるお菓子の開発、販売もしている。

(4) 蓮の実や果托などの活用した製品づくり

ア 蓮の実

- ・夏に未熟の種子（散花後約2週間）を採取→水で煮る→表皮を剥く→冷凍保存する。

・ハスの実ケーキ（町田市名産品、1個200円）、おこわ（茹でた実）、味噌（すり潰したもの）などに利用している。

・完熟した種子は、お手玉の中にいれる材料として利用。

イ 果托

・夏に刈り取った果托を乾燥室でドライフラワーに加工、1本200円、3本500円で販売。

・乾燥させた果托を圧縮・成形し、銘々皿（3枚500円）やコースター（500円）として販売。

ウ 葉柄（茎）

・ハスの葉柄を苛性ソーダで煮て纖維を取り出し、紙漉きや茄糸織の原料として利用。

・紙漉き：牛乳パックを再利用したパルプに葉柄の纖維を混ぜて、手漉きの紙を製造。

・卒園証書や名刺などに活用している。

・茄糸織：葉柄の纖維を撚って紡いだ糸を織って布を作り、布やコースターとして販売。

（5）大賀ハスの栽培

ア 経緯

・昭和54年（1979）大賀ハスの栽培開始。団師町の農家に栽培委託（888m²）

・昭和55年（1980）大賀ハスの栽培面積拡張（4,180m²）

・昭和62年（1987）竹桜地区のハス栽培開始（13,123m²）

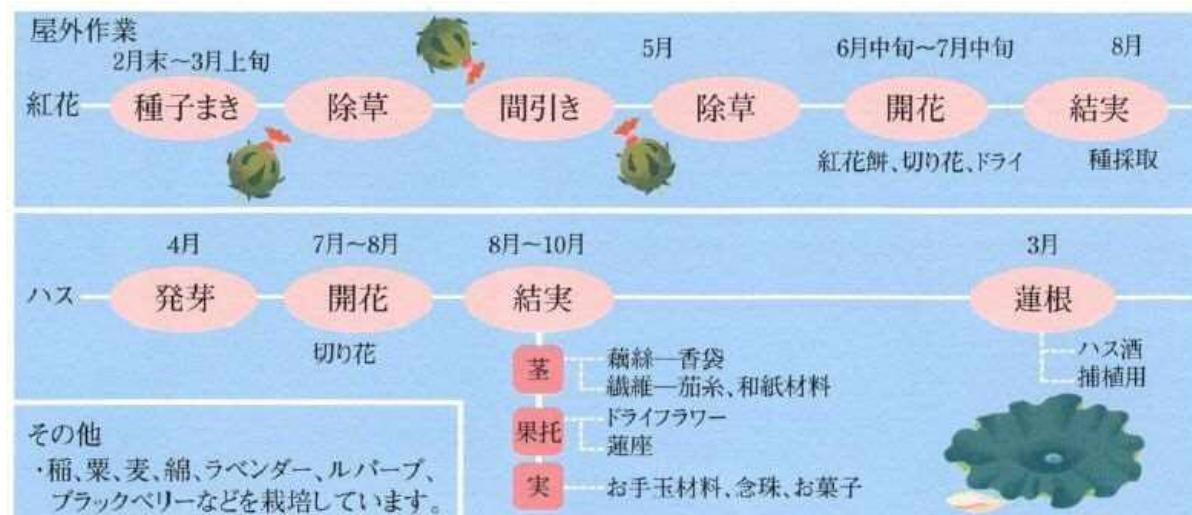
・平成28年（2016）大賀ハスの栽培面積は約8,500m²

イ 栽培方法

・代掻き・水張等の作業は、町田市が地元農家へ委託して行っている。田は、農家の所有地。

・レンコンの掘取り、ハスの実・果托・葉柄の刈り取りは育成会で行っている。

・主な作業：3月（レンコンの掘取り、田面の耕耘・代掻き）、4月上旬（水張、上流の貯水池から）、6～8月（開花、ハスの実の採取、果托・葉柄の刈り取り）



（6）大賀ハスのイベント

ア 時期 毎年、7月下旬（昨年は7/23土、24日7～11時）に2会場で「蓮まつり」を開催。

イ 会場 1 「大賀藕絲館」

・蓮の染め物体験、蓮の茎の纖維（茄糸）を使った織物体験。

・蓮田で収穫した蓮の実を使った「蓮の実おこわ400円」「蓮の実シフォンケーキ700円」、「蓮の実味噌450円」「蓮の実水ようかん100円」などの販売。

ウ 会場 2 「大賀藕絲館が管理栽培している蓮田（約3千坪）」

・蓮の花の販売

- ・蓮の生態の話を隨時実施

エ 交通等

- ・「会場1」から「蓮田」まで約1kmは、大賀藕絲館の車で送迎。
- ・蓮田には駐車場・トイレはない。トイレは大賀藕絲館を利用。



年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

春夏の製品づくり 主な作業	桜グッズ 桜グッズ 鯉のぼり	紅花 切花 餅づくり 販売	夏秋の製品づくり 蓮グッズ	蓮絲・ 筋糸	蓮の繊維 とり	秋冬の製品づくり 蓮座(銘々皿)、クリスマスグッズ、 正月飾り、干支人形、お雛様
------------------	----------------------	------------------------	------------------	-----------	------------	--

お手玉、人形、根付・ストラップ製品、ビーズ製品、手漉き紙(蓮紙、和紙)、茄糸織、
草木染め製品、ドライフラワー各種、ハスの実念珠、お菓子(ハスの実工房)

※ 利用者作業時間 9:00～15:30 ※ 毎月第2、第4木曜日にクラブ活動(外出、創作、料理、運動など)を実施。

主な年間行事	さくらまつり	東京都スポーツ大会	紅花まつり	蓮署 まつり	暑氣 払い めん流し	宿泊 館外研修	新年会 クリスマス会 ミーティング フェスティバル
--------	--------	-----------	-------	-----------	------------------	------------	------------------------------------

※ 年4回、草木染め講習会(藍生葉染め、紅花染め(紅花餅)、紅花染め(間引き菜)、蓮の果托染め)を開催。

※ 藕絲館3大まつり(さくらまつり、紅花まつり、蓮まつり)は、一般のお客様を対象としたものです。

3 視察の感想

(1) 大賀ハスの栽培について

- ・8,500m²という大面積のハス田を管理している割には、極めて簡易な方法で行っている。
- ・特に気になったのが、「生育期の水管理」と上替えの代わりに行っている「3月の代掻き」である。この作業だけで、大面積のハス田が維持できるのであれば、大賀ハスの新たな名所づく

りに大いに参考になると考えられる。

- ・ただし、ステージ毎の生育確認と農家のヒアリングが今後、必要である。

(2) 大賀ハスを活用した製品作りについて

- ・徳島では、地域の事業者と連携してハスを活用した食品作りや料理提供を行っている。

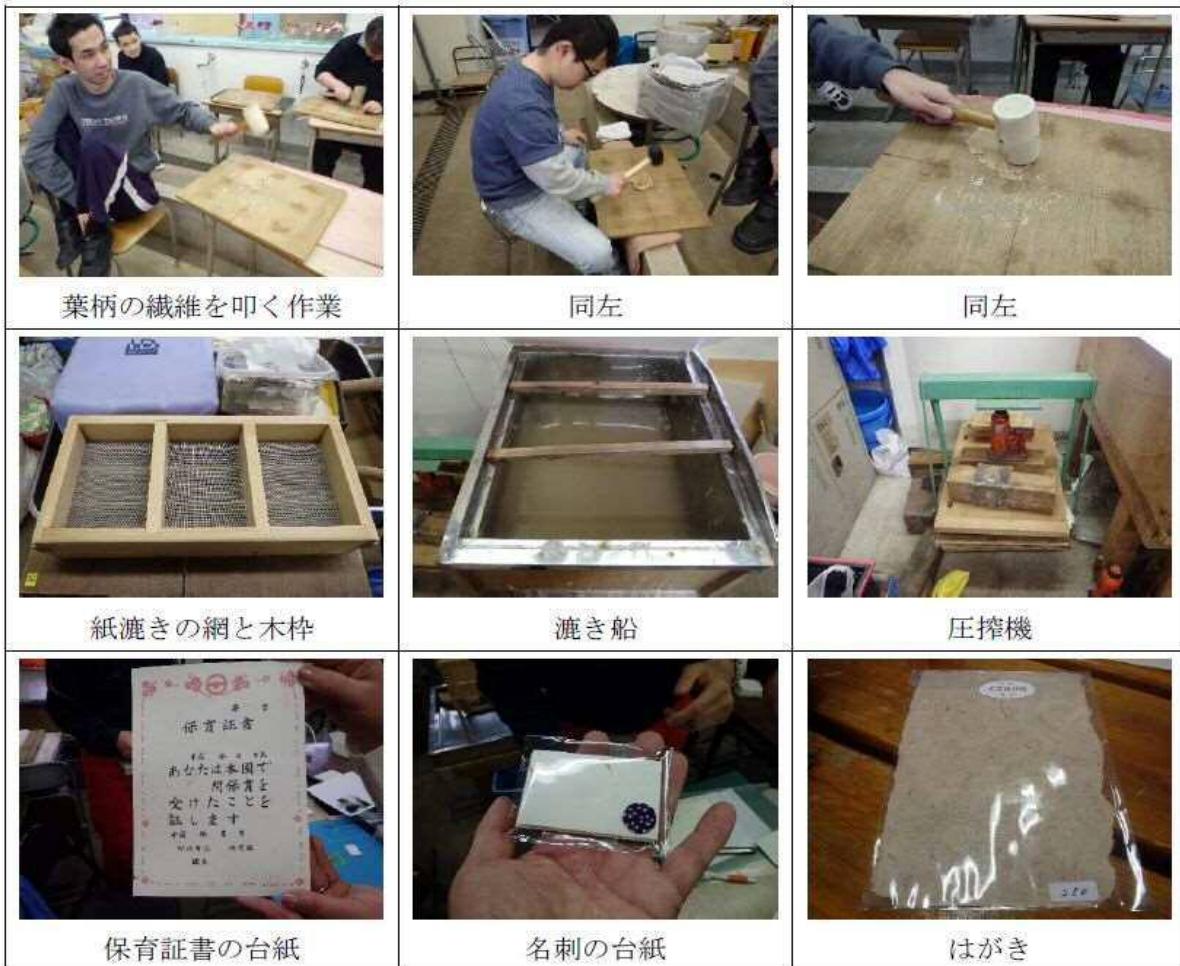
・一方、町田では市からの受託で障害福祉サービス事業所の活動として、大賀ハスを活用した製品作りを行っている。

・千葉市では、千葉公園の「障碍者の就労を支援する会」が同様の活動を行っているが、小規模である。今後、事業を拡大するにあたり、行政、福祉施設と連携した取り組みを検討することが重要となる。

(3) 大賀ハスのイベントについて

- ・ハスの実を使ったお菓子やおこわ、味噌の販売、体験教室などは大変参考になる。

4 視察の写真



		
乾燥した果托	プレス機	プレスした果托
		
塗装前の果托		果托の銘々Ⅲ
		
葉柄なしの果托	葉柄付きの果托	果托の手芸品
		
葉柄の繊維で糸を撚る	茄糸	茄糸布
		
葉柄の繊維と茄糸	ハスの実	リストバンド

		
ハスの実のお手玉	同左	果托の飾り
		
様々な手芸品	同左	同左
		
メッセージカード	手漉きの蓮紙	果托染めTシャツ
		
ハスの実工房	蓮の実ケーキ	町田市名産品
		
大賀ハスブレンド	手作りジャム	菓子類



5-3 鳴門古代蓮古代米プロジェクトのヒアリング

- 1 日時 平成 29 年 3 月 7 日 13:30~14:30
 - 2 場所 幕張メッセ（フーデックスジャパン 2017 階催時）
 - 3 話手 澤田英司（52 歳、徳島県農林水産総合技術支援センター・高度技術支援課課長補佐、NPO 法人れんこん研究会理事）
 - 4 聞手 千葉市まちづくり未来研究所第 2 期：仙波、宮下、斎藤）
 - 5 要旨
 - (1) プロジェクトの概要（鳴門古代蓮古代米プロジェクト HP より）
 - ・豊かな自然が残る島田島に友好親善、平和のシンボルである古代蓮を植え新たな観光資源として一大拠点を目指している。
 - ・古代蓮は花蓮の一種で、食用蓮の数十倍の花が開花することから、初夏には綺麗な花を見て楽しんで頂き、秋には蓮の実を収穫し、多くの企業によって商品開発を行なっている。
 - ・また、古代米を栽培し、蓮根や鳴ちゅるうどんなど鳴門の特産品としての活用を試みるとともに、古代蓮花の観賞会や蓮根の掘り取り体験会などイベントも多数開催し、地元の活性化を図っている。
 - ・収穫された蓮の実や古代米をプロの料理人の手でレシピを考案していただき、様々なかたちで皆様にお届けできればと考えている。
 - (2) ヒアリング内容
- ア 事業概要
- ・事業目的 島田島の放棄地の活用と地域おこし
 - ・事業主体 古代蓮・古代米を育てる会（島田島住民グループ、松野留雄、ボランティアグループ、NPO 法人れんこん研究会、ウマイ株式会社、株式会社みむら）
 - ・補助金 平成 27 年度小規模事業者地域活力新事業全国展開支援事業の採択



イ 大賀ハスの栽培

- ・入手先 荒神谷史跡公園（島根県出雲市、27.5ha、水田 5,000 m²で大賀ハスを栽培）
- ・状況 平成 26 年から栽培を開始。400 m²から始め現在 2,000 m²の水田で栽培している。
- ・耕作放棄地だったため、ヨシ等の雑草が繁茂し除草及び伐根等の作業が必要だった。草本類はトラクター等で除去できるが、柳等の木本が侵入するとその除去はかなり大変な作業となる。
- ・土地改良をしていない水はけの悪い水田（湿田）であったため、他からの用水は必要とせず、雨水だけで栽培が可能であった。
- ・栽培から 2～3 年は、植え替えが必要ないが、その後は数年に一度植替えが必要になる。小面積の場合はあまり問題とならないが、数千平方メートル以上の大面積となると植替えに大変な労力を要する。投入できる労力の範囲内で栽培することが基本だ。

ウ 大賀ハスを活用したイベント

①レンコンの植え付け体験（5月下旬）

- ・事前に水田を代かきして準備しておく。
- ・種レンコンは植え付けの直前に掘り上げる。
- ・植え付け作業は、15～20 分ほどで終わる。
- ・作業後の手足の洗い場、着替え、トイレ等の設備が必要。



【会のHPから】古代蓮・古代米を育てる会の住民グループとれんこん研究会が中心となり、鳴門市瀬戸町大島田地区で古代蓮「大賀蓮」植え付け体験会を開催しました。地元メディア報道関係者やアマチュアカメラマン、地元住民、鳴門市関係、事業関係者など約100名があつまり、古代蓮を昨年の2倍の田んぼに植え付けを行なついました。田んぼは通常の田んぼよりも水嵩があるため、蓮根等の水堀りができるれんこん研究会のメンバーが、今日のイベントのため前日より昨年の蓮の根を掘りあげて頂きました。

②古代蓮まつり（観蓮会、7月下旬）

- ・イベントに要する手間と費用の捻出が大変である。
- ・広告宣伝、案内・警備、駐車場・トイレ、会場の設営等
- ・イベントの継続には、収益（物販、飲食、観覧料、寄付金等）を上げる必要がある。
- ・行政や企業、マスコミ等との連携が重要。

【会のHPから】7月25日 島田島にて「観蓮会」古代ハスまつりが開催されました。地元住民やアマチュアカメラマン、県内外の方、関係者等170名の参加のもと、象鼻盃や地元ミュージシャン2組、近隣の炭焼き屋でのお接待などみんなで楽しみました。地元ボランティアの方々や参加事業主、鳴門市、関係者、4月からハスの栽培に従事いただいた農家さんなどにチラシで案内し、無事終了することが出来ました。



③レンコンの収穫体験（11月下旬）

- ・一番人気のイベントである。
- ・ハス田が泥深いため、素人が掘り取るのは大変な作業となる。
- ・予め表土を重機で取り除いておくと後の掘り取り作業が楽である。
- ・かなり汚れる作業なので、洗い場や着替えの場所（施設）が必要となる。
- ・古代蓮は根が深いので、浅根の品種（青秀、金澄34号）を導入する予定

【会のHPから】

開催日：11月29日 時間：14:00～16:00

場所：鳴門市島田島 古代蓮畑の近隣にある。

着替え場所やトイレ、洗い場がないため、事前にその旨を通知の上、来訪を依頼した。

集合場所はホテルからバス移動のため、駐車場は不要であったが、個別来訪の形態になる場合は、駐車場の確保が必要である。準備品は下記記載

- ・ 熊手（移植ごても可）：企画者側で準備、各家族に1本
- ・ 鋤：5本（希望者に貸し出し） 長靴：各自準備
- ・ 手袋：各自準備（ビニール製のものを推奨） 合羽：汚れ防止に利用できる。
- ・ 使い捨ての合羽：利用者が多かった。
- ・ ビニール袋：レンコンの持ち帰りや、着替え入れに利用。着替え：各自準備
- ・ 新聞紙：レンコンの持ち帰りに重宝する。



エ 事業継続のための要点

- ①地域ぐるみの活動にすること（一部個人の活動としない、集落全体が潤うことが現属）。
- ②休校中の小学校を活動の拠点とする。
- ③地元の行政や企業・団体と連携すること。
- ④若い人を参加させるための仕組み・魅力づくりが大切。
- ⑤コウノトリ定着推進連絡協議会との連携
 - ・放鳥されたコウノトリが徳島県鳴門市の広大なレンコン畑に飛来するようになり、2017年3羽の野生コウノトリが繁殖。鳴門市では1970年代からレンコン栽培で減農薬栽培に取り組んでおり、コウノトリの餌となる生き物が多く生息し、コウノトリと共生できる取り組みを行っている。

- ・2017年8月から鳴門市が「鳴門市コウノトリブランド認証制度」の運用を開始。
 - ・レンコン（生鮮）とレンコン加工品の認証を進めている。
- ⑥事業の財源確保のため収益を上げること。古代米の栽培は大事な収益源。
- ・うどん、菓子、飲食、ホテル等の企業と連携
 - ・蓮の実を使った菓子（クッキー、ケーキ、まんじゅう等）、うどん
 - ・古代米を使った料理、れんこんペーストを使った料理等

蓮の実・蓮の実パウダー



01 阿波古代蓮の実デトックス薬膳粥

店舗 casual 薬膳 KITANO

住所 徳島市南田宮4丁目206-1



02 蓮根と徳島柚子のコラボケーキ「野菜スイーツケーキ」

店舗 風土菓 岡萬本舗



03 蓮の実粉まんじゅう

店舗 (有) 菓匠 孔雀

住所 鳴門市撫養町南浜字東浜563



05 蓮の実クッキー

店舗 BAR KUKKU (クック)

住所 徳島市栄町1-59大三ビル2号館3F

蓮の実入り鳴ちゅるうどん



01 郷土の鳴蓮うどん

店舗 ロイヤルガーデンホテル

住所 〒774-0030 徳島県阿南市富岡町あ王谷52-2



03 鯛とれんこんすり流しの鯛スープ仕立

【店舗】 徳島グランヴィリオホテル

【住所】 〒770-0941 徳島県徳島市万代町3丁目5-1



06 パルマ産生ハムとパルメザンチーズ、フルーツトマトの冷製鳴ちゅるうどん

【店舗】 イタリア家庭料理 カーサ・マリーノ

古代米・古代米パウダー



01 鳴門鯛の炭火焼きのせりゾット風お凌ぎ

【店舗】 すし・和食 永代

【住所】 徳島県鳴門市撫養町斎田字東発42-3



04 なると金時と阿波鶏の古代米カレー

【店舗】 喫茶レストラン ばんじゅうる

【住所】 徳島県徳島市佐古三番町8-6



08 古代米ロール

【店舗】 スイーツ工房 ROLLCAFE 「ロールカフェ」

【住所】 徳島市中吉野町2丁目9-7

れんこんペースト



01 ズワイガニとれんこんのコロッケ

【店舗】 アグネスホテル徳島

【住所】 〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1丁目2-8

5－4 鳥取市鹿野町における蓮のまちプロジェクト（照会）

(1) 経緯

- ・鳥取大学農学部の田辺教授(当時)は、遺伝子研究のために世界中から集めた190余種のハスを栽培していたが、同校を退官するのを機に、引き続き育ててくれる団体を探していた。相談を受け協議の結果、いんしゅう鹿野まちづくり協議会を中心としたグループが受け入れることになった。
- ・平成20年の春に、大学構内から鹿野まで全てのハスを運び、泥の入れ替えや地下茎の手入れなどをして、鹿野町のハス事業がスタートした。

(2) 蓮の里親制度

- ・現在では各団体が共同で一括管理し、また株分け作業をした子株は鹿野町内的一般家庭が「里親」となって大切に育っている。
- ・第一期の里親として180鉢が町内の希望者に株分けされ、玄関先など約100か所に置かれて町内が世界各国の花ハスで彩られている。
- ・詳細は（5）鳥取市からの回答を参照。



(3) 蓼ウォーク

- ・2008年、町では歴史を物語る城下町の綺麗な町並みと蓮の設置されたポイントを巡る「第1回城下町しかの蓮ウォーク」を開催し、昨年は海の日に開催された。
- ・主催は、鳥取市西商工会鹿野町地域活性化委員会を中心とした実行委員会組織。ウォーキングコースは鹿野町健康づくり地区推進員会が作成した「ふれあいウォーキングマップ」を基に設定し、コースの案内はボランティアガイド「しかのぶらっとガイドの会」が担当。
- ・また、イベント風景の記録係として写真クラブ会員が同行するなど、それぞれの団体がその特徴を生かした協力体制で運営をしている。





(4) 休耕田を利用した蓮田

- 蓮のまちづくりの取り組みとして、鹿野総合支所（級鹿野町役場）周辺の休耕田を利用して花ハスを栽培し、蓮ウォーキングの名所にしている。



(5) 鳥取市鹿野町総合支所地域振興課（担当：山本靖典氏）からの回答

- 1) ハスの里親の参加者（引き受け者）の人数をお教え下さい。
A. 29年3月現在で約100人程度です。
- 2) ハスの里親の属性（個人・団体、民家・商家など）をお教え下さい。
A. 里親は、ほとんどが個人です。うち1割程度団体が占めます。
- 3) ハスの株植えに関わる総人数、実行予算等をお教え下さい。
A. 29年3月に鉢植えの植替え（株分け）を20鉢程度実施。約10名程度の参加。予算は鉢、肥料代（10,000円位）。
- 4) この事業の行政との関わりをお教え下さい。
A. この事業の実施母体は「心のふるさとづくり委員会」（地域活性化に協力する組織）が実施しています。事務局を行政が担っております。
- 5) この事業の予算（行政からの助成金等）をお教え下さい。
A. 助成金等の補助はありません、活動を支援するための種子、肥料等の現物支給を行っております。
- 6) この事業により、町はどう変わりましたかという所感をお教え下さい。
A. 地域内行事や活動等に無関心なところがあったが、いろいろな情報に対し住民が関心を持つようになった。今後、行政の支援には限りがあるので委員会が独り立ちできるように人材養成や資金調達が必要になります。

5-5 国見町中尊寺蓮の栽培について

平成30年2月12日 国見町中尊寺蓮育成会の氏家会長へメールで照会（青字：回答）

(1) 蓮池の規模

・約60アール、植え付け面積は45アール

(2) 蓼池の環境

①圃場整備（土地改良）した水田ですか。

→土地改良した水田ですが一部桃畑を水田に変更しました。

②用排水路、暗渠排水は整備されていますか。

→水田用に整備されておりますが農繁期には水の確保に苦労します。

③用水の水源は、地下水（井水）、河川水、湧水のいずれですか。

→水田用の用水です。

④用水の方法は、パイプライン、ポンプで用水路から汲み上げ

→用水路からの引き込みです。

⑤用水の使用は、有料ですか。

→土地は借用しておりますが、地主が水利権の料金を払っております

⑥蓮池の湛水期間は、何月～何月まで（4月初めより9月終わりまで）

(3) 畦畔の管理について

・畦畔は、毎年、整形・畦塗りを行っていますか。それとも畦シートですか。

→畦道幅を軽自動車が通れるよう広くしておりますが、それでも水漏れの場合は畦シートをしております。

(4) 年間の管理作業について

・3月にトラクターにて耕耘

・4月上旬、樽で植え付けております種蓮根の植え替え作業

・4月中旬天地替えた水田に約3メートル間隔で蓮根の植え付け、元肥

- ・5月水田のアオミドロ、周辺の草刈作業、立ち葉がでたら追肥
- ・6月草取作業、ザリガニの駆除、必要おおじてアブラムシ消毒、追肥は生育状況を見ながら
- ・7月追肥 畦道草刈り 2回、水管管理
- ・8月：果托刈り取り、畦畔草刈り
- ・9月：果托刈り取り
- ・11月水田の水抜き、約三分の一の面積を天地替え作業,枯葉片づ

(5) 肥料について

- ・元肥え、追肥の種類と施肥量（10a 当り）をお教えください。

→酸性度により苦土石灰、土壤改良剤 バクテリアン 5 5. 中央肥糧の蓮田の肥料、10 アール
当たり 2 袋から 3 袋

(6) 植替えについて

→毎年耕耘、3 年に一回天地替え

- ・植替え方法

→機械で天地返し、機械で耕耘等

- ・客土（土質：畑土、田土、山砂等）

→特に使用しない

- ・土壤改良剤（腐葉土、もみ殻燻炭等）

→バクテリアン 5 5、数年に一回堆肥投入

(7) 種レンコンの栽培

- ・10 アール当たりに必要なポット栽培（ポットの容量何リットル）

→4 5 リットル鉢を 25 鉢育てます

- ・ポット栽培の用土（畑土、田土 等）

→田土を使用

(8) 中尊寺蓮育成会の活動状況

- ・会員数 →20 名

- ・会員の年齢 →(60 代後半

- ・活動日数（月回数、年間回数等）

→年間 10 日位、私は 4 月～9 月はほとんど毎日

- ・観蓮会等のイベント

→6 月末開花式、7 月講演会、9 月絵画コンクール

(9) 今年の蓮の植替え作業はいつ頃行いますか。

→水田の状況にもよりますが 3 月に元肥、耕耘を行い樽の植え替えにて蓮根を確保して、4 月
水田に水は入り次第植え付けます。他の水田は特に植え替えは行いません

5－6 水郷佐原あやめパークの花ハス栽培

- ・当公園では、300種の花ハスを栽培しており、全国一の品種数を誇る。
- ・平成30年3月22日、現地を訪問し花ハス及び花菖蒲の栽培について所長にヒアリングした。
- ・植替え方法は、他に類を見ない独自かつ合理的であり、多品種の花ハス栽培の参考になる。

(1) 植替え頻度

- ・全品種、毎年植替えしている。

(2) 植替え方法

- ・1品種の栽培区画について、毎年1/2ずつを植替えしている。
- ・区画の1/2について、レンコンを栽培土ごとミニバックホウで掘り上げる。

※種株となるレンコンの掘り取りは行わない。

- ・掘り上げた栽培土は、バックヤードに堆積する。

※堆積した残土は、レンコン残滓を除去・消毒して再利用しているかは不明。

- ・掘り上げ後の栽培マスに、赤土+山砂の混合土を客土（厚さ30cm）する。
- ・掘り上げていない部分から客土部分にレンコンが伸長する。

※佐原では、長年この方法で行っており、ハスの生育に支障はないとのこと。



5－7 府中市郷土の森公園修景池の花ハス栽培

平成30年3月30日、府中市郷土森公園の修景池を視察した。

(1) 修景池の概要（府中市ホームページより）

府中市郷土の森公園内にある修景池には、現在30種類のハスが栽培されている。毎年6月から8月にかけて多数のハスの花が咲き誇り、その優美で気品のある姿を求めて、池の周辺は多くの人で賑わう。また、例年7月上旬には蓮を見る会が開催され、講師による解説やハスの実の配布などが行われている。

修景池で栽培されているハスの中には古代ハスや二千年ハスと呼ばれる、二千年以上前のものと推定される種子から発芽したハスがある。このハスは、ハスの研究者で理学博士の大賀一郎博士によって千葉県で発見されたもので、大賀ハスと名付けられており、根分けされたものが世界各地で栽培されている。大賀博士は約二十年間、府中市に住まわれており、この大賀ハスは府中市内の大賀博士自宅で発芽処理が行われた。府中は大賀ハスゆかりの土地なのである。

(2) 花ハスの栽培・展示方法

- ・池の中にコンクリート製の栽培マス（四角形、円形）を作り、花ハス30種を栽培している。
- ・栽培しているハスは、旧東大緑地実験所から提供されたものが多いようである。
- ・池の中には噴水があり、夏には噴水を背景にハスの花を観賞できる。
- ・ハスの栽培マスの池があるため、ハスの花がより美しく鑑賞できる。
- ・今後、千葉公園の再整備計画において、ハスの栽培をボート池に拡大することを検討するうえで、大変よい参考事例となる。

(3) 蓮を見る会（平成30年7月1日開催、府中市HPより）

- ・池の中にコンクリート製の栽培マス（四角形、円形）を作り、花ハス30種を栽培している。
- ・花蓮の種やポスター、団扇の配付や、恵泉女学園大学名誉教授の箱田直紀先生による「花蓮の解説と大賀一郎博士の紹介」の講話が行われた。



花蓮の種などの配付の様子



箱田先生による講話



箱田先生と鑑賞する人々の様子



花蓮の鑑賞の様子

(4) 修景池の状況





※開花期の写真は、「楽しく散歩 (<http://sanpo.lollipop.jp/>)」より引用

6 大賀ハス祭りへの参加

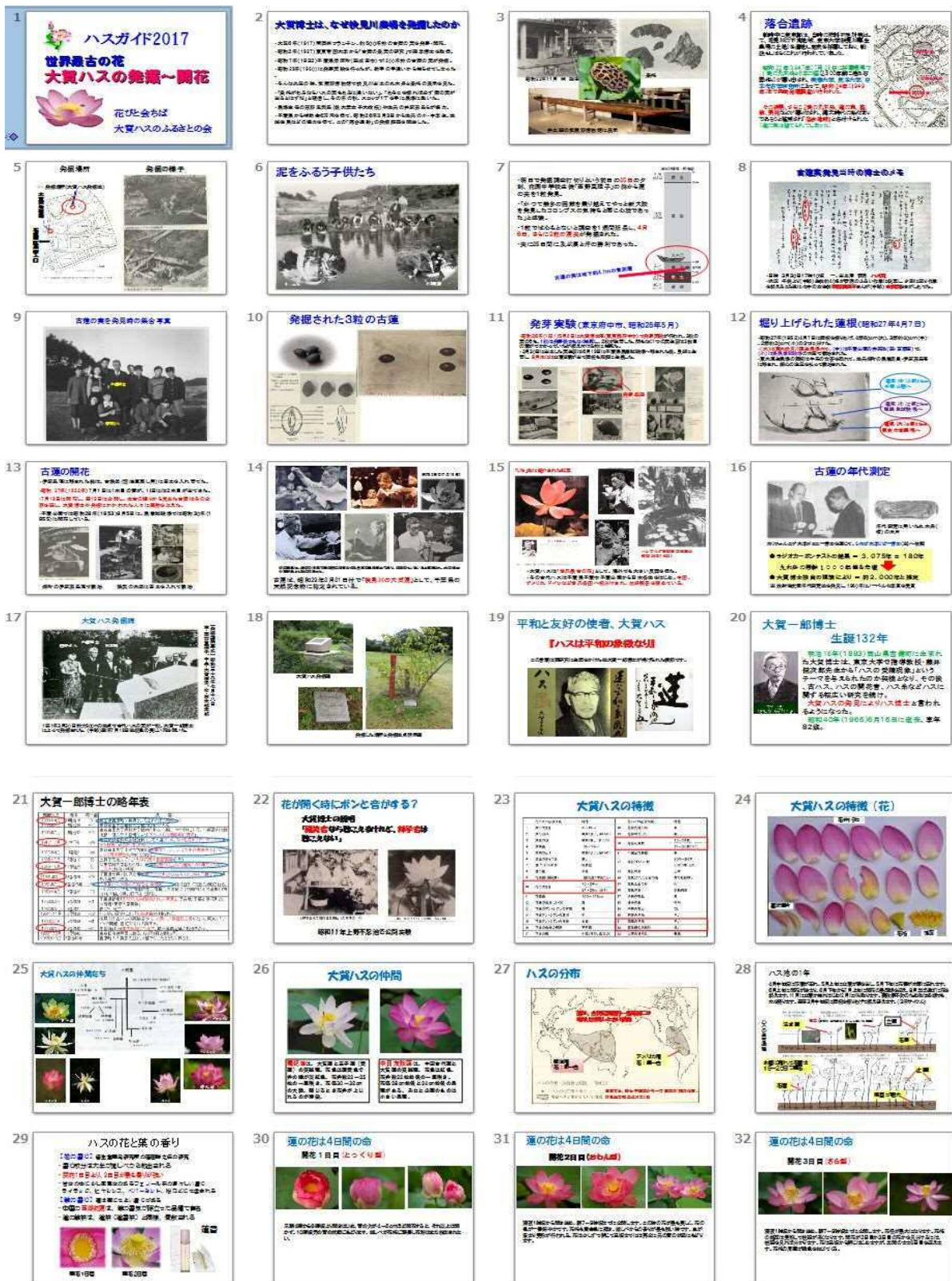
平成29年に千葉公園で開催された大賀ハス祭りに、蓮柄の浴衣の制作や大賀ハスガイドなどの取り組みに研究員として参加した。

(1) 蓮柄の浴衣の制作



(2) 大賀ハスガイドの実施

- ・平成29年6月19～25日の6日間、毎日8：00～8：45まで斎藤と大槻が1日交代で行った。
- ・前半30分は、スライドを使った大賀ハスの発掘～開花、普及までを説明し、その後屋外へ移動しハスの花や葉の観察をハス池周辺で行った。
- ・大賀ハスガイドの説明資料（抜粋）



7 都市アイデンティティ PR誌の取材に協力

(1) 千葉市発行「千葉市がもっと好きになる本」

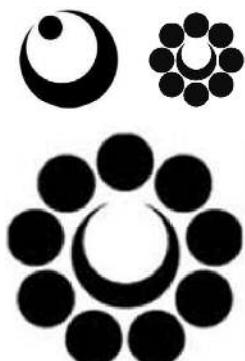
この冊子の対談に研究員の仙波、齊藤が参加した。

(2) 千葉市マイノート

この冊子の制作に研究員の斎藤が協力した。



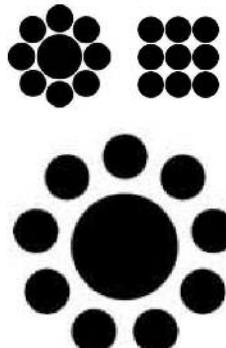
3 千葉氏のまち活性化プロジェクト 政策提言



月星紋の色々



千葉介常胤画像



諸星紋の色々

【研究員】斎藤久芳、坂口三代治、仙波慶子、丸井敬司、宮下登久子

目次

1 背景、現状・課題、方向性

- 1.1 背景
- 1.2 現状・課題
- 1.3 方向性

2 政策提言

- 2.1 常胤くん（千葉氏の語り部）が活躍する千葉のまち
 - (1) 常胤くん（千葉氏の語り部）の養成
- 2.2 暮らしの中に千葉らしい歴史・文化を感じる
 - (1) 中世に起源を持つ千葉らしい食文化の普及
 - (2) 千葉の港湾、海浜の歴史・文化の発信
- 2.3 千葉駅から千葉氏のまちが始まるまちなみづくり
 - (1) 千葉氏のまちシンボルロードの整備
 - (2) 中央公園と通町公園を日本庭園として再整備
 - (3) 旧吾妻町（蓮池）などを風致地区に指定
 - (4) 律令制度下の東海道の復元整備
 - (5) 千葉氏のまちウォーキング
- 2.4 千葉氏による千葉らしさを前面に出す拠点づくり
 - (1) 郷土博物館の外観の改築
 - (2) 千葉城を中心とした猪鼻山周辺を千葉城跡公園として整備
- 2.5 千葉氏の歴史・文化を未来に向けて発信
 - (1) 「親子三代夏祭り」を「千葉氏まつり」に名称変更
 - (2) 千葉氏の学術的研究の推進と成果の発信
 - (3) イベント等の実施と情報発信

3 参考資料

1 背景、現状・課題、方向性

1.1 背景

千葉氏は関東の名族として知られた武士団であり、大治元年(1126)、上総の大椎から下総の千葉に移住することで成立した。この武士団は千葉介常胤の代で源頼朝の挙兵にかかわったことで、上総・下総を始め、東北地方から南九州の薩摩国に至る全国に20数か所という広大な所領を獲得し、鎌倉幕府の御家人の中では最大の所領を持つ大武士団に成長した。

この武士団の本拠地として知られていたのが千葉の町であった。千葉の町は千葉氏の守護神であった妙見菩薩の別当寺であった北斗山金剛授寺尊光院(現千葉神社)と猪鼻城を結ぶ参道(広小路)上に形成され、最大時には「表(町)八千軒、裏(町)八千軒」と言われるほど栄えたと伝えられている。

千葉氏は康正元年(1455)、一族の中で内紛が起き、本宗家の千葉介胤直が滅ぼされ、胤直の叔父馬加康胤がその名跡を継承する(これを「馬加系千葉氏」という)。康胤の子孫は、やがて荒廃した猪鼻城から本佐倉城に本拠地を移すが、戦国時代末期なると千葉氏は小田原の後北条氏に属する武将の一つとなり、天正18年(1590)、豊臣秀吉による小田原合戦で、後北条氏とともに滅亡した。

康正元年以後の千葉の町は、この内紛で焦土化したが、やがて裏町は復興し、江戸時代は尊光院の後身である妙見寺(現千葉神社)の門前町として栄えた。明治になり妙見寺は神仏分離令によって廃寺となり、同寺境内の妙見堂が千葉神社として再出発する。また、裏町も明治に入ると吾妻町と名称を変えた。

吾妻町は千葉に鉄道が開通し、千葉駅ができると千葉駅と県庁を結ぶ銀座通りが千葉町のメイン通りとなり、その通りに沿った吾妻町は大いに栄えた。特にこの通りの一本東側の通りの両側は通称「蓮池」と呼ばれ、花街として知られるようになった。

しかし、戦後、吾妻町一帯の商店街は昭和32年に千葉駅が要町から新千葉町に移転するまでは賑わいを保っていたが、移転後は千葉市のメイン通りから外れ、次第に衰退しつつある。なお、吾妻町1~3丁目は昭和45年住居表示によって中央2~4丁目となった。

一方、千葉市にはこうした千葉氏や千葉町の歴史だけではなく、千葉市稻毛区の黒砂伝承、中央区猪鼻の七天王塚などの千葉氏の祖とされた将門の伝承、千葉市中央区の君待橋伝承、白幡神社伝承、結城浜合戦伝承、頼朝の千葉神社参詣伝承、お茶の水伝承や花見川区幕張の幕張伝承、頼朝に馬で加わったとされる馬加村伝承。更には中央区の千葉神社や千葉寺で行われていたとされる千葉笑い、千葉神社妙見祭の大船の巡行、千葉市中央区や花見川区武石町のなどで伝承された羽衣伝承など千葉氏や源頼朝に関わる伝承が数多く残されている。

以上のように千葉氏の歴史や千葉市に残された千葉氏に関わる千葉固有の伝承を考えると千葉氏の歴史・文化は千葉氏が統治した約464年間だけではなく、千葉神社の宮座(みやざ)が形成された千葉町(吾妻町・院内町)の人々を中心に千葉の人々

の間で脈々と語り伝えられ、千葉市民の間で独特的なアイデンティティを育んできた。

こうした千葉市におけるアイデンティティは敗戦によって衰退の一途を辿っていたが、特に近年の千葉市の発展と人口の増加より更に、衰退の一途を辿り、千葉市活性化を阻害している。

千葉市民の活力を取り戻す最善の方法は千葉市に伝承された千葉氏の歴史・文化を再評価し、この伝統的な文化を下地としながら現代の社会に適応するような新たな千葉市の独自文化を再構築し、それを基にして誇り高い、魅力ある町づくりと千葉市民のアイデンティティの構築の促進を図ることが必要である。

1.2 現状・課題

昨年の千葉市による千葉氏に対する市民アンケートによると千葉氏に対する関心度は極めて低い結果が出ている。この原因としては千葉氏の存在が千葉市民の誇りや尊敬の対象として考えられていないことによるものと思われる。

先に述べたように千葉氏は源頼朝の挙兵に積極的に参加し、事実上、頼朝を指導して鎌倉幕府の創設に大きく貢献した関東武士団の中でも中心的な役割を果たした。『吾妻鏡』によれば「千葉氏の惣領である千葉介常胤が参加した戦いにおける第一の功労者は常胤とする」というルールが出来上がっていたとされている。これは源平合戦を通じて常胤の功績が他の武士団に比べて群を抜いて優れていたことが関東の他の武士団や頼朝本人にも普指揮されていたためであるが、現在の千葉市を取り巻く歴史環境では常胤は、数あまたの頼朝の御家人の一人に過ぎないとする歴史学者やそれに迎合する教育者などによるネガティブな評価が定着しており、これが千葉市民の千葉氏に対する評価を引き下げている。

しかし、千葉氏が鎌倉幕府の創設と中世時代という武士を中心とした新しい時代の幕開けに大きく貢献した最大の功労者であったことは他が認める歴史的事実であり、これを正しく評価し、市民の間に浸透させる活動が求められている。

これにはまだ埋もれている千葉氏関係資料の発見や千葉氏の再評価に繋がる調査・研究を進めることも必要なことであると考えられる。

以上により、現状・課題をまとめると以下のようになる。

- (1) 千葉氏の名前はよく知っているが、「親近感」が少ない。
- (2) 千葉氏に誇りと愛着が持てるように、「千葉氏の歴史・文化」を正しく発信する必要がある。
- (3) 千葉氏を「活用したまちづくり」を進める。

1.3 方向性

現状・課題を受けて、政策提言の方向性を以下のように設定した。

- (1) 千葉駅から千葉氏が始まる環境整備
- (2) 千葉氏による千葉らしさを前面に出す拠点づくり
- (3) 千葉氏を中心とした歴史・文化を未来に向けて発信

2 政策提言

2.1 常胤くん（千葉氏の語り部）が活躍する千葉のまち

(1) 常胤くん（千葉氏の語り部）の養成

1. 目的

市内の小・中学校、公民館、生涯学習センター等に千葉氏のことをもっと知ってもらうための「千葉氏の出前講座」や「食文化の講座」を実施するため、常胤くん（千葉氏の語り部）を養成する。

2. 理由

- (1) 千葉市による千葉氏に対する市民アンケートによると千葉氏に対する関心度は極めて低い結果が出ている。この原因としては千葉氏の存在が市民の誇りや愛着、尊敬の対象として考えられていないことによるものと思われる。
- (2) 千葉氏が鎌倉幕府の創設と中世時代という武士を中心とした新しい時代の幕開けに大きく貢献した最大の功労者であったことは歴史的事実であるが、このことが正しく市民に知られておらず、市民の間に千葉氏を浸透させる活動が求められている。

3. 内容

- (1) 千葉氏とそれに関する千葉市の郷土史に詳しい講師（常胤くん）を養成し、上記講座・ガイド・イベント等へのボランティアとして活躍してもらう。
- (2) 千葉常胤が源平合戦や鎌倉幕府創設の第一の功労者であり、中心的に果たした役割について直接、小・中学校等に派遣して分かり易く、かつ正しく説明できる講師（常胤くん）を養成する。



4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1) 「常胤くん（千葉氏の語り部）」を市民から公募する。
- (2) 「常胤くん（千葉氏の語り部）」を養成するための講師陣、講座カリキュラム作成等の講座開催体制を整え、講座をスタートする。講座受講修了者には、千葉市長が「常胤くん」として認定する。

5. ゴール（目指すべき姿）

常胤くん（千葉氏の語り部）の活躍により、千葉氏に対する市民の関心度が高くなり、千葉氏の存在が市民の誇りや愛着、尊敬の対象として定着すること。

6. 必要な資源

- (1) 人的資源と予算

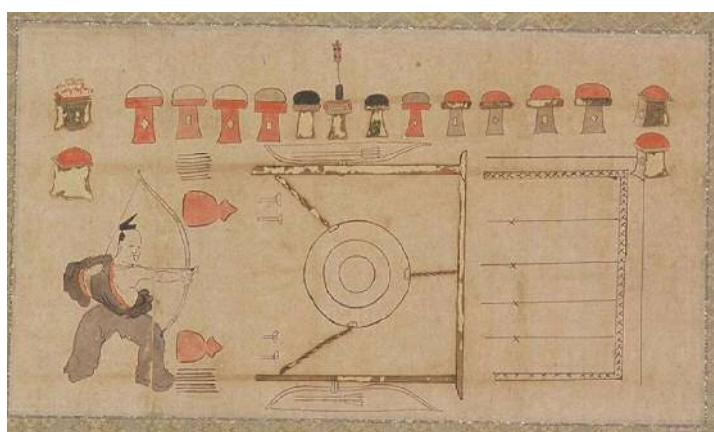
「常胤くん（千葉氏の語り部）」を養成するための講師陣とその報酬費

2.2 暮らしの中に千葉らしい歴史・文化を感じる

(1) 中世に起源を持つ千葉らしい食文化の普及

1. 目的

『将門射的図（長国寺蔵）』には、『三方』に乗せた食物の絵が登場する。また、『千学集抜粋』にも料理の話が登場する。こうした千葉氏の資料などを研究し、中世に起源を持つ千葉らしい食物を復元し普及させる。



将門射的図（長国寺蔵）

2. 理由

千葉氏は鎌倉幕府に数回にわたり正月に、千葉らしい椀飯を献上しているが、我々の暮らしの中にも千葉らしさを感じることができ、市民の間に千葉氏を浸透させるものとして、中世に起源を持つ千葉らしい食物を復元し普及させる。

3. 内容

上記の千葉氏の資料などを研究し、具体的な食物メニューを創作する。

4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

関連する市内企業者（飲食業、調理師学校、料理学校等）にコンペティション方式でアイデア募集をかける。その際に、事前説明会として、2017年6月4日に開催された「千葉氏フォーラム（現在につながる鎌倉時代の食文化）」を市内企業者向けに再度実施する。

5. ゴール（目指すべき姿）

中世に起源を持つ千葉らしい食物が復元、普及することにより、千葉氏に対する市民の関心度が高くなり、千葉氏の存在が市民の誇りや愛着、尊敬の対象として定着すること。また、千葉市の名物料理として全国に広がること。

6. 必要な資源

(1) 予算

事前説明会及びコンペティションに係る費用

(2) 千葉の港湾、海浜の歴史・文化の発信

1. 目的

千葉の港湾、海浜の歴史・文化を発信することで、千葉市が歴史ある国際都市であることをアピールするとともに、市民が誇りと愛着を持てるようにする。

2. 理由

千葉市が港湾、海浜の歴史・文化と共に発展、成長してきたことを後世に継承・伝承するために、それらを発信する必要がある。

3. 内容

結城浜(中央区中央)・登戸浦(登戸町)・寒川浦(寒川町)などの港湾の歴史と海浜の文化を復活、発信する。発信媒体は、前述の「常胤くん」や市民講座、メディアを活用する。



結城浜合戦図



昔の登戸海岸

4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

講師の養成と発信のためのテキスト、冊子を作成する。

5. ゴール（目指すべき姿）

千葉の港湾、海浜の歴史・文化に、市民の誇りと愛着が定着すること。

6. 必要な資源

(1) 予算

講師の養成と発信のためのテキスト、冊子の作成に係る費用

2.3 千葉駅から千葉氏のまちが始まるまちなみみづくり

(1) 千葉氏のまちシンボルロードの整備

1. 目的

千葉氏のまち活性化プロジェクトを推進するため、千葉駅から千葉神社に至るまでの道路に（仮称）千葉氏プロムナード（歩行者専用道路）をシンボルロードとして整備する。

2. 理由

- (1) 千葉駅前から中央公園に至る幅 50m の道路は、現在は歩道と片側三車線の車道が整備されているが、この道路は中央公園から先は幅 30m となるため、その差の 20m は無駄となっている。
- (2) 現道両脇は、銀行や NTT などのオフィスビル街となっており、また大手商業施設の撤退により市民憩いの場・にぎわいの場としての人通りが少なくなっている。
- (3) シンボルロードの整備は千葉市の新たな観光地として千葉市内外からの観光客を呼び込める。
- (4) このシンボルロードの最終地が千葉氏の守護神であった千葉神社であることから、千葉神社と千葉氏に関する歴史解説ボランティア活動の活用にもなり、また千葉氏の歴史と一体化した道路となることより、市民の郷土意識の醸成にもつながる。
- (5) 京都「四条通り」の事例にもあるように、道路の車線削減と歩道拡大は、中心市街地の活性化に寄与する。

3. 内容

- (1) 千葉駅前から中央公園までの約 400m の間は、車線の削減と歩行者空間の拡幅により、両脇に桜を植栽した幅約 20m の鎌倉の段葛参道^{だんかずら}に似た歩行者専用道を整備する。
- (2) 中央公園から千葉神社楼門までの間は、新宿プロムナードのように公園の両側に車道を振り分け、公園をプロムナード化する。
- (3) 千葉神社楼門前は現在の通町公園の敷地を参道とし、その両脇には仲見世を設ける。

（段葛参道のイメージ）



4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1) 市民および関係機関各位に対して、本計画提言に対する意見聴取を実施する。
- (2) 本シンボルロード計画の具現化・可視化のために、道路計画設計（道路予備設計）を実施する。調査・設計に掛かる費用は、概略 700 万程度である。

5. ゴール（目指すべき姿）

本市の中心市街地に活性化が復活し、このシンボルロードが市民憩いの場となり、市民が愛着と誇りの持てる駅前ストリートが完成すること。

6. 必要な資源

(1) 予算

道路工事費（本体工）として、概略以下の予算規模である。

道路改良延長=700m

道路改良平均幅=20m

m² 当り工事費（諸経費含む）=40 千円

道路工事費（本体工）=700×20×40=560,000 千円

(2) 中央公園と通町公園を日本庭園として再整備

1. 目的

千葉駅から千葉神社に至るまでのシンボルロード（仮称）千葉氏プロムナード（歩行者専用道路）の整備と一体化して、両公園を再整備する。

2. 理由

現況の公園形態は、千葉氏（千葉神社）とおよそ似つかないものとなっている。

特に、意味不明と思われるモニュメント等は、この両公園には適合していないと考える。

3. 内容

中央公園と通町公園を日本庭園として再整備し、通町公園は千葉神社門前公園として千葉神社と一体化し、浄土池（大賀ハス）のある日本庭園として整備し、園内には千葉介常胤像を新たに造る。

千葉神社参道と門前仲見世計画図



4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1) 市民および関係機関各位に対して、本計画提言に対する意見聴取を実施する。
- (2) 現在、通町公園の整備設計が進んでいる状況の中、その設計コンセプトを情報開示して、市民および関係機関各位に対して意見聴取を実施する。

5. ゴール（目指すべき姿）

本市の中心市街地に活性化が復活し、両公園が市民憩いの場となり、市民が愛着と誇りの持てる千葉氏ゆかりの公園が完成すること。

6. 必要な資源

(1) 予算

両公園整備費として、概略以下の予算規模である。
公園整備費（モニュメントは除く）=150,000 千円

(3) 旧吾妻町（蓮池）などを風致地区に指定

1. 目的

旧吾妻町地区を風致地区に指定し、千葉氏の歴史・文化を感じさせる都市景観の整備を行う。

2. 理由

旧吾妻町地区は関東では珍しい古代の条坊制の痕跡を残す町であり、また当地区を中心に千葉が栄えてきた歴史より、これを保存するために風致地区に指定する。



3. 内容

旧吾妻町地区と猪鼻城跡を一体化して、その説明板なども設置し、千葉氏の歴史・文化を感じさせる都市景観の整備を行う。また、蓮池は戦前・戦後に栄えた千葉の花柳界の通称で、旧吾妻町地区にありました。この起源は千葉氏の時代に遡るものであり、その説明看板などの設置で、その存在を後世に伝えることとする。

4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

市民および関係機関各位に対して、本計画提言に対する意見聴取を実施する。

5. ゴール（目指すべき姿）

旧吾妻町地区が千葉氏の歴史・文化を感じさせる都市景観の町となり、本市の中心市街地に活性化が復活すること。

6. 必要な資源

(1) 予算

説明板等設置費=10,000 千円

(4) 律令制度下の東海道の復元整備

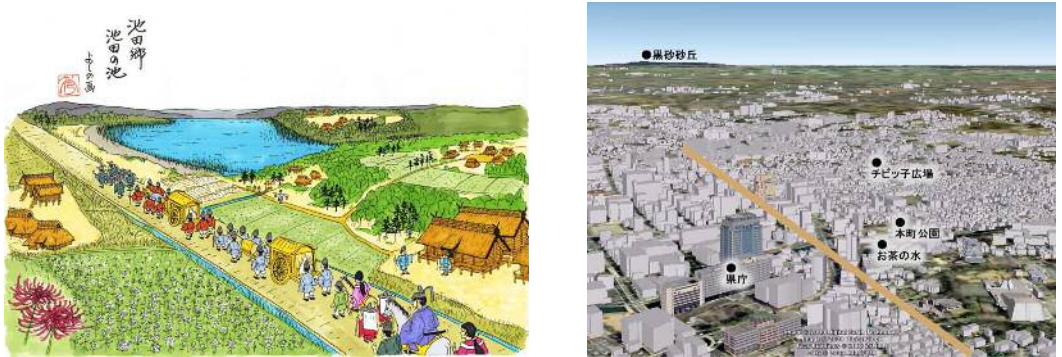
1. 目的

現在の中央地区は、律令制度下の東海道が通っていた。この律令制度下の東海道の復元整備を行い、千葉市が歴史ある都市であることに、市民が誇りと愛着を持てるようとする。

2. 理由

この道は古くは『更級日記』の作者である菅原孝標女一行が通り、源頼朝も挙兵時期、この道を通って千葉市へ来訪したと言われており、千葉氏にもゆかりの道で

もあるため、これを整備する。



3. 内容

現在、道路(市道)として利用されている約 7.45km 区間を市民の憩いの道(古代の道)として歩道を整備する。

4. ファーストアクション (最初に先ず行う取り組み)

市民および関係機関各位に対して、本計画提言に対する意見聴取を実施する。

5. ゴール (目指すべき姿)

市民が誇りと愛着の持てる市民憩いの道(古代の道)が完成すること。

6. 必要な資源

(1) 予算

歩道整備費（本体工）として、概略以下の予算規模である。

歩道整備延長=7450m

歩道整備平均幅=2m

m² 当り工事費（諸経費含む）=15 千円

歩道整備費（本体工）=7450×2×15=223,500 千円

(5) 千葉氏のまちウォーキング

1. 目的

千葉駅から千葉氏に関わる街並みや史跡・寺社などを訪ねて歩く「千葉氏のまちウォーキング」を開催する。

2. 理由

千葉氏が感じられる「ウォーキングコース」があるにもかかわらず、これまであまり開催されてこなかった。

3. 内容

千葉氏のまち「ウォーキングコース（ヒストリーパス）」を設置する。コースの中の史跡・寺社には説明板を設置する。

（例えば、ガマの油の発祥地（宝幢院）など）



宝幢院



千葉神社楼門



光明寺

4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

観光協会、千葉氏研究の専門家等と協力して、千葉氏のまち「ウォーキングコース（ヒストリーパス）」を設置する。コースの中の史跡・寺社には説明板を設置する。

5. ゴール（目指すべき姿）

「千葉氏のまちウォーキング」が定期的に開催され、千葉氏のまちとしての都市イメージが千葉市に定着すること。

6. 必要な資源

(1) 予算

「ウォーキングコース（ヒストリーパス）」の設置に係る費用

2.4 千葉氏による千葉らしさを前面に出す拠点づくり

(1)郷土博物館の外観の改築

1. 目的

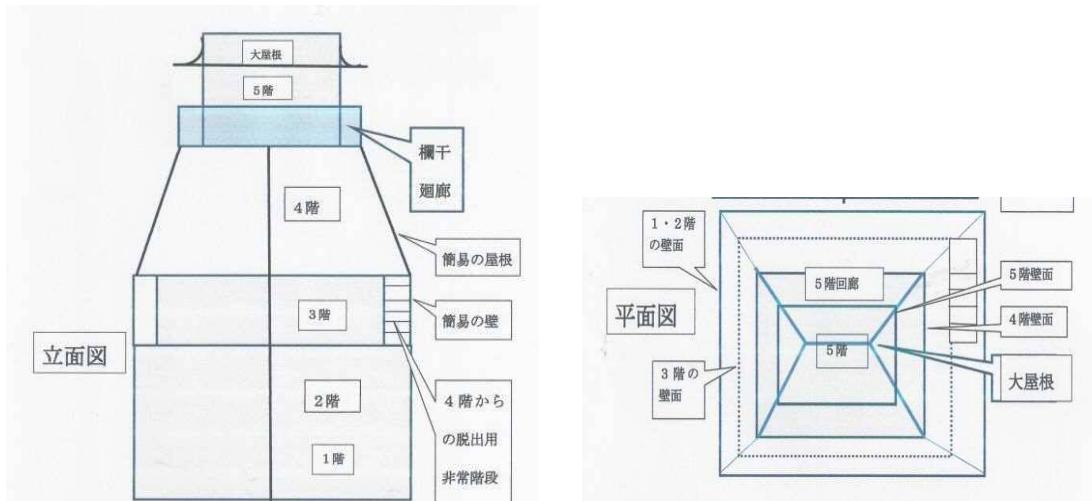
千葉氏が活躍した時代に合致した外観に郷土博物館を改築する。

2. 理由

現在の郷土博物館の外観は近世城郭であるので、郷土史の教育上の見地、及び千葉市の都市形成の歴史と合致させるため、郷土博物館の外観を改築する。

3. 内容

郷土博物館の外観を中世城郭に存在した楼閣建築に改築する。



4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1)市民および関係機関各位に対して、本計画提言に対する意見聴取を実施する。
- (2)千葉氏研究の専門家の指導を仰ぎ、改築する外観のイメージパースの作成に取り組む。

5. ゴール（目指すべき姿）

千葉氏が活躍した時代に合致した外観に郷土博物館を改築すること。

6. 必要な資源

- (1)予算

外観のイメージパースの作成、及び外観の改築工事に係る費用

(2) 千葉城を中心とした猪鼻山周辺を千葉城跡公園として整備

1. 目的

猪鼻山周辺を千葉氏と一体化した千葉城跡公園として整備する。

2. 理由

現況の公園形態は、千葉氏と関わる周辺寺院と一体化した公園とは言い難い状況にあり、これを千葉氏と一体化した千葉城跡公園として整備する。

3. 内容

猪鼻山周辺の智光院、胤重寺、高徳寺、東禪寺など千葉氏と関わる周辺寺院を千葉城と一体化した猪鼻城跡公園として整備する。また、現在の桜を再生する際には、源平しだれ桜を植えるなど和風庭園としても再整備し、住民の憩いの場や防災啓蒙拠点（公園として）として整備する。



4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1)周辺寺院に対して、本計画提言に対する意見聴取を実施する。
 - (2)千葉氏研究の専門家に、本計画提言に対する意見聴取を実施する。

5. ゴール（目指すべき姿）

本公園が市民憩いの場となり、市民が愛着と誇りの持てる千葉城跡公園となること。

6. 必要な資源

(1) 予算

公園の整備工事に係る費用

なお、桜の再生に必要な費用は、市民及び市内企業者に呼びかける。平成30年1月22日付けの千葉日報によると桜再生の募金活動はしているが、PR不足で思うように資金が集まっていないとのことである。

2.5 千葉氏の歴史・文化を未来に向けて発信

(1) 「親子三代夏祭り」を「千葉氏まつり」に名称変更

1. 目的

現在、千葉氏に直接関わる市民祭りはありません。「親子三代夏祭り」を「千葉氏まつり」と改称することで千葉らしさを前面に出す。

2. 理由

本家本元の千葉市に千葉氏の冠がついた市民祭りが無いのは残念なことであり、市民の千葉氏に対する関心度を高めるためにも、「親子三代夏祭り」を「千葉氏まつり」に名称変更する。

3. 内容

名称変更後は、千葉氏と海の文化を象徴する大船(千葉船・結城船)を復元し、「千葉氏まつり」の中で巡回させたり、千葉の羽衣伝承、蓮池文化やお茶の水伝承、君待橋伝承などの頼朝伝承をまつりの中で保存・継承をしていく。



大船の巡回(『下総国千葉郷妙見寺大縁起絵巻』より)

4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

市民および関係機関各位に対して、本計画提言に対する意見聴取を実施する。

5. ゴール（目指すべき姿）

市民が愛着と誇りの持てる市民祭りとなること。

6. 必要な資源

特に無し

(2) 千葉氏の学術的研究の推進と成果の発信

1. 目的

千葉氏の活躍を示す資料の学術的な研究や千葉氏に関する埋蔵物の発掘とそれらの成果を発信する。

2. 理由

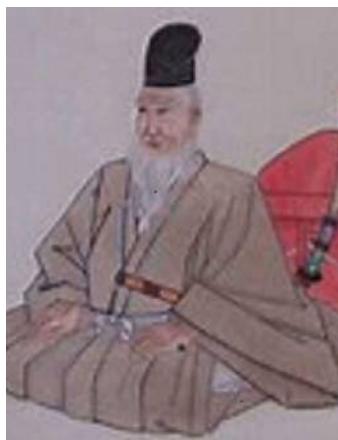
学術的研究の推進とその成果を発信することで、千葉市の都市アイデンティティを内外にアピールする。

3. 内容

例えば、千葉寺瀧藏神社の女神像、紙本彩色千葉介常胤像、猪鼻山出土の褐釉四耳壺の年代鑑定、猪鼻山出土の古瀬戸四耳壺の人骨のDNA鑑定など千葉氏関係資料の研究・調査を進める。また、必要とあれば、そのための民間研究機関を設立する。



千葉寺瀧藏神社の女神像



紙本彩色千葉介常胤像



褐釉四耳壺

4. ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

関係機関各位に対して、本計画提言の実施方針を説明し、実施体制への支援・協力をお願いする。

5. ゴール（目指すべき姿）

学術的研究の推進とその成果を発信することで、千葉市の都市アイデンティティを内外にアピールすること。

6. 必要な資源

(1) 予算

発掘調査、研究に係る費用

(3) イベント等の実施と情報発信

- (1) 千葉開府 900 年では、市民に手作り鎧などを自作してもらい、「千葉氏まつり」への参加を呼び掛ける。
- (2) 健康増進にもなる「千葉笑い」を復活させる。
- (3) 鎧・直垂の着用体験や乗馬体験など当時の武士達の生活習慣の体験を郷土博物館で常時できるようにする。
- (4) 郷土博物館内に「博物館友の会」を設置する。
- (5) 千葉妙見寺(現・千葉神社)の住職であり、宝幢院に墓がある光誉上人の考案した「ガマの油」と「ガマの油の口上」を復活する。
- (6) 将来の NHK 大河の招致を見据えて、千葉常胤を題材とした小説を募集する（有名審査員が必要）。
- (7) 「蓮池物語」（徳田秋声「縮図」）の続き（最終章）として、千葉蓮池を舞台とした銀子と栗栖の最後（小説）を募集する。

3 参考資料

目次

1. SWOT分析による千葉氏の課題の検討
2. 特性評価
3. 千葉氏アンケート調査
4. 鎌倉視察

1. SWOT分析による千葉氏の課題の検討

		強み	弱み	
内から見た 内から見た	ハード	千葉城がある、関連史跡もある、博物館もある。	ハード	千葉城か博物館かがはっきりしない(名称の統一)、城郭の構えとしては大きな規模のものであるが、鎌倉時代の遺構や遺物が少ない。城の名称が猪鼻城なのか千葉城なのか統一がとれていない。所在地も混在している、各史跡がリンクして認知されていない。
	ソフト	千葉氏にはストーリー性がある、県名・市名である、全国に広がった千葉氏一族の存在は千葉氏特異なものである。	ソフト	鎌倉幕府創設の最大の功労者であるが、認知度が低い。猪鼻山から12世紀末期の褐釉四耳壺などの遺物が出土しているが、調査が行われていない。
	組織・人材	博物館組織がある。	組織・人材	正式な学芸員の採用や専門的研究者の配置が行われていない。
外から見た 外から見た	機会(見通し性)		脅威(障害となる特性)	
	ハード	名称の統一が必要(千葉城:×猪鼻城:○)、広小路を含めて関連史跡をリンクさせ鎌倉時代が見える町としてアピールが必要。頼朝との関係をアピールして小鎌倉をアピールできる。	ハード	広大な城と推定されているが、猪鼻城跡の文化財指定が郷土博物館と「いのはな公園」に限定されているので、周囲の寺院を含めて新たに指定区域を広げる必要がある。市民意識の盛り上がりに欠ける。
	ソフト	千葉氏のストーリー性をコンパクトにする、家紋を活用する、わかりやすさを構築する。	ソフト	妙見思想はわかりづらいが、現在の千葉市中心部の市民生活や習慣とも密接に結びついているので、「千葉氏祭り」などと関連付いたイベントを新たに行う必要がある。
	組織・人材	博物館組織を中心とした人材育成が必要。	組織・人材	人・物・金の不足、民間活力が期待できる資源に転換する必要がある。

特性評価

千葉氏の持つ特性を6つの視点から評価した。

(1~5点、5段階評価)

2.

列1	列2	列3	列4	列5
1、 【総合】 ブランド力特性				
11) 愛着度	千葉氏が街にあることに愛着を感じますか?		3	
12) 誇り度	千葉氏が街にあることに誇りを感じますか?		3	
13) 推奨度	千葉氏に訪れることが友人・知人に(住むこと・遊びにくること・働くこと)薦めたいですか?		3	
14) 認知度・知名度	千葉氏を知っているか?全国で唯一の価値ということを知っているか?		2	
15) 集客力	千葉氏に訪れたことがあるか?どのくらいの頻度で訪れるか?		3	
16) 発信力(ストーリー性・千葉らしさ)	千葉氏の価値を伝えるストーリーが確立されているか?千葉市らしさとして発信されているか?		4	
17) 社会貢献力	千葉氏は、社会貢献性の高い事業(プロジェクト)を行っているか?		3	
18) ブランド継続力(持続可能性)	千葉氏は、ブランド力を長期的に維持・継続できているか?		3	
		合計	24	/40
2、 【商業的側面】 観光力特性				
21) 本業における魅力的コンテンツ提供	千葉氏は、(本業における)常設展示、体験、イベント等、魅力的なコンテンツがハード面・ソフト面含め発信・提供できているか?		3	
22) 本業外の魅力的コンテンツ提供	千葉氏は、本業外に魅力的なコンテンツ(ショピング、グルメ、散策、遊び、学び、etc)を提供できているか?		2	
23) アクセシビリティ	千葉氏は、公共交通、駐車場、歩行者、ツーリストへの案内標識など良好なアクセシビリティを提供できているか?		2	
24) 周辺地域への波及効果	千葉氏は、周辺商業者へ産業・経済的貢献(収益貢献、雇用貢献など)波及効果を得られているか?		1	
		合計	8	/20
3、 【学術的側面】 学術特性				
31) 歴史・文化(学術的)価値	千葉氏は、歴史・文化(学術的)価値があり、効果的に発信・提供できているか?		3	
32) 自然(学術的)価値	千葉氏は、自然科学(学術的)価値があり、効果的に発信・提供できているか?		3	
33) 学習・教育的価値	千葉氏は、学習・教育的価値を提供できているか?		3	
34) 最先端(技術)度	千葉氏は、IOT・最先端(技術)を取り入れた取り組みをしているか?		2	
		合計	11	/20
4、 【景観・自然環境の側面】 自然・景観特性				
41) 景観的価値	千葉氏は、景観的価値を提供できているか?		2	
42) 自然環境的価値	千葉氏は、自然環境維持・保全の質に寄与しているか?		2	
43) 自然・地形的特性を活用しているか	千葉氏は、自然・地形的特性を活用しているか?		3	
44) 周辺地域の価値を上げる環境となっているか	千葉氏は、周辺地域の価値を上げる環境となっているか?		3	
		合計	10	/20
5、 【日常生活的側面】 くらし・市民生活				
51) 近隣住民への価値提供	千葉氏は、本業において、近隣住民に日常生活に不可欠(代替不可能)な価値を提供しているか?		3	
52) 近隣住民のくらしの質の向上	千葉氏は、本業外含め、近隣住民のくらしの質の向上に寄与しているか?		3	
53) 近隣住民が活躍する場の提供	千葉氏は、近隣住民が活躍する場が提供されているか?		3	
54) 近隣住民のコミュニティ向上	千葉氏は、近隣住民のコミュニティ向上に寄与しているか?		2	
		合計	11	/20
6、 組織・協働・連携【体制】				
61) 中心組織の体制	中心組織の体制は整っているか、リーダーシップがあるか?		4	
62) 外部有識者との協力体制	協力が得られる外部有識者がいるか?		4	
63) 支援組織との連携	支援組織・関連サークルがあり、連携しているか?		4	
64) 地域組織との連携	町会・自治会などの地域組織と連携しているか?		2	
65) 地域市民との連携	地域住民から連携・協力を得られているか?		2	
66) 行政組織との連携	各種行政組織と連携しているか?(学校etc)		3	
67) 全国関連組織との連携	地域(行政区)を超えた全国関連団体等と連携しているか?		5	
68) 連合協議会等の設置	連合協議会等の複数団体が参加する場が設置されているか?		4	
		合計	28	/40
		総合計	92	/160

3. 千葉氏アンケート調査

- 1) 日時 2017年6月4日 13~17時
- 2) 場所 千葉商工会議所 第1ホール
- 3) 対象 千葉氏フォーラム参加者
- 4) 方法 希望者に調査項目シートを手渡し回答してもらった。
- 5) 回答数 68名

調査項目シート

千葉氏に関するアンケート

千葉市では、4つの地域資源（加曽利貝塚、千葉氏、大賀ハス、海辺）を活かした特徴と魅力のある都市づくりを進めています。私たちは、千葉市まちづくり未来研究所の研究員として、この地域資源をまちのデザインに活用する政策提言を行うため調査研究を行っています。この度、研究活動の一つとして「千葉氏に関するアンケート調査」を行いますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

- ◆
- 1 はじめに、あなた自身についてお聞きします。(該当する番号・文字に丸印をつけて下さい)
 - 1-1 性別 ①男性 ②女性
 - 1-2 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上
 - 1-3 居住地 ①千葉市内(中央区・稲毛区・花見川区・若葉区・緑区・美浜区)
②千葉県内(市町村)、③関東(東京・神奈川・埼玉・茨城・栃木・群馬)
④その他(県府道)
 - ◆
 - 2 千葉氏についてお聞きします。
 - 2-1 千葉氏についてどの程度知っていますか。
①詳しく知っている、②名前は知っている、③知らなかった。
 - 2-2 千葉市を創設した豪族が「千葉氏」であることを知っていますか。
① 知っている、②知らなかった
 - 2-3 君待橋伝承、白幡神社伝承、お茶の水伝承などが千葉氏の伝承であることを知っていますか。
① 知っている ②知らない
 - 2-4 千葉氏に関する話題が登場する機会はどれくらいありますか。
①たくさんある ②ときどきある ③あまりない ④まったくない
 - 2-5 千葉氏が千葉市に良いイメージ(印象)を与えていると思いますか。
①多いにある ②少しある ③あまりない ④まったくない
 - 2-6 千葉氏を通じて千葉市の特徴や魅力を高めるために何をしたら良いと思いますか。
①千葉市創設を記念する日を制定する ②千葉氏を活用した商品や料理 ③情報発信 ④千葉氏のキャラクターをつくる ⑤千葉氏の漫画やビデオをつくる ⑥千葉氏の名所づくり ⑦その他() (いくつでも丸印を付けてください)
 - ◆
 - 3 親子三代夏祭りについてお聞きします。
 - 3-1 親子三代夏祭りが千葉開府850年を記念して始められたことを知っていますか
① 知っている、②知らなかった
 - 3-2 親子三代夏祭りのことは何で知りましたか。
①市政だより ②市のホームページ ③ポスター・チラシ ④新聞・テレビ ⑤知人から聞いた
 - 3-3 親子三代夏祭りに参加したことはありますか。
① 参加したことがあります ②参加したことはありません
 - 3-4 親子三代夏祭りに参加した人に聞きます
親子三代夏祭りで良かったものは何ですか(いくつでも丸印を付けてください)
① 神輿 ②講演会 ③甲冑行列 ④飲食 ⑤物販 ⑥その他()
 - 3-5 祭りで良くなかったもので改善してほしいものはなんですか(いくつでも丸印を付けてください)
① 祭の名称を「千葉氏祭り」に変える ②案内体制の整備 ④その他()
 - 3-6 今後、千葉氏に関するイベントが予定されていますが、参加したいと思いますか(A、Bにも○印)
A:親子三代夏祭り B:千葉氏に関する講演会・シンポジウム
① ぜひ参加したい(A、B) ②参加したい(A、B) ③参加したくない

ご協力ありがとうございました／千葉市まちづくり未来研究所第2期

以下に、アンケート調査結果の集計結果を示す。

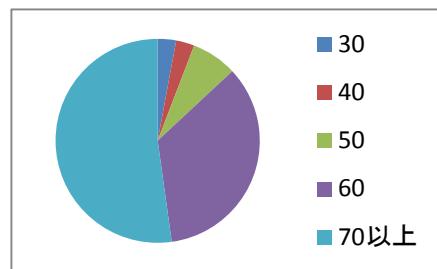
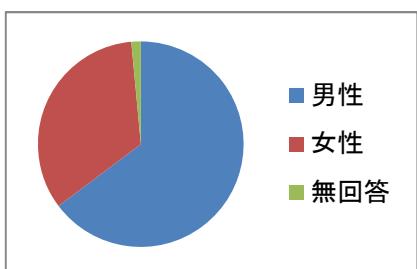
1 はじめに、あなた自身についてお聞きします

1-1性別

男性	女性	無回答
44	23	1

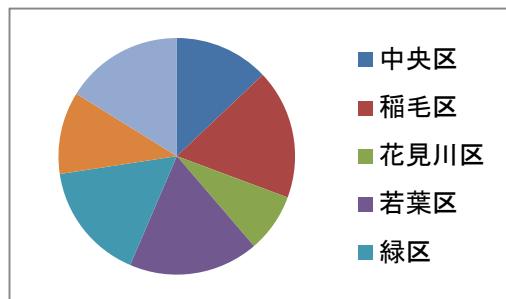
年齢

30	40	50	60	70以上
2	2	5	24	36



1-2居住地

中央区	稻毛区	花見川区	若葉区	緑区	美浜区	市外	無回答
8	11	5	11	10	7	10	6

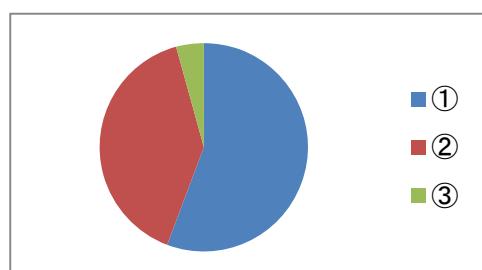


2 千葉氏についてお聞きします

2-1千葉氏についてどの程度知っていますか

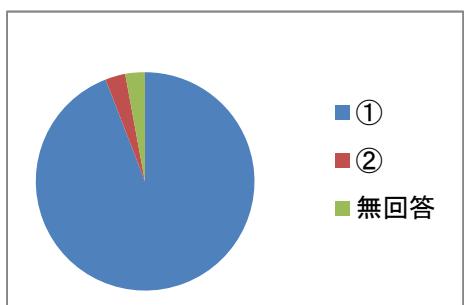
①	②	③
39	28	3

- ①詳しく知っている
- ②名前は知っている
- ③知らなかった



2-2千葉市を創設した豪族が「千葉氏」であることを知っていますか

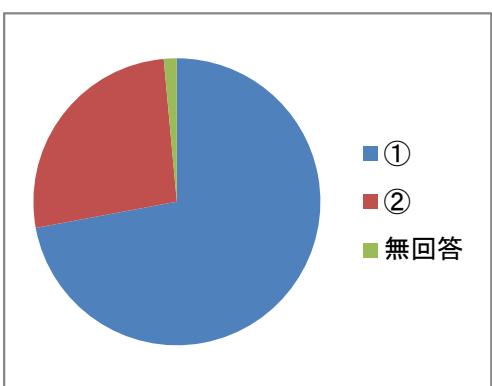
①	②	無回答
64	2	2



- ①知っている
②知らなかった

2-3君待橋伝承、白幡神社伝承、お茶の水伝承などが千葉氏の伝承であることを知っていますか

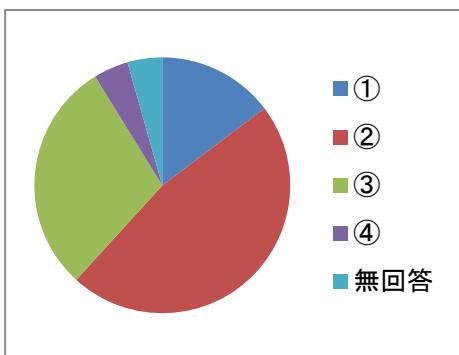
①	②	無回答
49	18	1



- ①知っている
②知らなかった

2-4千葉氏に関する話題が登場する機会はどれくらいありますか

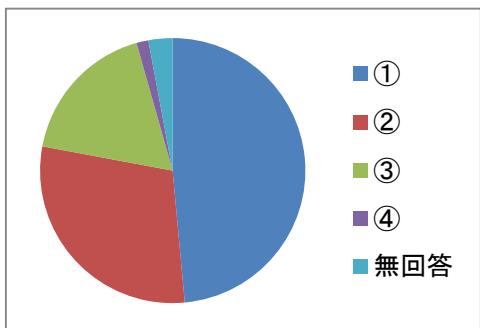
①	②	③	④	無回答
10	32	20	3	3



- ①たくさんある
②ときどきある
③あまりない
④まったくない

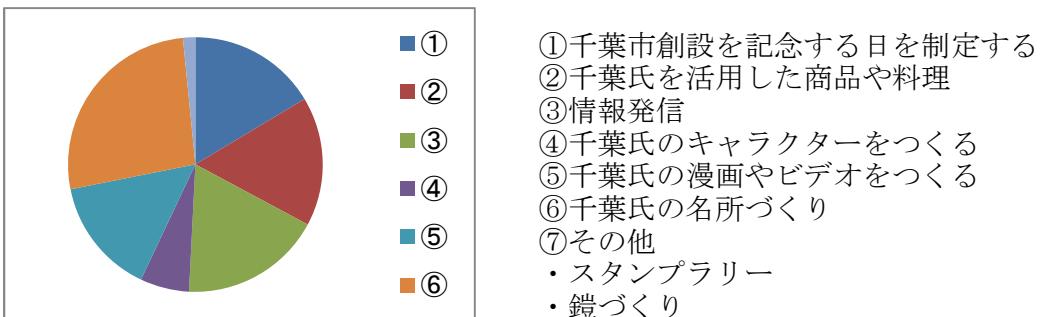
2-5千葉氏が千葉市に良いイメージ(印象)を与えていると思いますか

①	②	③	④	無回答
33	20	12	1	2



2-6千葉氏を通じて千葉市の特徴や魅力を高めるために何をしたら良いと思いますか

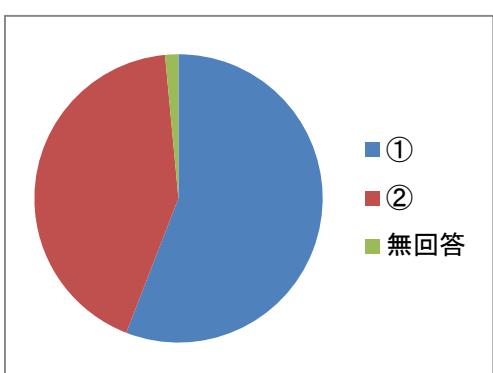
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
21	21	23	8	19	34	2



3 親子三代夏祭りについて

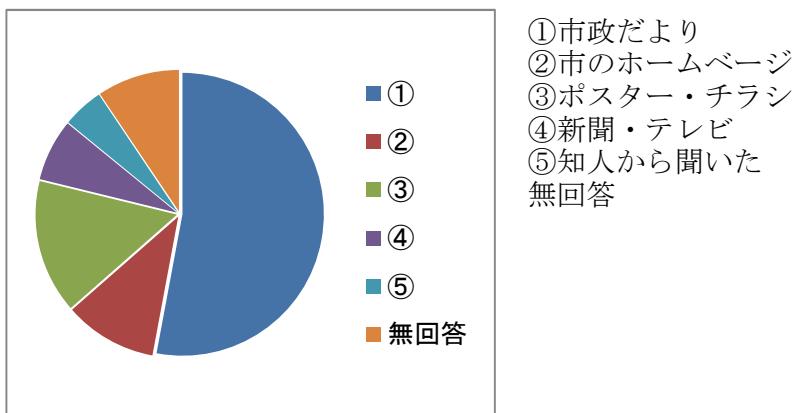
3-1親子三代夏祭りが千葉開府850年を記念して始められたことを知っていますか

①	②	無回答
38	29	1



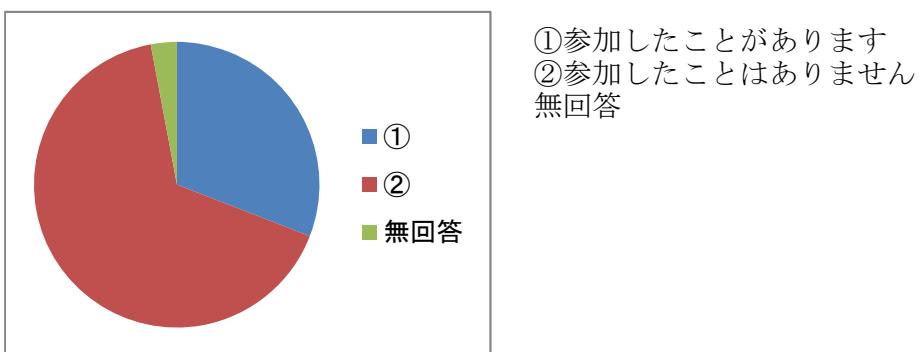
3-2親子三代夏祭りのことを何で知りましたか

①	②	③	④	⑤	無回答
45	9	13	6	4	8



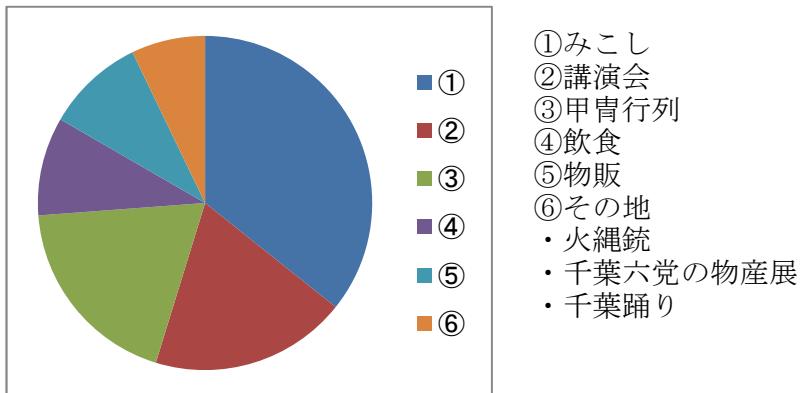
3-3親子三代夏祭りに参加したことはありますか

①	②	無回答
21	45	2



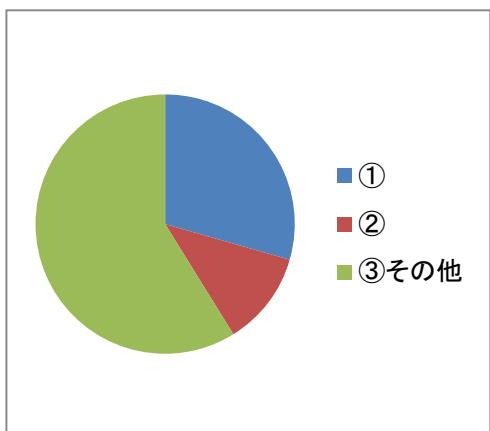
3-4親子三代夏祭りに参加した人に聞きます
親子三代夏祭りで良かったことは何ですか

①	②	③	④	⑤	⑥
15	8	8	4	4	3



3-5祭りで良くなかったもので改善してほしいものは何ですか

①	②	③その他
20	8	40



- ①祭りの名称を「千葉氏祭り」に変える
- ②案内体制の整備
- ③その他

4. 鎌倉視察

鎌倉北部の千葉氏ゆかりの史跡を訪ねる



寿福寺



頼朝法華堂



大藏幕府

◎ 実施期日 平成29年3月5日(日)

◎ 集合場所 鎌倉駅西口駅前公園

◎ 集合時間 10時集合

◎ 参加費 無料

◎ その他

◎ 日程

10:00集合

鎌倉駅西口 ————— 千葉地
(千葉屋敷) ————— 寿福寺 ————— 八坂大神 ————— 相馬師常
の墓

13:00

———— 鶴岡八幡宮 ————— 大倉幕府(頼朝邸) ————— 法華堂 ————— 荏柄天神(解散)

◎ 主催 千葉氏グループ

◎ 相手の都合がよければ鎌倉で活動を続けている人との交流も考えています。

◎ 記念写真



鶴岡八幡宮

4 海辺のまち活性化プロジェクト 政策提言



【研究員】大塚和美、河野久、佐藤紘孝、米田美樹子

目次

1 背景、現状・問題、方向性

1.1 背景

1.2 現状・課題

1.3 方向性

2 政策提言

2.1 昔と今がつながるアーバン里海

(1) うみまち、リ・デザイン

2.2 ひとが彩る海辺のまちと未来

(1) 千葉ビーチスマイルプロジェクト

(2) プロジェクト うみあそび

(3) 海辺経営委員会

2.3 集い、楽しみ、挑戦する創造の場

(1) 海辺拠点施設の整理と充実

2.4 オンリーワンと多様性の力を世界に発信

(1) クロス・カルチャー・コミュニティーへの取り組み

(2) 「防災スタイルラボ」（仮称）の設置

(3) 「アーバンビーチサミット」（仮称）の開催

2.5 歴史・自然・景観が気品と誇りを醸すエリア

(1) 富士山から来た神様も通る、せんげん通りの整備

(2) 遊びつくせる、海辺アクセスと回遊性の改善

1 背景、現状・問題、方向性

1.1 背景

(1) 国内初の人工海浜

習志野市津田沼から千葉市を中心とした沿岸は、その昔は白砂青松の地で、美しい干潟と 19 キロメートルもの海岸線が続いていました。

当時、潮干狩りの人気ポイントだった稻毛海岸は、「千葉海浜ニュータウン構想」により 1969 年（昭和 44 年）から本格的に始まった宅地造成のための埋め立てによって新たな住宅都市へと生まれ変わっていました。

1968 年（昭和 43 年）に埋め立て地の先端に稻毛海浜公園を造る計画が生まれ、企画段階での提案の中には「海浜公園に昔のような砂浜を」という案もありました。しかし、当時の日本では人工海浜を造成した事例がなく、実施するかは未知数でした。

5 年後の公園造成の埋め立て工事完了後の調査で、防波護岸外側に埋め立てた土が堆積して干潟ができ、人が歩ける状態だということがわかりました。これなら、さらに砂を盛れば人工海浜が実現できると新たに設計書が作成され、1975 年（昭和 50 年）より埋め立て地の沖合 3 キロメートルの海底から良質な砂を運び始め、海岸線に沿って全長 1,200 メートル・幅 200 メートルの浜の人工造成に成功しました。そして、翌年 4 月、日本初の人工海浜「いなげの浜」として一般公開されました。

(2) 人工海浜としての長さ日本一

日本は、周囲を海に囲まれている国なのでほとんどが海岸線。全国の海岸数 5,000 カ所以上あり、そのうち人工海浜を持つ海岸は 250 カ所近くあります。

国内にある人工海浜の中で、初めて誕生したのが「いなげの浜」で、長さが 1,200 メートル。

大規模な埋め立てにより急激に自然海浜が失われ、市民が触れ合える海がなくなったため新たなレクリエーション空間を創出することを目的として造成されたのが「検見川の浜」です。その長さは 1,300 メートル。

そして、「幕張の浜」は千葉県企業庁が進めていた「幕張海浜公園」の整備の一環として造成された人工海浜で、その長さは 1,820 メートルです。

3 つの浜の長さはトータルで 4,320 メートルとなり、人工海浜としては日本一の長さを誇ります。

隣り合う 3 つの人工海浜は、それぞれに個性ある整備が進められてきましたが、総延長約 6 キロメートルの散歩コース「浜辺プロムナード」でつながり、私たちに潮騒を聞きながら散策する楽しみを提供してくれています。

1.2 現状・課題

前提：稻毛の浜、検見川の浜、幕張の浜（一部）を俯瞰し検討を進めた。

- (1) 地区住民の高齢化と経済成熟化
- (2) 地域内居住外国人と障害者等多様性対応の遅れ
- (3) 来訪者の季節差に対応できる採算性と継続性確保

1.3 方向性

現状と課題を踏まえ、政策提言の方向性を次のとおり設定した。

- (1) 住環境に近接しており、資源を通じた地域課題の継続的解決が必要
- (2) 3 つある浜から、手つかずの「検見川の浜」をターゲットとして政策を提言する
- (3) 海辺活性化支援課を中心に、市民団体と活動を展開していく

2 政策提言

2.1 昔と今がつながるアーバン里海

1 目的

歴史と自然こそが、そこにある魅力であるということを伝える

2 理由

これまであったもの、見せ方、伝え方を今の価値にあわせ少しだけ変えることで、今の時代にあった里海の使い方を提案できる

3 内容

(1)さがす・みがく・名付ける・盛り上げる ローコスト活動

ア 保護地にちなんだ命名と営巣時の注意を促すBGM、天敵対策

イ 表参道を活用した検見川例祭、和装コスプレ、海辺の歴史展示、上映会

ウ 景観を活用したビーチステージイベント、フォトスポットの設定

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) 海辺ライター

・実際に海辺を利用する方、隣接する公園を利用する人が自らライターとなり、SNSで情報を発信する

5 ゴール（目指すべき姿）

(1) 市民が主体となった「海辺ライター」の養成

・3年程度の助走期間を経て、市民主体の「海辺ライター」の養成とスキルアップを行う。

6 必要な資源

(1) 海辺ライター養成講座に要する諸費用

・講師の報償費、会議室等の借上げ料、実習に伴う消耗品・印刷製本費等

(2) 海辺ライターの活動に要する諸費用

・ライティング費用、ボランティアのコーディネイト費等

2.2 ひとが彩る海辺のまちと未来

1 目的

海辺に集う人が海辺を彩り、活性化する

2 理由

同じ海辺に居ても知らない人同士であり、個別に海を楽しんで終わってしまっている

3 内容

(1) 千葉ビーチスマイルプロジェクト

- 思いやり、おもてなしスタイルブックの公表と配布による啓蒙と浸透
- ・知らない人と指定スポットで写真を撮影する
 - ・公共掲示板と募集掲示板の設置

(2) プロジェクト うみあそび

- 遊びを通じてもっと親しくなる
- ・海遊びリーダー、ビーチレンジャー、パークレンジャー
 - ・シニアによる外遊び教室
 - ・ジュニア、ビジネス、グローバル、ワークキャンプの開催

(3) 海辺経営委員会（仮称）

公共性と市場性の両立。維持発展のための仕組みづくりとひとつづくり

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) 海辺活性化支援課との連携

- ・市民活動団体との連携を行い、イベント企画の補助を行う

5 ゴール（目指すべき姿）

(1) 市からの持ち出しぜロ

- ・維持管理、マーケティング、多様性と異文化の地域課題に取り組み、専門家任せにしない経営品質判断力を身につける

(2) こども経営委員会

- ・こどもたちの豊かな発想でうみあそびを展開していく

6 必要な資源

海辺活性化支援課と連携し、情報発信を行う

2.3 集い、楽しみ、挑戦する創造の場

1 目的

海辺や公園にひとが集うための場所を整備する。

2 理由

海辺や公園にひとが交流する拠点がないため。

3 内容

海辺拠点施設の整理と充実

ア 検見川ビーチステーション

- ・仮設施設の整備

イ 稲毛ヨットハーバー

- ・既存施設の整備

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) 検見川ビーチステーションの利活用

- ・イベントの開催に合わせて拠点施設の開放と調査を行う

(2) 稲毛ヨットハーバーの利活用

- ・海辺活性化支援課と市民団体で、施設の一部利用に関する管理協定を締結する

5 ゴール（目指すべき姿）

(1) エリアマネジメント

- ・公共施設利活用マネジメントを行い、自立できる市民活動団体を育てる。

6 必要な資源

- ・施設の利活用に関する減免措置

- ・利用申請の簡略化

- ・駐車場を含む施設の転貸及び WIFI の整備

2.4 オンリーワンと多様性のチカラを世界に発信

1 目的

強みを活かしたこれからのアーバンビーチの提案をする

2 理由

海辺がバリアフリーになっていないので、車椅子や様々なカルチャーに触れる機会がないため、その機会を創出する

3 内容

(1) クロス・カルチャー・コミュニティへの取り組み

ア 車椅子で行けるビーチの提案

・海辺施設のバリアフリー化

イ 情報多言語化

・異文化イベント（既存イベントの拡大）

(2) 「防災スタイルラボ」（仮称）の設置

・稲毛海浜公園を広域の避難所と捉え、防災についての情報を発信する

(3) 「アーバンビーチサミット」（仮称）の開催

・都市型ビーチサミット、オリンピックビーチサミット

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

(1) 情報の収集と発信

・海辺活性化支援課が持っている情報と、情報発信手段を利用して市民活動団体と情報を共有し、発信を共に行う

5 ゴール（目指すべき姿）

・稲毛ヨットハーバーが拠点施設となり、人が集い情報を発信できる海辺となる

6 必要な資源

・稲毛ヨットハーバーの施設の一部管理及び駐車場を含む転貸の許可

2.5 歴史・自然・景観が気品と誇りを醸すエリア

1 目的

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックが終わっても継続して人を呼べるプランディング力を高める。

2 理由

日常楽しめる海辺エリアを作るためのストーリーを知る必要がある

3 内容

- (1) 富士山から来た神様も通る、せんげん松風通りの整備
 - ・富士山を望む賑わいと歴史の誇りを PR するための歴史散策マップを整備する。
- (2) 遊びつくせる、海辺アクセスと回遊性の改善
 - ・3 ビーチと周辺施設間のパークアンドライド無人シャトル導入
 - ・近隣駅と公園での乗り捨て可能レンタサイクルの導入

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1) 歴史散策マップの作製
 - ・海辺活性化支援課と近隣住民によるお散歩マップの作製
- (2) レンタサイクルの導入
 - ・近隣駅及び商業施設からのレンタサイクルの導入

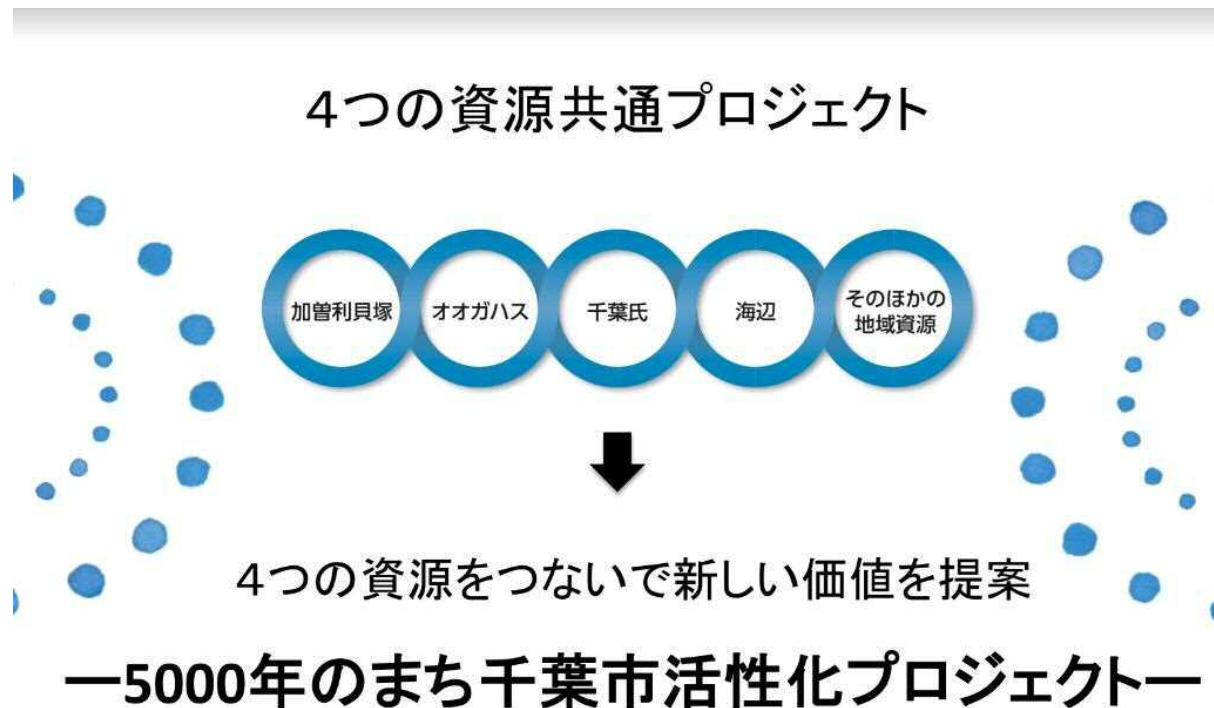
5 ゴール（目指すべき姿）

- ・誰でも気軽に廻れる、海辺拠点のツーリズム化

6 必要な資源

- ・海辺活性化支援課を通じた千葉市内協賛企業とのマッチング

5 4つの資源共通プロジェクト 政策提言



1 目的、方向性

これまで各資源毎に取り組むプロジェクトがについて提案したが、4つの資源をつなぐ取り組みを行うことで、新たな価値を創造するため「5000年のまち千葉市活性化プロジェクト」を提案する。

政策提言の3つの方向性は次のとおりである。

- (1) 4つの資源一体となった里海・里山自然環境整備
- (2) 未来のための4つの資源の郷土愛教育
- (3) 4つの資源をめぐるシティプロモーション

2 政策提言

2.1 4つの資源と一体となった里海・里山自然環境整備

1 目的

縄文の昔から5000人が住みつ続けた豊かな里海・里山のまち、そして自然環境・景観を5000年後の未来に受け継ぐこと。

2 理由

- (1) 4つの地域資源を育んだのは、本市が持つ地域特性である豊かな里海と里山をはじめとする緑と水辺の自然環境と景観である。これを5000年後の未来に受け継ぐことが、都市アイデンティを確立し継続するうえで、必要不可欠である。

(2) 緑と水の保全・創造のためにこれまで様々な取り組みが行われてきたが、都市アイデンティという新たなコンセプトから政策を見直し整理する必要がある。

3 内容

(1) 4つの資源を中心とした自然体験と環境整備

ア 加曽利貝塚

- ・縄文の森公園におけるパークレンジャー制度による自然体験
- ・縄文の森及び加曽利貝塚公園において、子どもたちが縄文体験や自然体験ができるテーマパークとして整備、利用する
- ・坂月川ネイチャーパス、散策路の整備、丸木舟レースなど

イ 大賀ハス

- ・千葉公園など市内のハス栽培地において、ハスの栽培体験を通じてハスの生態・文化等について学ぶ。
- ・大賀ハス発祥の地である旧東大緑時実験所及び東大検見川グラウンドの保存整備

ウ 千葉氏

- ・律令制度化の東海道の復元
- ・亥鼻山周辺の千葉氏と関わる周辺寺社を千葉城と一体化した猪鼻城跡公園もしくは風致地区として保全・整備する。

エ 海辺

- ・うみどりの渚：市の鳥コアジサシの保護地に因んだ命名と営巣地の保護・保全対策
- ・富士山から来た神様も通る、せんげん松風通りの整備

(2) 4つの資源とその周辺環境を楽しめるVRミュージアム

最近のIT技術を活用し、4つの資源の過去・現在・未来を視覚的に体験できるVRミュージアムのコンテンツを制作しスマートフォンで発信し、4つの資源に対する理解を深める。

ア 加曽利貝塚：縄文時代の村や人々の生活を復元イメージで提供する

イ 大賀ハス：蓮の開花期以外でも満開のハスをVRで見られる。

ウ 千葉氏：千葉城を背景に、千葉氏関連の武将や街並みを再現する。

エ 海辺：埋立て以前の豊饒な海の自然や祭りのイメージを再現する。

2.2 未来のための4つの資源の郷土愛教育

1 目的

郷土愛の育成を目的とした4つの資源について学習する機会を増やす。

2 理由

- (1) 都市アイデンティに係るアンケート調査等によれば、4つの地域資源についての認知度や理解度をもっと高める必要がある。
- (2) 前記を高めるためには、小学校等の学校教育における学習を通じて行うのが、最も効

果的である。

(3) 千葉市内の小学校を対象に、今日を郷土愛教育を実施する必要がある。

3 内容

(1) 4つの資源を学ぶモデル校指定

- ・2018年から6区において各2校、12校の小学校にて郷土愛教育を実施する。
- ・2030年までに市内全小学校111校にて実施を完了する。

(2) 各資源の出張講座

- ・各資源について理解を深めるため、市民等を対象に出前講座を積極的に行う。

(3) こどもサミット(こども議会)

- ・将来を担う子どもたちによる4つの地域資源について理解と創造的な提案をするため「子どもサミット(こども議会)」を開催する。

2.3 4つの資源によるまちづくりマーケティング

1 目的

4つの資源によるまちづくりマーケティングによって、千葉市らしさのイメージ戦略を多面的に推進し、都市アイデンティティを確立する。

2 理由

(1) 千葉市らしさのイメージ戦略に対するマーケティングが不十分である。

(2) 都市アイデンティティの確立のために、マスメディアが十分活用されていない。

(3) 4つの資源に対する周知度や愛着度を市内外に高める必要がある。

3 内容

(1) ラジオ等マスメディアルにメッセージの発信

- ・千葉市の広報ラジオ番組『ベイ・モーニング・グローリー』において、「4つの資源によるまちづくり」のメッセージを毎週5分程度紹介する。(※)

※京都市では「歩くまち・京都」のモビリティマネジメントの一環として、交通まちづくりマーケティングを毎年2千万円の予算で、5年間継続して行った結果、「4割以上の市民」がこの交通まちづくりマーケティングの情報に接し、それを通じて「クルマを控えよう」という京都市民の数が「17%増加」している、という大きな成果を上げている。(出典:藤井聰「クルマを捨ててこそ地方は甦る」2017)

(2) 小学校の授業の展開

- ・未来のための4つ資源の郷土愛教育(既出)

(3) プロモーション情報の提供

- ・4つの資源をめぐるシティプロモーション(既出)

(4) 4つの資源巡りの成田空港でのPRとツアーバスの発着

- (5) モノレール「フリーきっぷ」を使った「4つの資源巡り」を千葉あそびのプランとして季節ごとに企画・実施する
- (6) 千葉駅（千葉氏、大賀ハス）、千葉公園駅（大賀ハス）、桜木駅（加曽利貝塚）、千葉みなと駅（海辺）でのシンボルロードづくり

4 ファーストアクション（最初に先ず行う取り組み）

- (1) ベイ・モーニング・グローリーのコンテンツを見直し、4つの資源のイメージ戦略を積極的かつ継続的に情報発信する。
- (2) 小学校における4つの資源の学習モデル校を平成30年度から指定し、概ね5年間で市内全校の小学校で展開する。
- (3) 広報、観光、都市、教育など様々な部門で4つの地域資源のプロモーション活動を積極的に展開する。

5 ゴール（目指すべき姿）

- (1) 4つの資源の活用による都市イメージが定着し、千葉市に住み続ける市民、千葉に移り住みたい人が増える。
- (2) 4つの地域資源の保全・活用のために、市民や企業が積極的に関わるようになる。

6 必要な資源

- ・マーケティング調査、プロモーション活動等に係る諸費用
- ・京都市では、約2千万円の予算を5年間継続して「歩くまち・京都」のマーケティングを行い、大きな成果を上げている。

（参考資料）京都市の事例

市民しんぶん等を活用したモビリティ・マネジメント (H23.8.15)

市民しんぶん各区版(平成23年8月15日号)挟み込みを活用した呼びかけ

KBS京都ラジオと連携した情報提供

- KBS京都ラジオと連携して、「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」番組内で「歩くまち・京都タイム」と題したコーナーを放送
- “コーナー”では、毎回メンテーターを招いて、「かしこいクルマの使い方」に関する情報を配信

【放送番組】

- 『笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ』
- 毎週月～金曜日 6:30～10:00 番組内



【放送日時】

- 2011年9月5日(月)～12月2日(金)
- 毎週月～金曜日 7:01～7:06(5分間)
- 番組パーソナリティ 笑福亭晃瓶さん・中村薫さん

小学生を対象としたコミュニケーション(H21～)

小学5年生を対象とした環境副読本に「かしこいクルマの使い方」を呼びかける情報を記載し、学校教育で活用



今後の活動

提言の実現にむけて次の活動を行っていく。

- 1 千葉市各種関係機関と実施にむけた調整
- 2 関係団体と実施にむけた調整
- 3 提言実施にむけた継続的活動の実施